

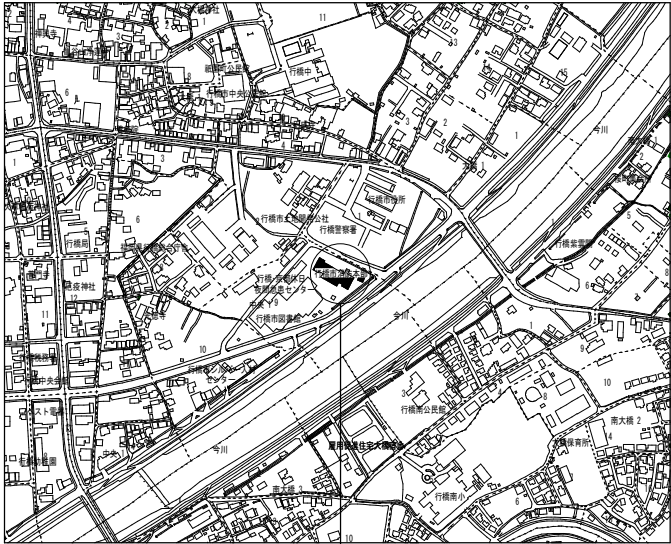
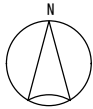
行橋市消防庁舎車庫改修工事

図面リスト

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A-01	建築工事特記仕様書(1)	S-01	構造特記仕様書(1)	M-01	機械設備工事特記仕様書(1)	E-01	電気設備工事特記仕様書
A-02	建築工事特記仕様書(2)	S-02	構造特記仕様書(2)	M-02	案内図・配置図	E-02	案内図・配置図
A-03	建築工事特記仕様書(3)	S-03	構造特記仕様書(3)	M-03	改修後 1階 平面図	E-03	凡例・壁結線図・照明器具参考図
A-04	建築工事特記仕様書(4)	S-04	構造特記仕様書(4)	M-04	改修後 矩形図	E-04	改修後 電灯・コンセント設備1階平面図
A-05	案内図・配置図	S-05	構造特記仕様書(5)			E-05	改修後 弱電 1階平面図
A-06	求 積 図	S-06	構造特記仕様書(6)			E-06	改修前 電灯・コンセント設備1階平面図
A-07	仕上げ表	S-07	構造特記仕様書(7)			E-07	改修前 弱電 1階平面図
A-08	1階 改修前 平面図	S-08	構 造 図				
A-09	2階 改修前 平面図						
A-10	1階 改修後 平面図						
A-11	改修前・改修後 立面図						
A-12	改修前 矩形図						
A-13	改修後 矩形図						
A-14	改修後 平面詳細図・建具表						
A-15	展 開 図						
A-16	改修前・改修後 天井伏図 屋根伏図						

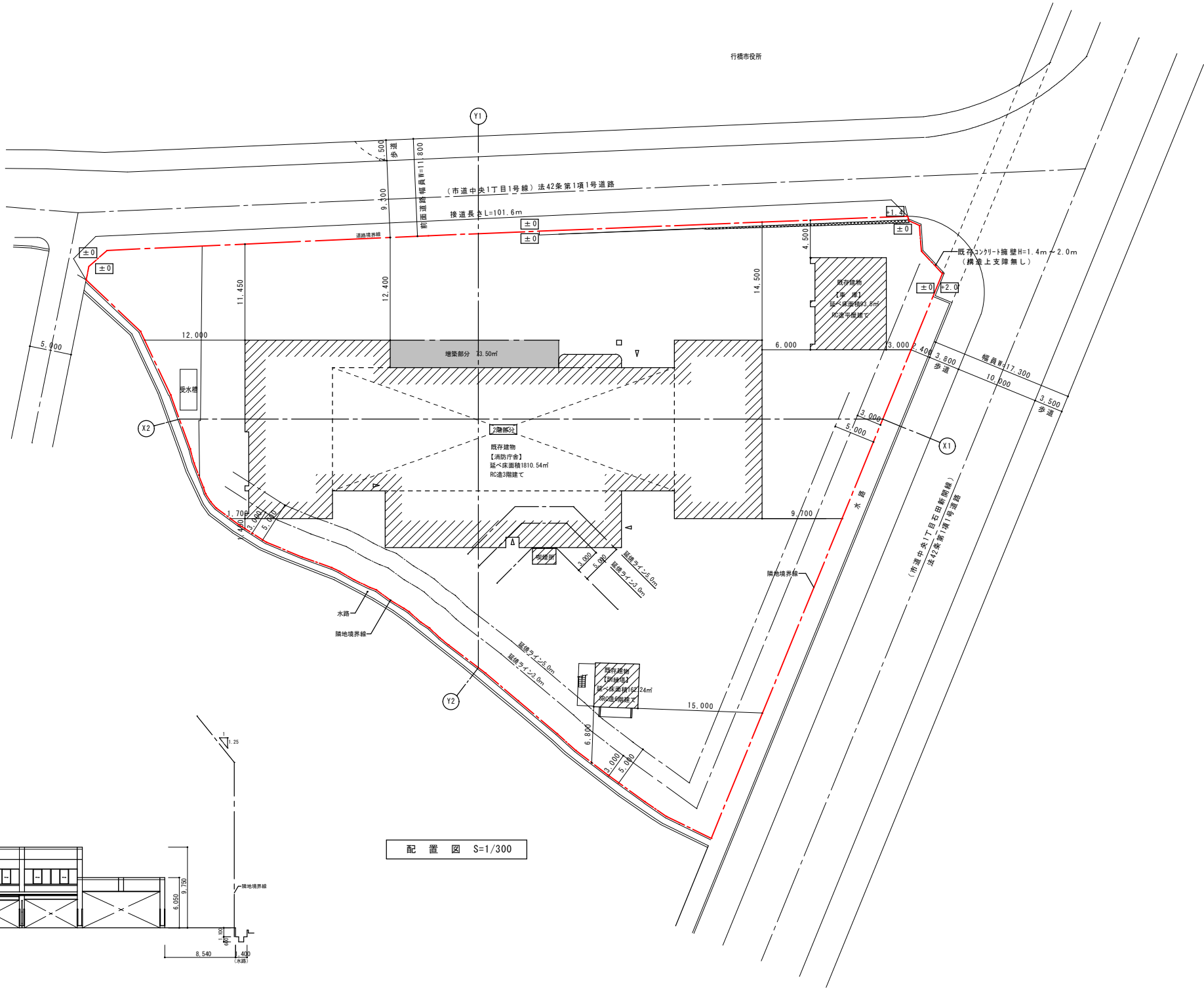
鉄骨工事	⑧	柱底均しモルタル	種別 ※A種 ・B種 (7.2.9)(7.10.3)(表7.10.2)	1. 屋内の床の清掃
		溶接部の検査	A00L ※4.0% ・2.5% 検査水準 ※第6水準 ・図示 (7.6.12) 試験の種類 試験箇所 採取方法 ※超音波探傷試験 ・放射線試験 ・マクロ試験	2. 材 料 (10.2.1)(10.7.2)(10.7.3)(表10.2.1)(表10.2.2) 壁及びその他(床を除く)の石材 ※1等品 ・() 施工箇所 種類・産地・名称 厚さ(mm) 仕上げの種類 備考 本磨き
		塗料の種類	SRC造の溶接された鋼製スリーブの内面 (7.8.4) ※表18.3.1 鉄鋼面錆止め塗料の種類 A種	3. 取付金物 (10.2.2) ・外壁湿式工法及び内壁空積工法用金物 材質 ※SS400 ・() 寸法 ※L=75x75x6 L=100又は150mm (A種錆止め) ・() ・乾式工法用金物 材質 ※SUS304 (表10.2.4) ・スライド方式 ・ロッキング方式 ・() ・その他金物の材質、形状及び寸法
		耐火被覆材の接着面	耐火被覆材の接着面 (7.9.2) ・ラス張りモルタル塗り ○耐火材吹付け ・耐火板張り ○耐火材巻付け ※所用性能は図面図示による ・()	4. 外壁湿式工法 (10.3.2) 石材の厚さ ※有効厚さ 25mm以上 ・() 石裏面処理 ・行う ・行わない 裏打ち処理 ・行う ・行わない 下地ごしらえ ※流し筋工法 ・() (10.3.3) 目地幅 ※6mm以上 ・()
		耐火被覆材の種類及び性能	・ラス張りモルタル塗り ○耐火材吹付け ・耐火板張り ○耐火材巻付け (7.9.2) ※所用性能は図面図示による ・()	5. 内壁空積工法 (10.4.2) 石材の厚さ ※有効厚さ 20mm以上 ・() 下地ごしらえ ※あと施工ｱﾝｶｰ・横筋流し工法 ・あと施工ｱﾝｶｰ工法 (10.4.3)
		ｱﾝｶｰﾙ等の設置	建方用ｱﾝｶｰﾙの保持及び埋込み工法 (7.10.3)(表7.10.1) 種別 ・A種 ※B種 ・C種	6. 乾式工法 (10.5.2) 石材の厚さ 外壁 ※有効厚さ 30mm以上 ・() 内壁 ※有効厚さ 25mm以上 ・() 石裏面処理 ・行う ・行わない 裏打ち処理 ・行う ・行わない 目地幅 ※8mm以上 ・() (10.5.3) 石の品質 ※2等品 ・() (10.6.2)(10.6.3)(表10.2.1)(表10.2.2) 施工箇所 種類・産地・名称 厚さ(mm) 仕上げの種類 備考 ※粗磨き・() ※粗磨き・()
		床パネルの耐火性能	床パネルの耐火性能 ・要 ・不要 ※厚物 (厚さ50mm以上) (8.5.2)(表8.5.1)(表8.5.2) 種類 ※JIS A 5441 施工箇所 表面形状 厚さ(mm) 工 法 耐火性能 ・外 壁 ※フラットパネル ・デザインパネル(図示) ・タイルベースパネル ・50・60・() ・50・60・() ・60・() ・B種 ・C種 ・無し ・有り() ・無し	7. 床及び階段の石張り (10.7.3) 石裏面処理 ・行う ・行わない 目地幅 屋内 ・(mm) 屋外 ・(mm) 笠木、甲板等の乾式工法の場合は行う。 ・監督員の承諾による ・() 同等以上
		押出成形ﾓﾉﾃﾞｰﾄﾞ	※厚物 (厚さ50mm未満) (8.5.2)(表8.5.1)(表8.5.2) 種類 ※JIS A 5441 施工箇所 表面形状 厚さ(mm) 耐火性能 ・外 壁 ※フラットパネル ・デザインパネル(図示) ・50・60・() ・50・60・() ・60・() ・B種 ・C種 ・無し ・有り()	8. 石裏の補強用モルタル (10.7.3) 石裏面処理 ・行う ・行わない 目地幅 屋内 ・(mm) 屋外 ・(mm) 笠木、甲板等の乾式工法の場合は行う。 ・監督員の承諾による ・() 同等以上
		製造所	() 同等以上 ・評価名簿による	9. 製造所及び施工業者 (11.2.2) 1. タイル (11.2.2) タイルの試験張り ※行わない ・行う タイルの見本焼き ※行わない ・行う 2. 陶磁器質タイル張り及びタイル型枠先付け (11.2.2) 施工箇所 形状・寸法 磁器 せっ器 陶器 無釉 施釉 有 無 標準 特注 焼き 備考 床:床 150角 客溜り:床 150角 床:床 300角 玄関:床 300角 勝手口:床 300角 玄関:巾木 300角 勝手口:巾木 300角 床:床 300角 下地及びタイルごしらえ ・MCR工法 ・目荒らし工法 ・() (11.2.7) 壁タイル張りの工法 ※「標仕」表11.3.2Iによる ・() ・タイル型枠先付け工法 種類 ・タイルシート法 (小口タイル、二丁掛タイル) ・() タイル型枠先付け面のせき板の種類 ※(6.8.3)(b) (2)又は金属性タイル先付け用パネル ・() ※打診による確認 ※接着力試験 (11.1.5)
		製造所	() 同等以上 ・評価名簿による	3. 施工後の確認及び試験 (11.1.5) 1. 木材 (12.2.1)(表12.2.3) 代用樹種を適用しない箇所 () 木材含水率 ※A種 ・B種 造作材の品質 ※A種 ・B種 ・集成材 (12.2.1) 施工箇所 品質等 樹 種 等 備考 上り框 75×100 市販品 ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆のもの ・() (12.2.1) ○構造用合板=24 ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆のもの ・() (12.2.2) 木材保存剤 (木材の防霉・防蟻処理)は、クロルピリホス等を含有しない非有機リン系とする。 環境に配慮した表面処理防霉剤 種類・品質 () (12.3.1) 防霉・防蟻処理の方法 工場における加圧式とし、十分に乾燥をおこなう。 ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に对应し、現場にて木材保存剤を塗布することとする。 防蟻処理 「防蟻施工標準仕様書並びに安全管理」((社)日本しろあり対策協会)による。 防蟻期間5年。専門業者の責任施工とし、報告書を提出すること。 施工箇所・図示による () 工事区分 ※予防工事 ・予防工事と駆除工事 土壌処理の方法 ・帯状散布処理法 ・面状散布処理法 ・加圧注入処理法 木材処理の方法 ・吹付け処理法 ・塗布処理法 ・浸漬処理法 ・穿孔注入処理法 ・穿孔吹付け処理法 ・()
製造所	() 同等以上	2. 長尺金属板葺 (13.2.2) 屋根葺形式 長尺金属板の種類 板厚(mm) 備考 ・瓦葺葺き(嵌合タイプ) ※塗装溶融55%アルミニウム ・亜鉛メッキ鋼板及び銅板 0.4mm 施工業者 ※監督員の承諾による ・() 同等以上 (13.3.2) 材 種 形式による区分 山高及びピッチ 板厚(mm) 耐力による区分 ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ※重ね形又ははね難形 山高 (88) ピッチ () 0.6mm () 種 ○平ﾊﾞﾙﾄﾞ鋼板 (S57)		
製造所	() 同等以上	軒先戸板 ※有り ・無し 施工業者 ※監督員の承諾による ・() 同等以上		

鉄骨工事	⑨	7&1/2㎜製建具	1. 7&1/2㎜製建具 (16.2.2～4)(表16.2.1) 網の材質 ※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製 (16.2.3～4) 簡易気密型ドアセットの性能値 (16.4.2) ※適用する (※A-3 ・) ・適用しない 亜鉛めっき鋼板のめっき付着量 ※Z12又はF12 ・() (16.4.3) 鋼板の厚さ ※「標仕」表16.4.2Iによる ・建具表による (16.4.4) 簡易気密型ドアセット ※適用する (※A-3 ・) ・適用しない (16.5.2) ビニール被覆鋼板 ・適用する ・適用しない (16.5.3) カラー鋼板 ・適用する ・適用しない 召合わせ、縦小口包み板などの材質 ※鋼板 ・ステンレス鋼板 ・() 材質 ※SUS304 ・() 表面仕上げ ※HL仕上げ ・() (16.6.2～5) 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ	2. 網戸 (16.2.3～4) 網の材質 ※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製 (16.2.3～4) 簡易気密型ドアセットの性能値 (16.4.2) ※適用する (※A-3 ・) ・適用しない 亜鉛めっき鋼板のめっき付着量 ※Z12又はF12 ・() (16.4.3) 鋼板の厚さ ※「標仕」表16.4.2Iによる ・建具表による (16.4.4) 簡易気密型ドアセット ※適用する (※A-3 ・) ・適用しない (16.5.2) ビニール被覆鋼板 ・適用する ・適用しない (16.5.3) カラー鋼板 ・適用する ・適用しない 召合わせ、縦小口包み板などの材質 ※鋼板 ・ステンレス鋼板 ・() 材質 ※SUS304 ・() 表面仕上げ ※HL仕上げ ・() (16.6.2～5) 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ
		鋼製建具	建具材の加工、組立時の含水率 ・A種 ※B種 ・C種 (表16.7.1)(16.7.2～4) 合板 ※普通合板 ・天然木化粧合板 ・特殊加工化粧合板 ホルムアルデヒドの放散量がJASで定める F☆☆☆☆等級のもの ・() ミディアムデンシティファイバーボード (MDF) 及びパーティクルボード ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆等級のもの ・F☆☆☆☆等級のもの かまち戸の樹種 かまち () 鍍板 () ふすまの上張り ・新鳥の子程度又はビニル紙覆装 ・鳥の子 フラッシュ戸の表面板の厚さ ※「標仕」表16.7.6Iによる ・() 見本品を監督員に提出して承諾を受ける。 (表16.8.1)(16.8.2～4) マスターキー ※製作する (※新規 ・既存に合わせる) ・製作しない 建具金物の種類 (表16.8.1) モノロック 本締り付きモノロック シリンドリッド錠 本締り錠 ドアクロザー 棒錠錠 ピボットヒンジ ヒンジクロザー フロアヒンジ 評価名簿による。	
		鋼製軽量建具	建具材の加工、組立時の含水率 ・A種 ※B種 ・C種 (表16.7.1)(16.7.2～4) 合板 ※普通合板 ・天然木化粧合板 ・特殊加工化粧合板 ホルムアルデヒドの放散量がJASで定める F☆☆☆☆等級のもの ・() ミディアムデンシティファイバーボード (MDF) 及びパーティクルボード ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆等級のもの ・F☆☆☆☆等級のもの かまち戸の樹種 かまち () 鍍板 () ふすまの上張り ・新鳥の子程度又はビニル紙覆装 ・鳥の子 フラッシュ戸の表面板の厚さ ※「標仕」表16.7.6Iによる ・() 見本品を監督員に提出して承諾を受ける。 (表16.8.1)(16.8.2～4) マスターキー ※製作する (※新規 ・既存に合わせる) ・製作しない 建具金物の種類 (表16.8.1) モノロック 本締り付きモノロック シリンドリッド錠 本締り錠 ドアクロザー 棒錠錠 ピボットヒンジ ヒンジクロザー フロアヒンジ 評価名簿による。	
		ステンレス製建具	建具材の加工、組立時の含水率 ・A種 ※B種 ・C種 (表16.7.1)(16.7.2～4) 合板 ※普通合板 ・天然木化粧合板 ・特殊加工化粧合板 ホルムアルデヒドの放散量がJASで定める F☆☆☆☆等級のもの ・() ミディアムデンシティファイバーボード (MDF) 及びパーティクルボード ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆等級のもの ・F☆☆☆☆等級のもの かまち戸の樹種 かまち () 鍍板 () ふすまの上張り ・新鳥の子程度又はビニル紙覆装 ・鳥の子 フラッシュ戸の表面板の厚さ ※「標仕」表16.7.6Iによる ・() 見本品を監督員に提出して承諾を受ける。 (表16.8.1)(16.8.2～4) マスターキー ※製作する (※新規 ・既存に合わせる) ・製作しない 建具金物の種類 (表16.8.1) モノロック 本締り付きモノロック シリンドリッド錠 本締り錠 ドアクロザー 棒錠錠 ピボットヒンジ ヒンジクロザー フロアヒンジ 評価名簿による。	
		木製建具	建具材の加工、組立時の含水率 ・A種 ※B種 ・C種 (表16.7.1)(16.7.2～4) 合板 ※普通合板 ・天然木化粧合板 ・特殊加工化粧合板 ホルムアルデヒドの放散量がJASで定める F☆☆☆☆等級のもの ・() ミディアムデンシティファイバーボード (MDF) 及びパーティクルボード ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆等級のもの ・F☆☆☆☆等級のもの かまち戸の樹種 かまち () 鍍板 () ふすまの上張り ・新鳥の子程度又はビニル紙覆装 ・鳥の子 フラッシュ戸の表面板の厚さ ※「標仕」表16.7.6Iによる ・() 見本品を監督員に提出して承諾を受ける。 (表16.8.1)(16.8.2～4) マスターキー ※製作する (※新規 ・既存に合わせる) ・製作しない 建具金物の種類 (表16.8.1) モノロック 本締り付きモノロック シリンドリッド錠 本締り錠 ドアクロザー 棒錠錠 ピボットヒンジ ヒンジクロザー フロアヒンジ 評価名簿による。	
		自動ドア開閉装置	開閉装置の性能値 スライディングドア用 ※「標仕」表16.9.1Iによる ・() (16.9.2～3) スイングドア用 ※「標仕」表16.9.2Iによる ・() 駆動力 ※電気式又は電動油圧式 ・() 電源 ※単相100V (過電流保護装置付) ・() センサの種類 ※熱線 ・() 補助センサ ※安全光線スイッチ1組 ・() 工事範囲 一次側配線は別途工事とし、開閉機構以降の二次側配線は本工事に含む。	
		重量シャッター	機能による種類 (16.11.2～4) 一般 ・防火 (・外壁用 ・屋内用) ・防塵 シャッターケース (防火、防塵以外の場合) ・設ける ・設けない (16.11.2) 開閉機能による種類 (表16.11.1) ※上部電動式 (手動併用) 電源※ ϕ V kw 以下 (過電流保護装置付) ・上部手動式 耐風圧強度 ・() 耐火、防煙シャッターの危害防止機構 ※障害物感知装置 ・シャッターの二段降下方式 工事範囲 一次側配線は別途工事とし、開閉機構以降の二次側配線は本工事に含む。	
		軽量シャッター	開閉機能による種類 (16.12.2～4)(表16.12.1) ※手動式 ※上部電動式 (手動併用) 電源※ ϕ V kw 以下 (過電流保護装置付) 耐風圧強度 ・() スラットの形状 ※インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 工事範囲 一次側配線は別途工事とし、開閉機構以降の二次側配線は本工事に含む。	
		オペーﾊﾞｰﾄﾞｱ	セクション材料 ※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ (16.13.2) 開閉方式 ※バラン式 ・チェーン式 ・電動式 収納方式 ・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイルフト形 ガイドレール ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板 (SUS304) (16.13.3) 耐風圧性能 ・()	
		ガラス	建具に取り付けるガラス及びガラスブロックは図面図示 (建具表) による。 (16.14.2) ガラス留め材 (16.14.2.(b))(16.14.3)(表16.14.1) 建具の種類 材 種 アルミニウム製 ○シーリング材 (SR-1) 鋼製、ステンレス製 ※シーリング材 (SR-1) ただし、防火戸は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。	
メタルカーテンウォール	(17.1.3)(17.2.2) 主要構成材料 ※アルミニウム製 ・ステンレス製 気密性 ・A-3 ・A-4 ・() 水密性 ・B-4 ・B-5 ・() 枠の見込み寸法 ※図示 表面処理 ・A-1種 ・B-1種 ・() 耐食性 (層間変位量) ※±1/200h以上 ・() 耐食性 ・T-3 ・T-4 ・() 断熱性 ・H-4 ・H-5 ・() 耐火性 ・適用しない ・適用する () 時間 耐風圧性能 ※建築基準法で定められた風圧力に対して安全であること。 ・正圧 kg/㎡以上及び負圧 kg/㎡以上に対して安全であること			
行橋市消防庁舎車庫改修工事	図面名称 建築工事特記仕様書(2) (株) エム・ピー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事8丁目8-10 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 真也 一級建築士 大臣登録第223559号			
尺 度	図面番号 A-02			
日 付	R02.08			
備考				

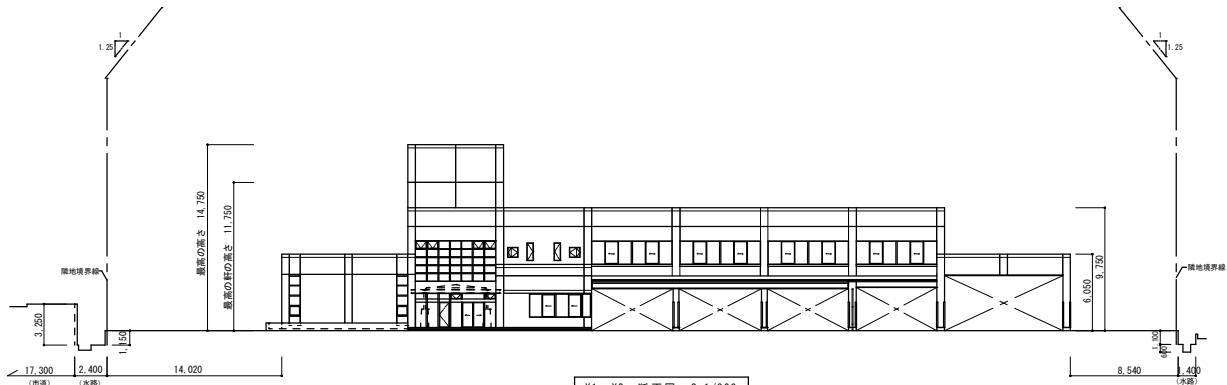


福岡県行橋市中央1丁目9番9号

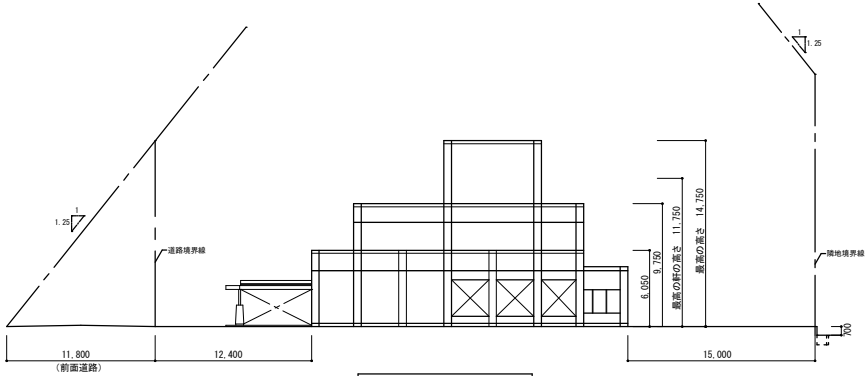
案内図 No. Scale



配置図 S=1/300



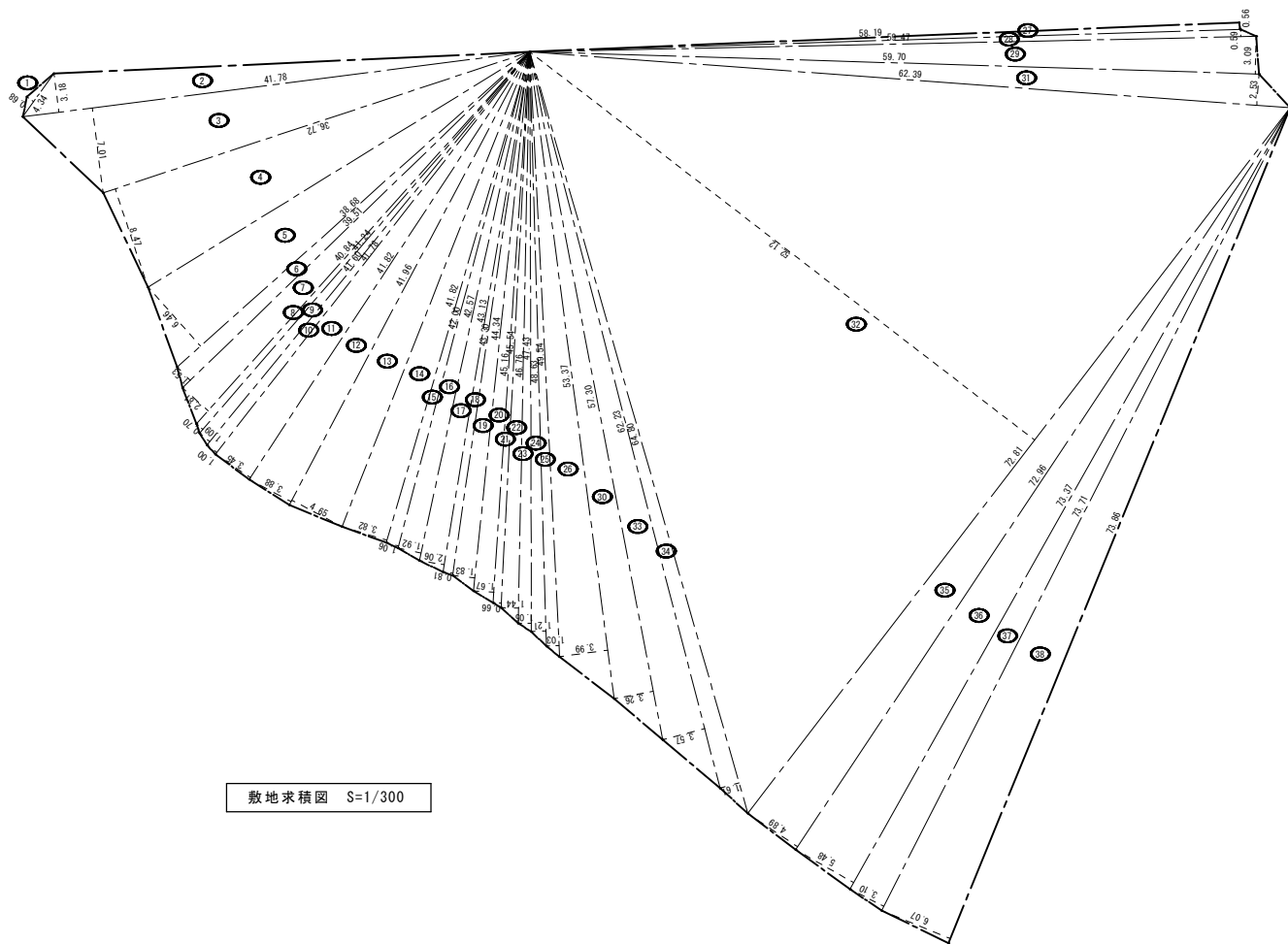
X1~X2 断面図 S=1/300



Y1~Y2 断面図 S=1/300

既存建物	確認年月日	確認番号	完了検査
消防庁舎	昭和59年8月2日	第270号	第270号
訓練塔	昭和59年8月2日	第270号	第270号
防災倉庫	平成7年3月2日	H06認建行土001051号	

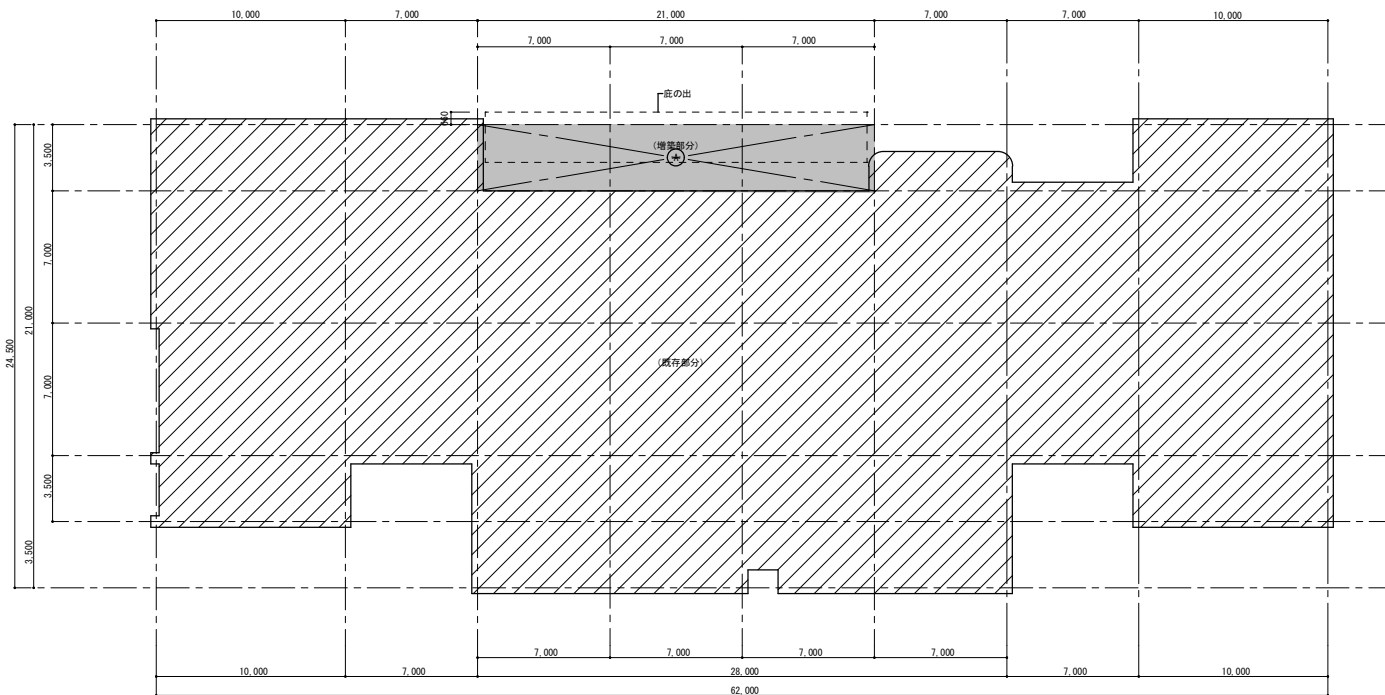
全体面積表						
床面積	既存部分				増築部分	合計
	消防庁舎	訓練塔	車庫	喫煙所	消防庁舎	
1 階	1205.15	27.04	93.50	4.97	73.50	1404.16
2 階	549.70	27.04				576.74
3 階	55.69	27.04				82.73
4 階		27.04				27.04
5 階		27.04				27.04
6 階		27.04				27.04
計	1810.54	162.24	93.50	4.97	2071.25	2144.75
建築面積	1281.43	38.80	95.70	4.97	1420.90	1494.40
敷地面積	4486.64	建ぺい率				33.31%
		容積率				47.80%
用途地域	第2種住居地域	建ぺい率 60% / 容積率 200%				
車庫部分の面積	消防庁舎	389.09	車庫	93.50		482.59



敷地求積図 S=1/300

敷地求積表

番号	底辺	高さ	積面	面積
1	4.34	0.68	2.9512	1.47560
2	41.78	3.18	132.8604	66.43020
3	41.78	7.01	292.8778	146.43890
4	36.72	8.47	311.0184	155.50920
5	38.68	6.46	249.8728	124.93640
6	39.51	1.53	60.4503	30.22515
7	40.84	2.81	114.7604	57.38020
8	41.24	0.70	28.8680	14.43400
9	41.60	1.09	45.3440	22.67200
10	41.78	1.00	41.7800	20.89000
11	41.82	3.45	144.2790	72.13950
12	41.96	3.88	162.8048	81.40240
13	41.96	4.65	195.1140	97.55700
14	41.82	3.82	159.7524	79.87620
15	42.00	1.06	44.5200	22.26000
16	42.57	1.92	81.7344	40.86720
17	43.13	2.06	88.8478	44.42390
18	43.30	0.81	35.0730	17.53650
19	44.34	1.83	81.1422	40.57110
20	45.16	1.67	75.4172	37.70860
21	45.54	0.66	30.0564	15.02820
22	46.76	1.44	67.3344	33.66720
23	47.43	1.05	49.8015	24.90075
24	48.63	1.21	58.8423	29.42115
25	49.54	1.03	51.0262	25.51310
26	53.37	3.99	212.9463	106.47315
27	58.19	0.56	32.5864	16.29320
28	59.47	0.59	35.0873	17.54365
29	59.70	3.09	184.4730	92.23650
30	57.30	3.26	186.7980	93.39900
31	62.39	2.53	157.8467	78.92335
32	72.81	52.12	3,794.8572	1,897.42860
33	62.23	3.57	222.1611	111.08055
34	64.80	1.61	104.3280	52.16400
35	72.96	4.89	356.7744	178.38720
36	73.37	5.48	402.0676	201.03380
37	73.71	3.10	228.5010	114.25050
38	73.86	6.07	448.3302	224.16510
合計				4,486.64305
敷地面積				4,486.64 m ²



床面積求積図 S=1/200

消防庁舎面積表					
床面積求積表			建築面積求積表		
符号	算式	面積	符号	算式	面積
㊶	21,000 × 3,500	73,5000	㊶	21,000 × 3,500	73,5000
計		73,5000	計		73,5000
	既存部分	増築部分		既存部分	増築部分
1 階	1205.15	73.50		1281.43	73.50
2 階	549.70				
3 階	55.69				
計	1810.54	73.50			
延床面積	1810.54 + 73.50 = 1884.04		建築面積	1281.43 + 73.50 = 1354.93	

特記事項

(株) エム・ピー・アイ 一級建築士事務所
福岡県知事登録第1-20757号
福岡県行橋市行事8丁目8-10
TEL 0930-26-1101
代表取締役 松尾 真也
一級建築士 大臣登録第223659号

工事名称

行橋市消防庁舎車庫改修工事

図面名称

求積図

縮尺

S=1/300
S=1/200

製図年月日

2020年08月

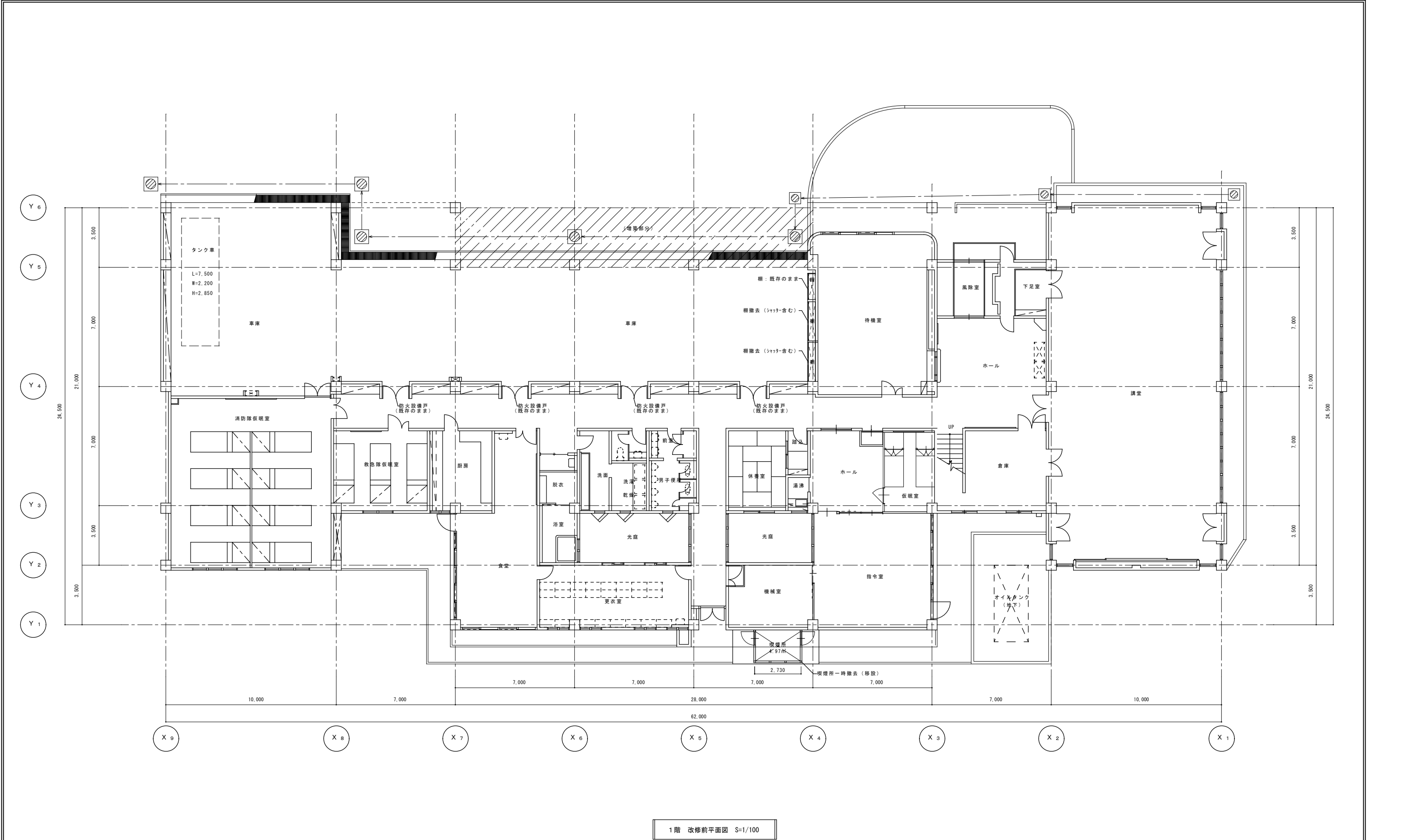
所長

検図

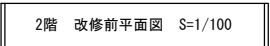
作図

A-06

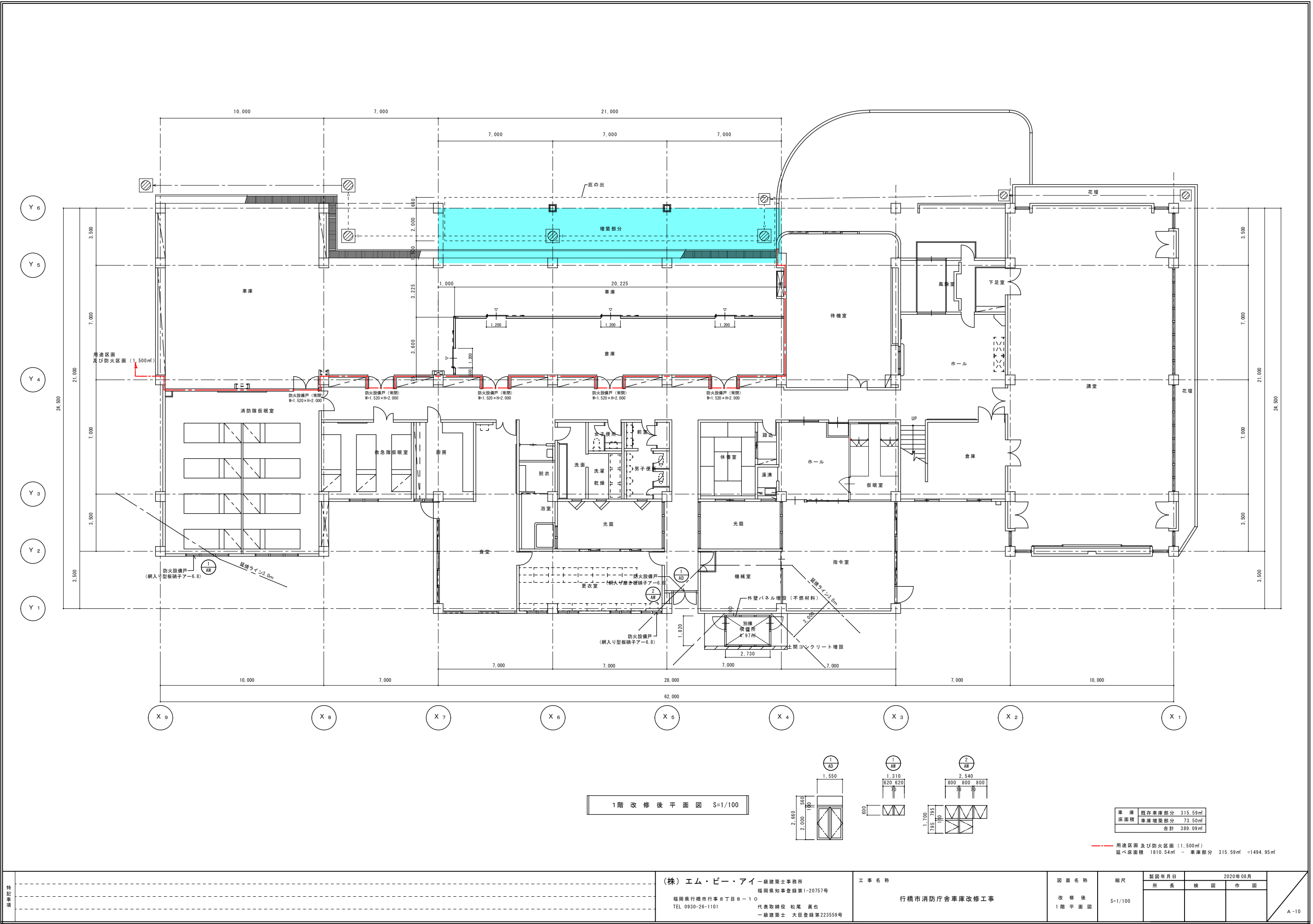
工 事 概 要				外 部 仕 上 表						
工事名称		行橋市消防庁舎車庫改修工事		巾 木	既存部分	タイル張り	庇	既存部分	タイル張り	
工事場所		行橋市中央一丁目9番9号			増築部分	コンクリート仕上げ		増築部分	折版葺きH=88 ガルバニウム鋼板 7-0.6 (カラー) 30分耐火 ＊FP03ORF-9326	
敷地面積		4486.64 ㎡		外 壁	既存部分	タイル張り		既存部分		
用途地域		都市計画地域内 第二種住居地域 法22条地域内			増築部分	柱型：ALC版 7-50mm 仕上げ：複層塗材E (1時間耐火) ＊FP060CN-9405		増築部分	天井内鉄骨部分 梁・柱：耐火被覆 (1時間耐火) 吹付ロックウール7-25 ＊FP060BM-9408	
構造規模		R・C造 3階建		軒 樋	既存部分					
床面積	1階 =1205.15 ㎡ 2階 = 549.70 ㎡ 3階 = 55.69 ㎡ 計 =1810.54 ㎡				増築部分	塩ビ角樋 120×120				
	1階増築部分 = 73.50 ㎡			既存部分						
	延床面積 = 1810.54 + 73.50 = 1884.04 ㎡			増築部分	硬質ポリ塩化ビニル管 75φ (カラー)					
内 部 仕 上 表										
階	室 名			床	巾 木	腰	壁	天 井	天井高	備 考
1 階	車 庫 (既存部分)	改修前	床：コンクリート押え床*杉系塗床t=5	コンクリート仕上げ			コンクリート打ち放し 吹付タイル	木毛モント板t=30打込み 白モント吹付		
		改修後	既存のまま	既存のまま		既存のまま	既存のまま			
	車 庫 (増築部分)	改修前								
		改修後	フラッグマット舗装 (既存のまま) 基礎掘削部分フラッグマット舗装復旧	コンクリート仕上げ		柱型：ALC版 7-50mm 仕上げ：複層塗材E (耐火被覆・1時間) ＊FP120CN-9405	ロックウール化粧吸音板t=12 ＊不燃NM-8599 捨貼り石膏ボード7-9.5 (軽天下地)	3.280		
	倉 庫	改修前	床：コンクリート押え床*杉系塗床t=5 ＊水洗い (10～15Mpa)				コンクリート打ち放し 吹付タイル ＊水洗い (10～15Mpa) 可とう型改装塗材E (下地調整) 石膏ボード7-12.5 E,P ＊不燃NM-8619	木毛モント板t=30打込み 白モント吹付 (既存のまま)		
		改修後	既存のまま	コンクリート仕上げ H=200		化粧石膏ボード7-9.5 (軽鉄下地) ＊不燃NM-1864	2.700			
	倉 庫 (車庫側)	改修前	床：コンクリート押え床*杉系塗床t=5				強化石膏ボード7-15.0 E,P ＊不燃NM-8615 軽量鉄骨壁下地W=100 可とう型改装塗材E	木毛モント板t=30打込み 白モント吹付		
		改修後	既存のまま	コンクリート仕上げ H=200		既存のまま				

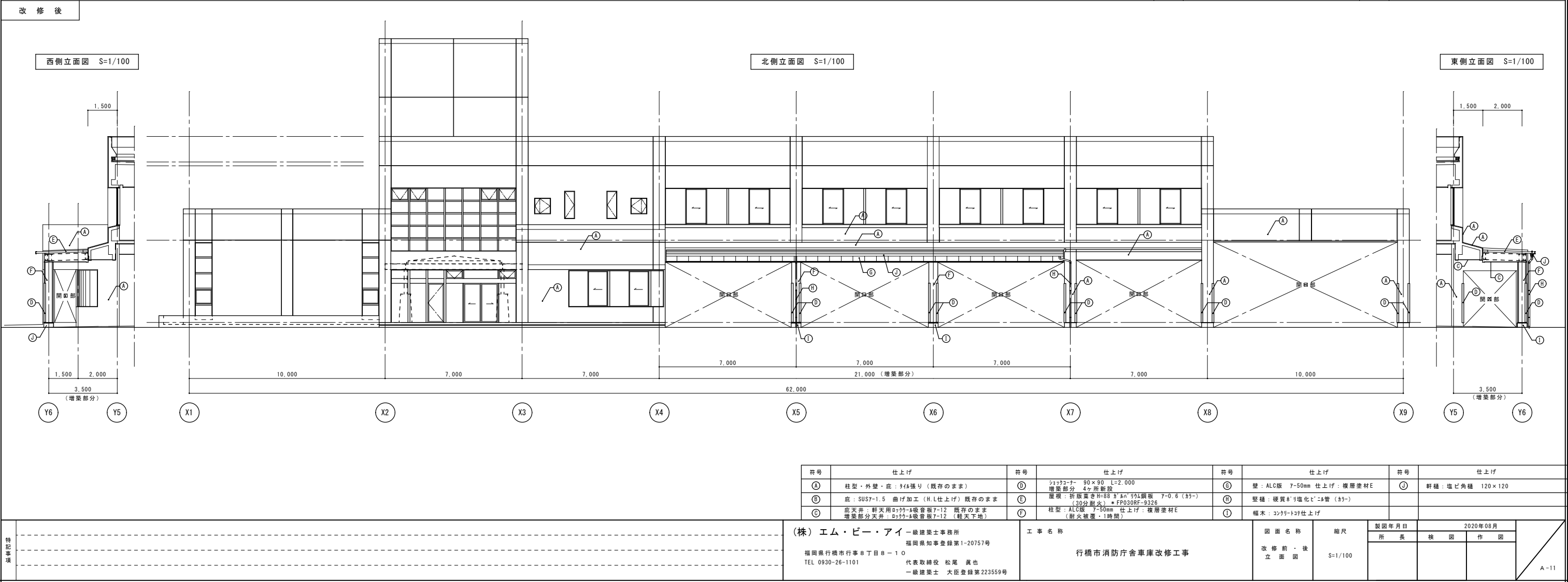
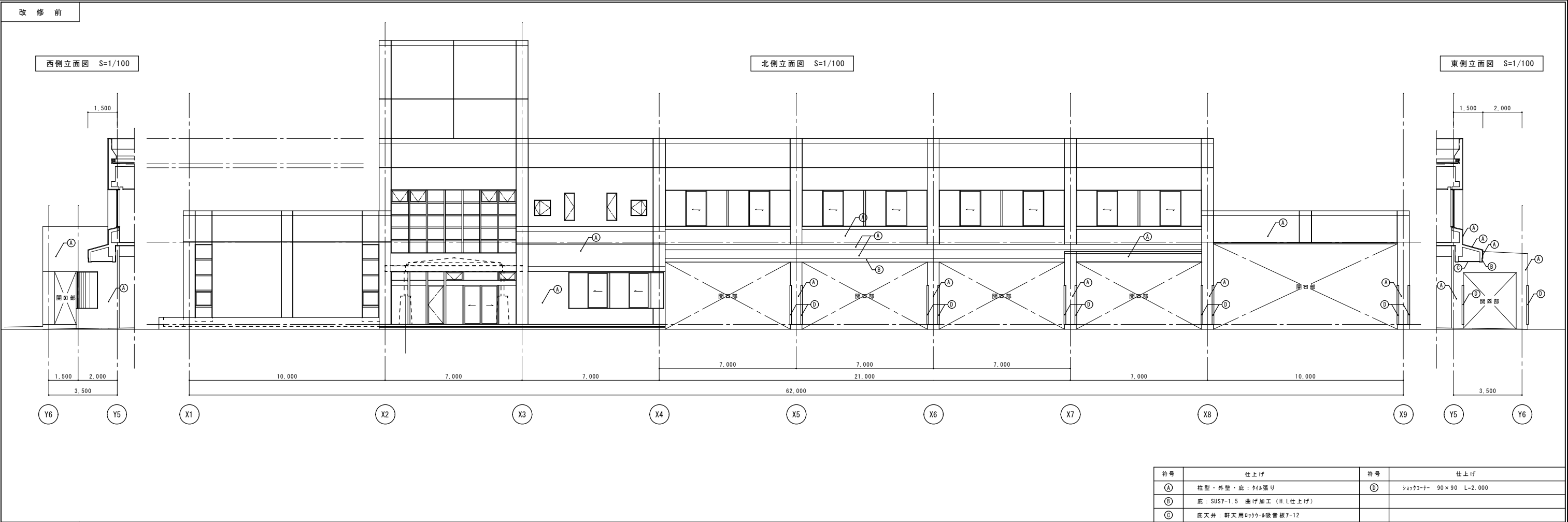


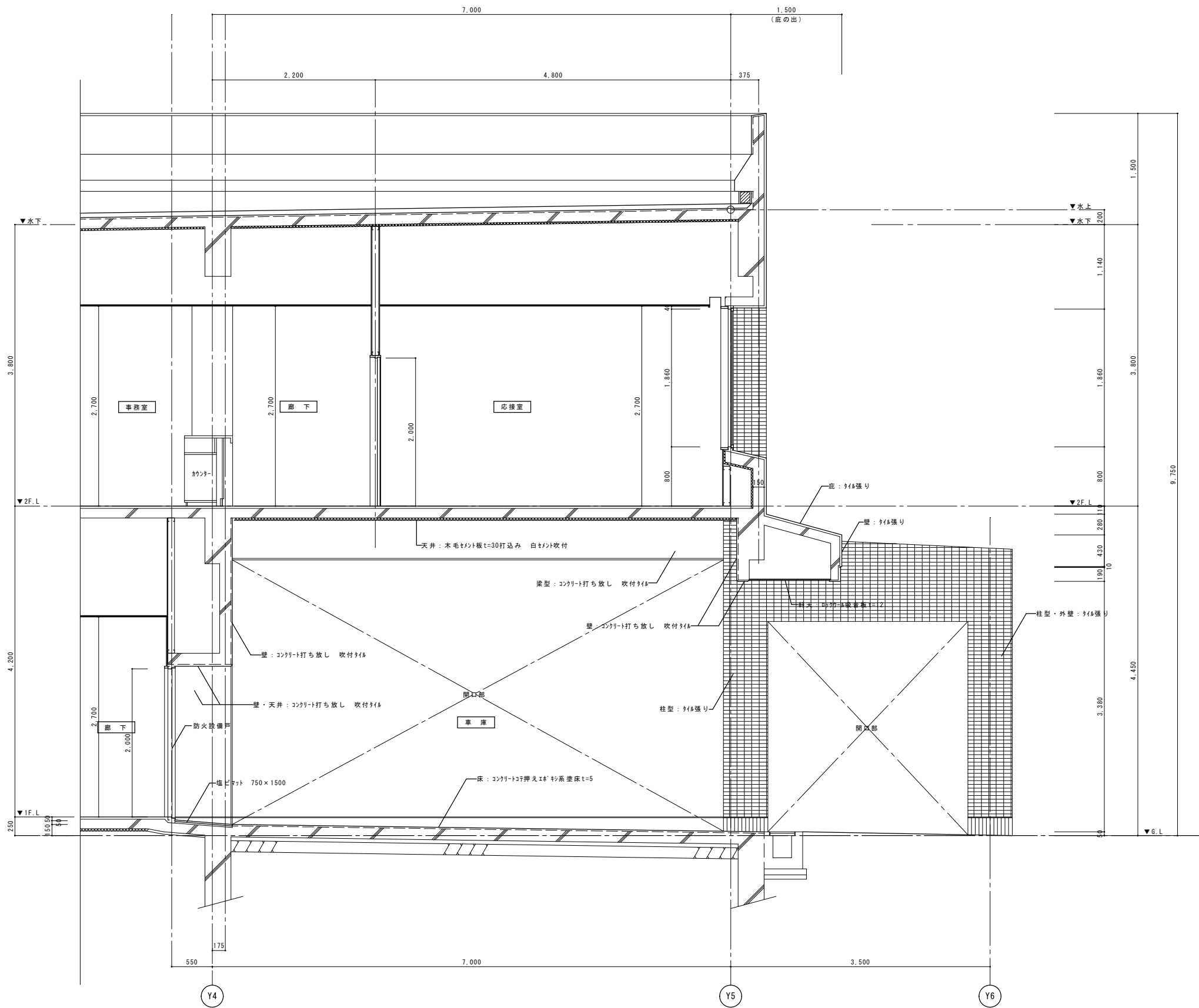
1階 改修前平面図 S=1/100



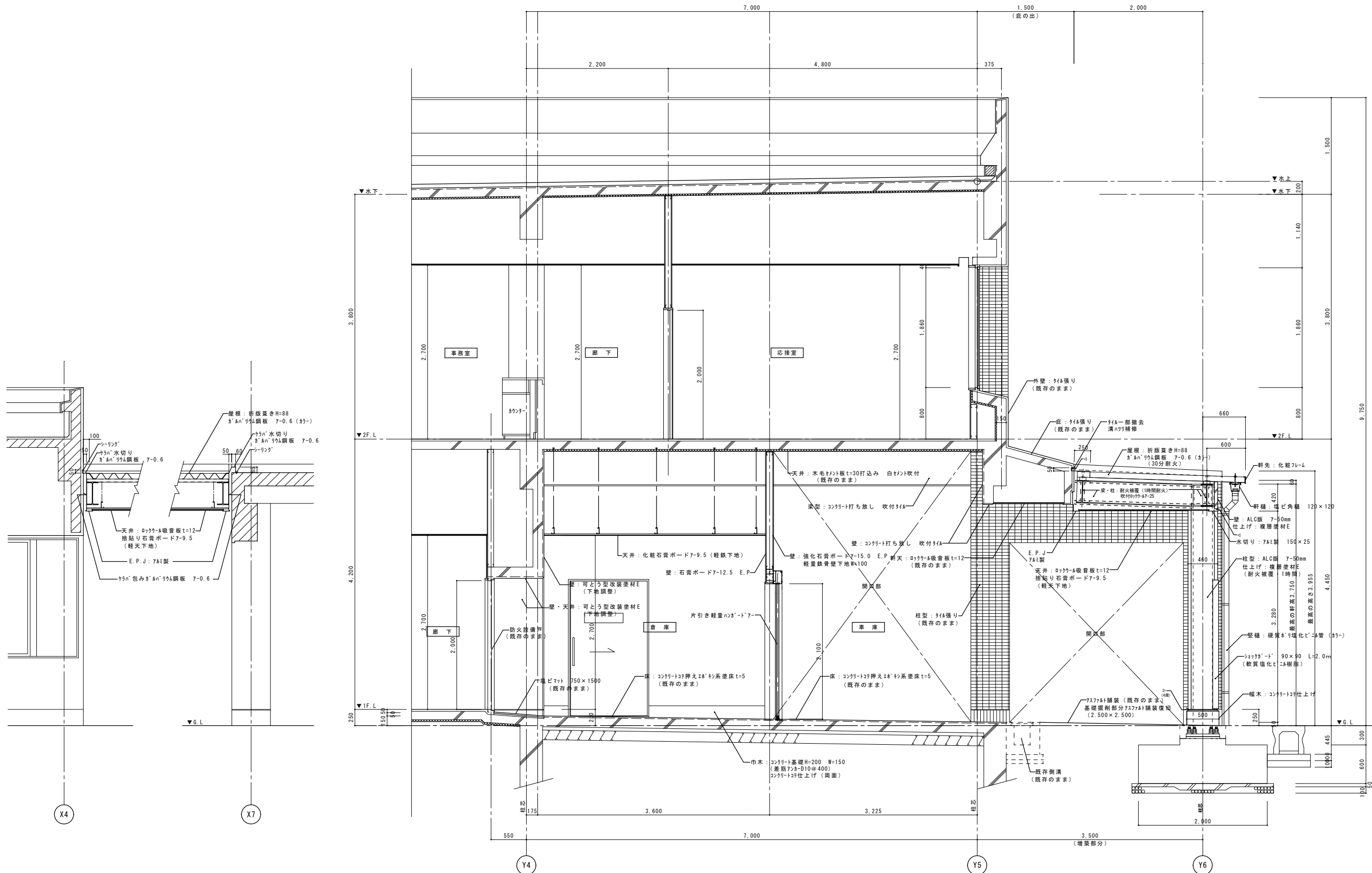
特記事項		(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事8丁目8-10 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 真也 一級建築士 大臣登録第223559号	工 事 名 称 行橋市消防庁舎車庫改修工事	図 面 名 称 改 修 前 2 階 平 面 図	縮 尺 S=1/100	製図年月日	2020年08月		A-09
						所 長	検 図	作 図	





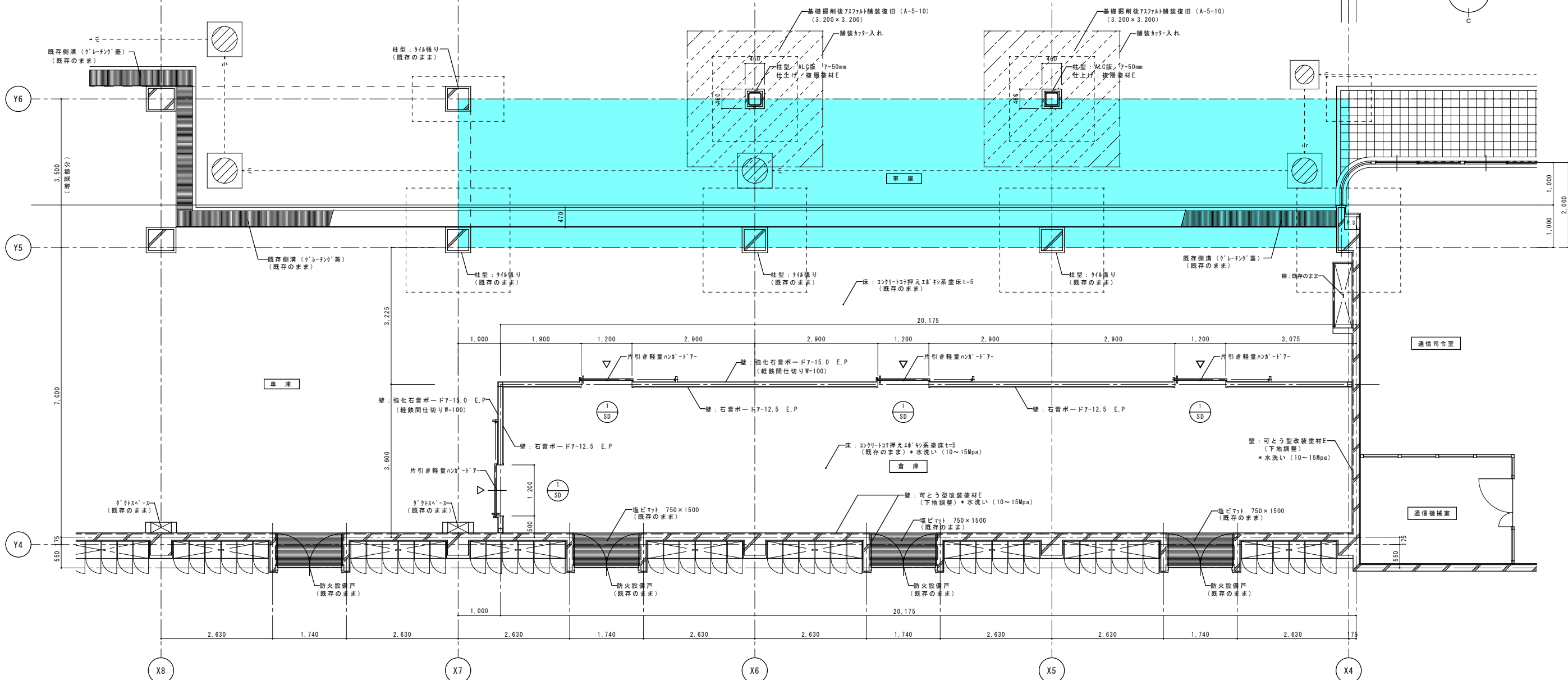


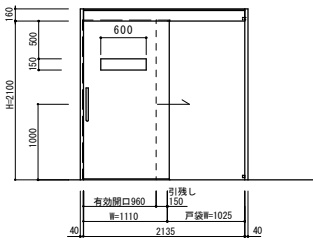
特記事項		(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事8丁目8-10 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 寛也 一級建築士 大臣登録第223559号	工 事 名 称 行橋市消防庁舎車庫改修工事	図 面 名 称 改 修 前 矩 形 図	縮 尺 S=1/30	製図年月日	2020年08月		A
						所 長	検 図	作 図	



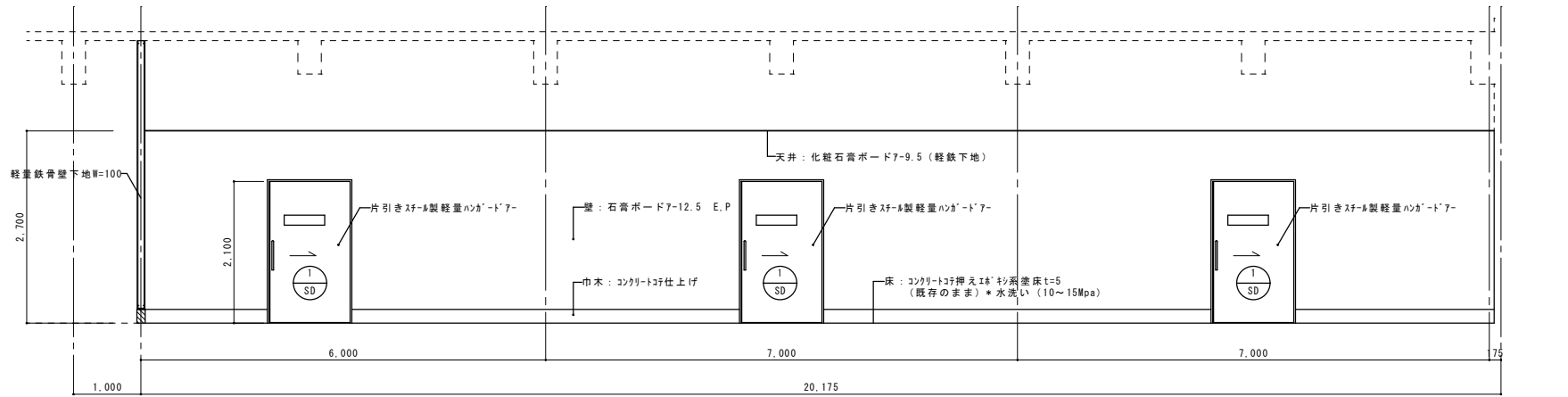
特記事項		(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事8丁目8-10 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 真也 一級建築士 大臣登録第223559号	工 事 名 称 行橋市消防庁舎車庫改修工事	図 面 名 称 改 修 後 矩 形 図	縮 尺 S=1/30	製図年月日	2020年08月		A-13
	所 長					検 図	作 図		

改修後平面詳細図 S=1/50

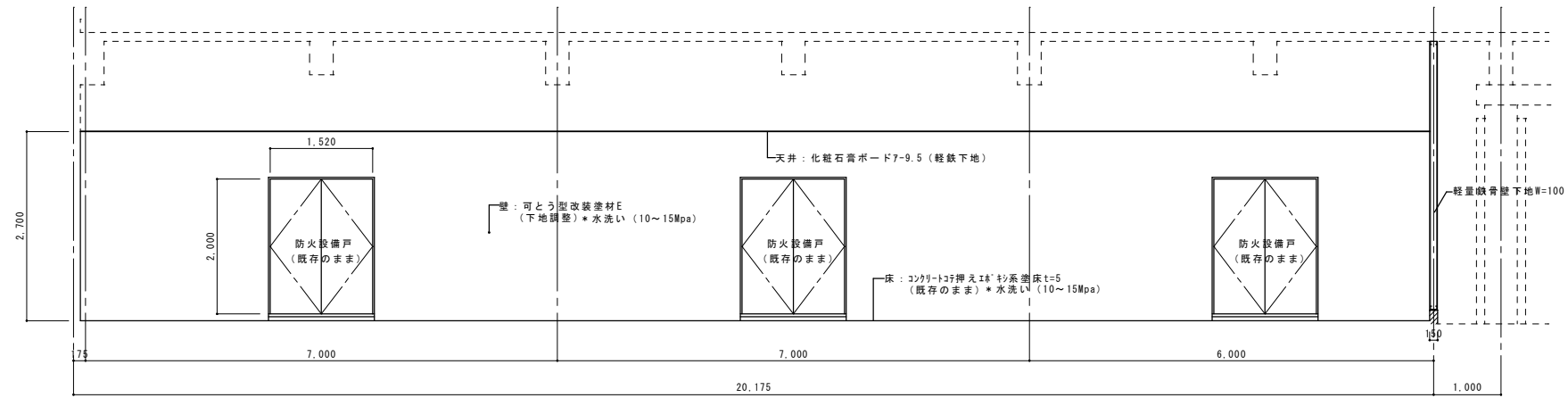


建 具 表	
記号・位置・数量	 倉 庫 4ヶ所
形 状 寸 法	
型 式	スチール製軽量ハーフドア～（額入り）戸袋なし
見 込	100
材 質	スチール製
仕 上	両面化粧鋼板
硝 子	網入り磨き板硝子 6.8mm
金物・その他	金物一式・引き棒（スチール製H.L.）・鍵錠

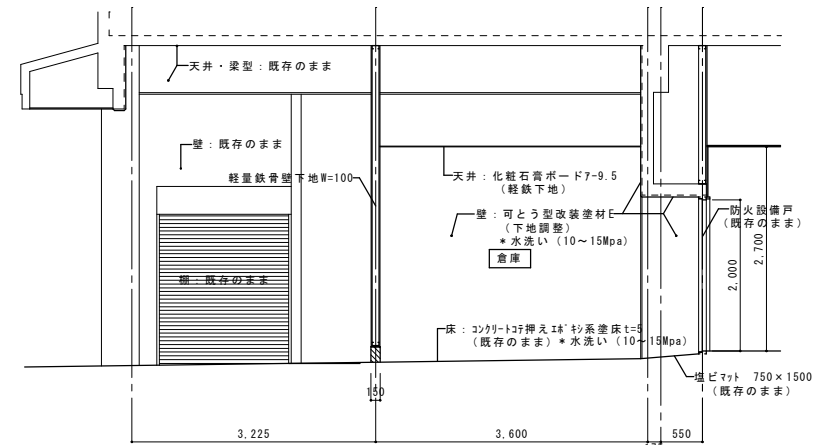
倉庫内展開図



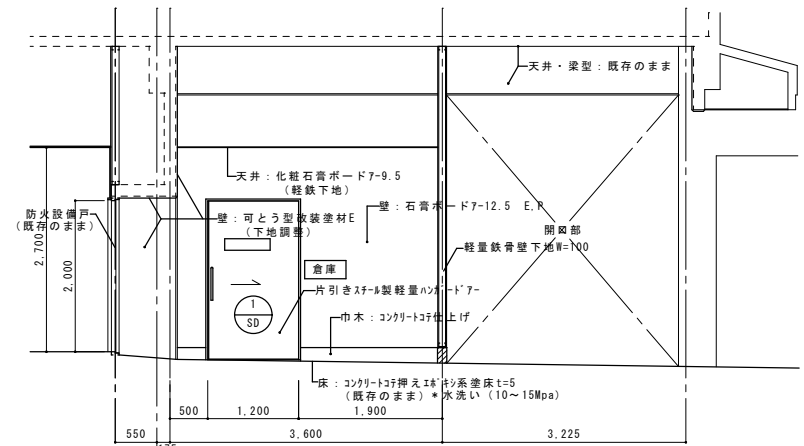
A 面



C 面

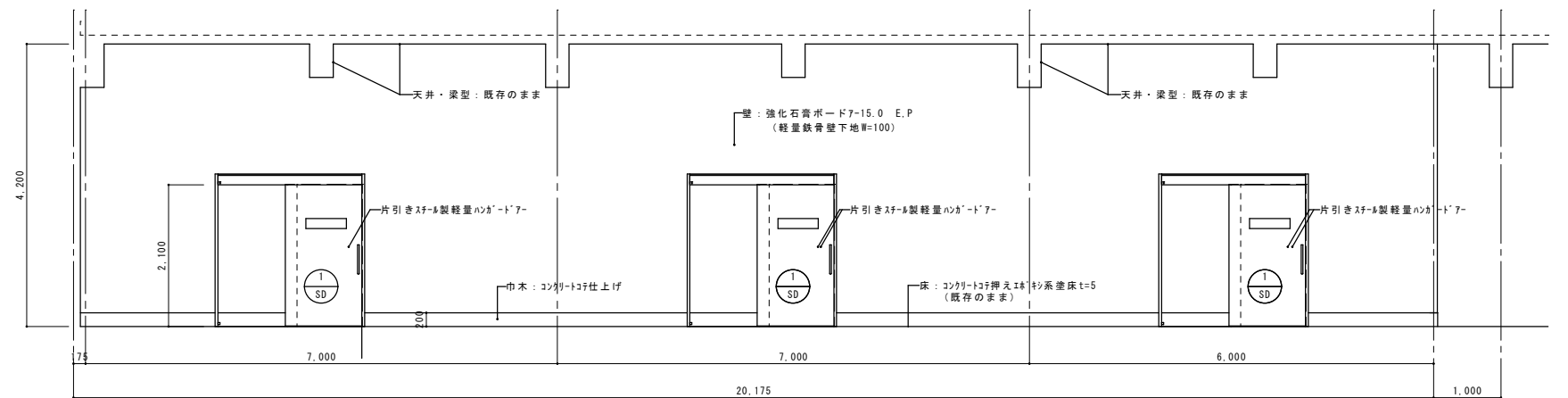


B 面

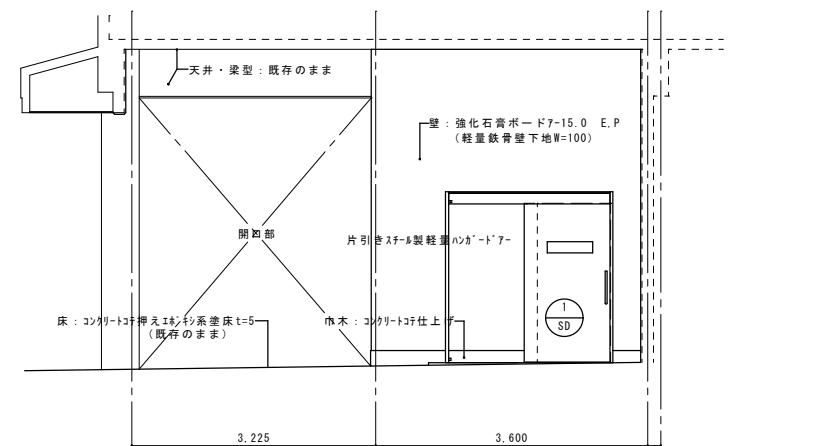


D 面

倉庫展開図（車庫側）

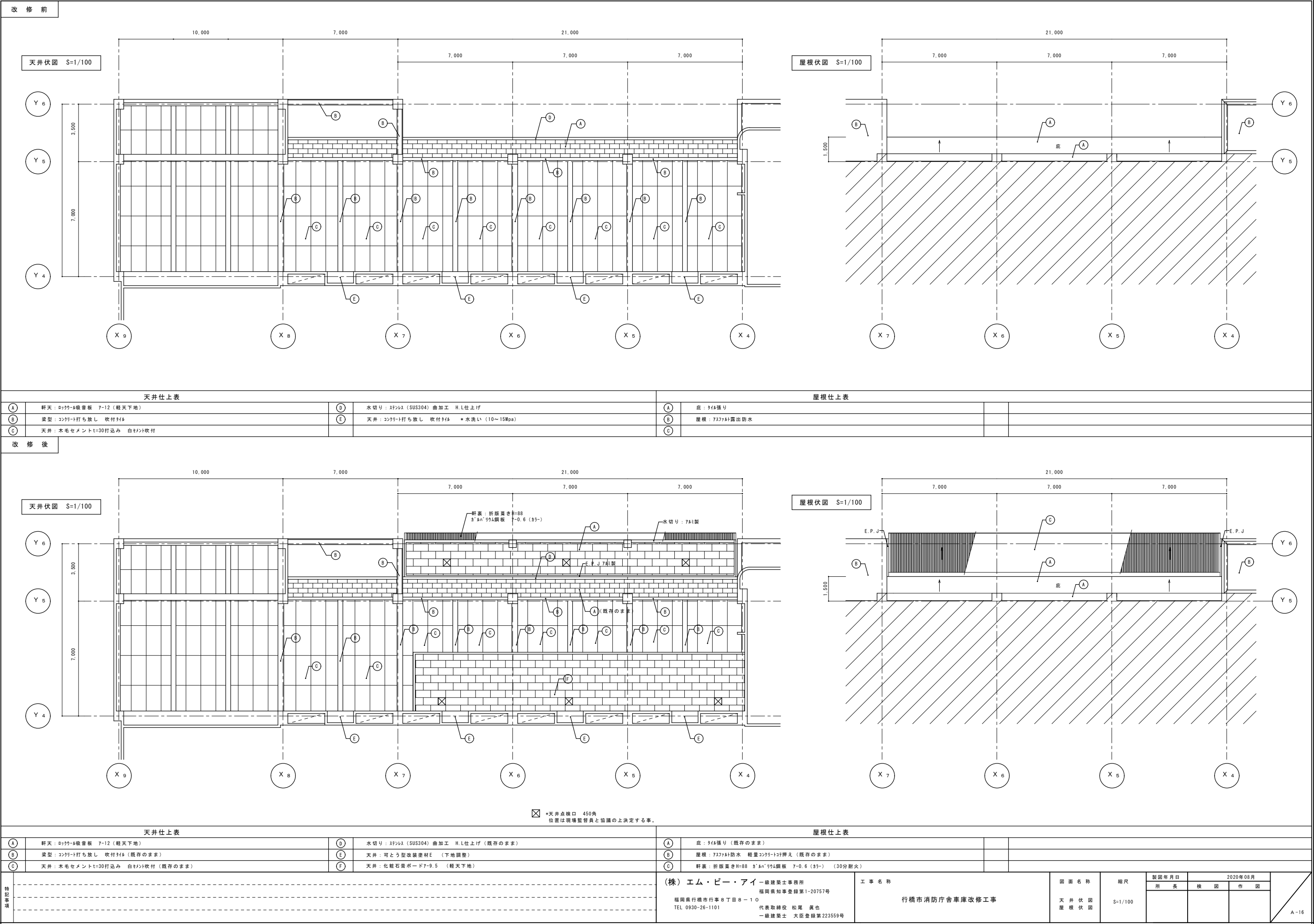


C 面

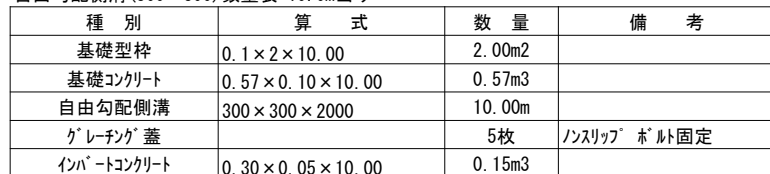


D 面

特記事項		(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事8丁目8-10 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 真也 一級建築士 大臣登録第223559号	工 事 名 称 行橋市消防庁倉庫改修工事	図 面 名 称 展 開 図	縮 尺 S=1/50	製図年月日	2020年08月		A-15
	所 長					検 図	作 図		



 舗装撤去復旧範囲
 既設側溝
 滑り止め「グレーチング」付き自由勾配側溝(T-25)新設



別 途 工 事			
新設器具名称	参考型番	数量	備考
三槽シンク	BS-187	1	W1800×D750
洗濯機パン	PWP900N2W	1	下部嵩上げ(100mm程度)
横引きトラップ	P.I2008NW	1	

特記事項		工 事 名 称 行橋消防庁舎車庫改修工事	図 面 名 称 改 修 後 1 階 平 面 図	縮 尺 S=1/100	製図年月日	2020年08月		A-17
	所 長				検 図	作 図		

構造設計標準仕様

適用は ☒ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称 行橋市消防庁舎車庫改修工事

建築場所 福岡県行橋市中央一丁目9番9号

(2) 工事種別 ☐新築 ☒増築 ☐増改築 ☐改築

(3) 構造種別
☐木造 (W) ☐補強コンクリートブロック造 (CB) ☒鉄骨造 (S)
☐鉄筋コンクリート造 (RC) ☐壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
☐鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) ☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
☐プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC) ☐

(4) 階 数
地下 階 地上 1 階 塔屋 階

(5) 主要用途 庇

(6) 屋上付属物
☐広告塔 ☐高架水槽 ☐設備機器 (屋上換気扇)
☐煙 突 ☐キュービクル ☐ ☐

(7) 増築計画 ☐有 () ☒無

(8) 付帯工事
☐門塙 ☐擁壁 ☐ ☐ ☐

(9) 特別な荷重
☐エレベーター 人乗 ☐ダムウェーター kg ☐走行クレーン

(10) その他

2. 使用構造材料

(1) コンクリート (Fc≧27N/mm2使用時はJASS-5 18節 高強度コンクリートによる)

適用箇所	種 類	設計基準強度 Fc (N/mm ²)	構 造 体 強 度 補 正 値	スランプ (cm)	備 考
捨コンクリート	普通	18			
基礎、基礎梁	普通	21	3or6	18	W/C=57%以下
土間コンクリート	普通	21		18	W/C=57%以下

設計基準強度は、構造体強度補正値を考慮し、設計監理者に承認をえること。
(気温により補正値を考慮)

(2) コンクリートブロック (CB)
☐A種 ☐B種 ☐C種 厚 ☐100 ☐120 ☐150 ☐190

(3) 鉄 筋

	種 類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	☒ SD295A	D16 以下	基礎関係	☒ 重ね継手 D16以下
	☐ SD295B			
	☒ SD345	D19 以上	基礎関係	☒ ガス圧接継手 D19以上
	☐			
丸 鋼	☐ SR235			☐ 特殊継手 ()
溶接金網	☐ SR235			

(4) 鉄 骨

	種 類	使用箇所	現場溶接	備 考
鋼 材	☐ SN400		☐ 有 ☐ 無	
	☒ SS400 ☐ SM400A,B	大梁・小梁	☐ 有 ☒ 無	
	☐ STKR400 ☐ STK400		☐ 有 ☐ 無	
	☒ BCR295	柱	☐ 有 ☒ 無	
	☐ SM490C ☒ SN490C	ダイヤフラム等	☐ 有 ☒ 無	
	☐ SN490B		☐ 有 ☐ 無	
	☐ SSC400		☐ 有 ☐ 無	

(5) ボルト
☒高力ボルト ☒普通、F10T ☒特殊、S10T 認定品 (☒M12 ☒M16 ☒M20 ☐M22)
☒中ボルト φ=12 φ= 高力ボルトすべり係数試験 ☐要 ☐否
☒アンカーボルト B-PACK使用

(6) 屋根、床、壁

使用箇所
庇

☒折板 t=0.6、H=88

☐

☒ALC板 t=50

☐

☐

壁・柱廻り

3. 地 盤

(1) 地盤調査資料
☒有 (☒敷地内 ☐近隣) ☒ボーリング調査 ☐平板載荷試験 ☐スウェーデン式
サウンドニング試験 ☐無 (調査予定 ☐有 ☐無)

(2) 地盤調査計画
☐ボーリング調査 ☐静的貫入試験 ☐標準貫入試験 ☐水平地盤反力係数の測定
☐土質試験 ☐物理探査 ☐平板載荷試験 ☐

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎、杭の位置を明記すること)

	深度	土質	N値	標準貫入試験						〇調査地盤 敷地内
				10	20	30	40	50	60	
										〇位置図
〇支持地盤、地層及び深さについてのコメント										
〇孔内水位										
〇近隣データの調査地番と設計地番とは約 mの距離がある										
〇備 考										

4. 地業工事

(1) 直接基礎
☐ベタ基礎 ☐布基礎 ☒独立基礎

支持層

試験堀 (☐有 ☒無) (☐打ち込み ☐戴荷) 本
柱状改良仕様 ☒施工計画書承認 ☒施工結果報告書

改 良 径 (mm)	設計支持力 (KN/m ²)	杭長 (m)	本数	特記事項
φ 1000	300		8	

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート
☒ コンクリートは JIS 認定工場の製品とし、施工に関しては JASS5 による。
☒ セメントは、JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
☒ 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
☒ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
☒ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一材料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
☒ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体 (JASS5 T-603) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150mをこえる場合は、150mごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
☒ ポンプ打コンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。 ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。 なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は、120分以内とする。
☒ F C 27 N/mm2以上を使用した場合、混和剤は高性能 A E 減水剤を使用のこと。
☐ 居室を有する1階スラブは、不透水性混和剤入コンクリートとする。

(2) 鉄 筋
☒ 鉄筋は JIS G3112 の規格品を標準とする。 施工に関しては JASS5 による。
☒ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。
☒ D19未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
☒ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200箇所を越えるときは、200箇所ごと) に1回行い、1回の試験は3本以上とする。
外観検査 ☒有 ☐無、引張試験 ☒有 ☐無、超音波探傷試験 ☐有 ☐無
☒ 柱の帯筋 (H O O P) の加工方法は、☒ H 型 (タガ型) ☐ W 型 (溶接型)
☐ S 型 (スパイラル型) とする。
☒ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験機関名
代行業者名
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者を言う。

(3) 型 枠
☒ 材料 合板厚 12mmを標準とする。施工に関しては JASS5 による。
☒ 型枠存置期間

種類
部 位
存 置
期 間
の
平 均
気 温

せ き 板

基礎、はり側、柱、壁

スラブ下、はり下

支 柱

スラブ下

はり下

種類 部 位 存 置 期 間 の 平 均 気 温	せ き 板				支 柱			
	基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下	
15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	
5-15℃	3	5	6	10	12	25	28	
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28	
コンクリートの圧縮強度	5 N/mm ²		設計基準強度の50%		設計基準強度の			
					85%		100%	

注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。
また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打後とする。
注) 4 盛りかえ後の支柱顶部には、厚い受板、角材またはこれに代わるものを置く。
注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
☒ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☒ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
☐

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
☒製作工場 ☒製作要領書 ☒工作図 ☒施工計画書
☐
☒材料規格証明書または試験成績書
☒鋼材 ☒高力ボルト ☐特殊ボルト ☒スタッドボルト
☐社内検査表 ☐ ☐

(3) 工事監理者が行う検査項目
(☐印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
☒現状検査 ☒組立・開先検査 ☒製品検査
☒建方検査 ☐ ☐

(4) 接合部の溶接は下記によること
☒東京都アーク溶接工事管理基準 (建築構造設計指針第12章)
☒鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱 (建築構造設計指針第12章)
☐日本建築学会「溶接工作規準、同解説 I. II. III. IV. V. VI. VII. VIII. IX」

(5) 接合部の検査
☐溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		社 内	第三者	工事監理者	
☒ 突合せ溶接部	超音波探傷試験	100%	30%	0%	
☐	外観 (目視) 検査	100%	30%	0%	
☐	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受け入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。
☒高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グライNDER掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリッドブラストによる処理で表面あさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないまでよい。
☒高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

(6) 防錆塗装
☒防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは、JIS K5674、2回塗りを標準とする。
☒現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は急に行い、塗装は工事塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料
☐

7. 設備関係
☒特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。 設ける場合は設計者の承認を得ること。
☒設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
☒床スラブ内に設備配管等を埋込む場合は、スラブ厚さの1/3以下とし、管の間隔を5cm以上とする。

8. その他
☒諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
☒各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い、工事監理者に報告すること。
☒建築設備の構造安全性 (建築基準法施行令第129条の2の3の規定)

☒特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
☒設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
☒床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
☐建築設備 (昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は、腐食のおそれがないものとする。こと。
☐屋上から突出する水構、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
☐煙突の壁突出部の高さは、レンガ造、石造、コンクリートブロック造又は、無筋コンクリート造の場合は鉄製の支持を設けたものを除き、90cm以下とすること。
☐煙突で屋内にいる部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さは5cm以上とし鉄筋コンクリート造または厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、レンガ造、石造もしくはコンブロック造とすること。
建築物に設ける給水、排水、その他の配管設備は、
☐給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする。
☐満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1389号第5に規定する構造方法によること。
☐建築物の部分を通過して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等 有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
☐管に衝撃その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可機継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
☐管を支持し、または固定する場合においては、吊金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
☐法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水構、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

特記事項

(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所
福岡県知事登録第1-20757号
福岡県行橋市行事8丁目8-10
TEL 0930-26-1101
代表取締役 松尾 真也
一級建築士 大臣登録第223559号

工 事 名 称
行橋市消防庁舎車庫改修工事

図 面 名 称
構造特記仕様書-1

縮 尺

製 図 年 月 日
所 長 検 図 作 図
2020年08月

S-01

1. 一般共通事項

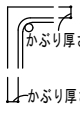
(1) 鉄筋の表示記号

鉄筋の断面表示は下記の記号による。

呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
表示記号	●	×	○	●	×	×	●
最外径	11	14	18	21	25	28	33

(2) 鉄筋のかぶり厚さ

① 一般の場合

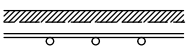
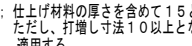
構造部位	かぶり厚さ			かぶり厚さ
	一般	土(常時水)に接する部分		
床スラブ、屋根スラブ、非耐震壁、柱、はり、耐震壁	屋内 30 屋外 40 ※1 30 屋外 50 ※1 40	50		
基礎柱型、基礎ばり		60		
基礎及び基礎ばり下端	60	※2 50	70	
煙突	50	50		

※1. 耐久性上有効な仕上げのある場合で、係員の承認を受けた時。

※2. コンクリートの品質および施工方法に応じて、係員の承認を受けた時。

注) 最小かぶり厚さは、上表の値-10mmとする。

- 主筋にD29以上の異形鉄筋を使用する場合の最小かぶり厚さは主筋外端より1.5d以上とする。
ただし土に接する部分は1.5d+20以上とする。
- 床スラブのコンクリート仕上げ部分(床スラブの上面を、コンクリートのまま直接コテなどで仕上げる場合)の打増しは下記による。

そのまま床仕上げとなる場合		打増し15
敷物、張物などの下地の場合		a
防水層下地の場合		打増し10

(3) 鉄筋の折曲げ基準

① 端部(フック形状)

曲げ角度	図	鉄筋の種類	内径(D)	余長(L)	備 考
180°		SD295A (SD30A) SD295B (SD30B) SD345 (SD35)	D16 以下 3d 以上 D19~D38 4d 以上	4d 以上	・柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部分* ・煙突の主筋
		SD390 (SD40)	5d 以上		
135°		SD295A (SD30A) SD295B (SD30B) SD345 (SD35)	D16 以下 3d 以上 D19~D38 4d 以上	6d 以上 ※1 4d 以上	・フープ・スターラップ ・壁筋端部に使用のD10、D13
		SD390 (SD40)	5d 以上		
90°		SD295A (SD30A) SD295B (SD30B) SD345 (SD35)	D16 以下 3d 以上 D19~D38 4d 以上	8d 以上 ※1 4d 以上	・U字形 ・スターラップの ・幅止め筋 ・スラブ筋、壁筋の末端部
		SD390 (SD40)	5d 以上		

d: 呼び名に用いた数値

※1片持スラブの上端筋の先端、壁の自由端に用いる鉄筋の数値

※2柱、梁の出隅部分とは、下記の場合をいう。



・印は出隅部鉄筋を示す。

② 上表以外の鉄筋末端部に必ずフックをつける箇所

- 最上層の柱頭で大ばり内にLの定着長がとれない場合。
- くい基礎のベース筋の先端
- 片持ちばり、片持ちスラブの上筋の先端
- その他設計図に特記ある場所

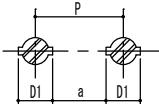
③ 中間部(バンド形状)

曲げ角度	図	使用箇所	鉄筋の種類	鉄筋径	内径(D)
90°以下		フープ スターラップ スパイラル筋	SD295A (SD30A) SD295B (SD30B) SD345 (SD35)	D16 以下 D19 以上	3d 以上 4d 以上
		スラブ筋 壁筋	SD295A (SD30A) SD295B (SD30B) SD345 (SD35) SD390 (SD40)	D16 以下 D19~D25 D29~D38	4d 以上 6d 以上 8d 以上
	同上	上記以外	SD295A (SD30A) SD295B (SD30B) SD345 (SD35) SD390 (SD40)	D16 以下 D19~D25 D29~D38	6d 以上 6d 以上 8d 以上

(4) 鉄筋の最小間隔とあき

鉄筋相互のあきは下記のうち最大のものとする。

- a=25mm
 - a=1.25×粗骨材最大寸法
 - a=1.5d (d: 鉄筋の呼び名の数値)
- 鉄筋の間隔 P=a+D1 (D1: 最外径)

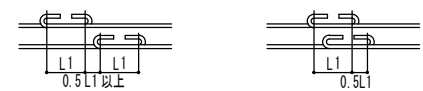


あきの最小値——粗骨材最大寸法25の場合を示し()内は20の場合を示す。

呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
あきの最小値	31 (25)	31 (25)	31 (25)	31 (29)	33	38	44

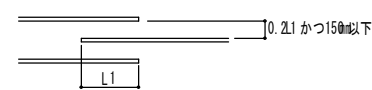
(5) 鉄筋の継手基準

① 重ね継手(D10~D16)

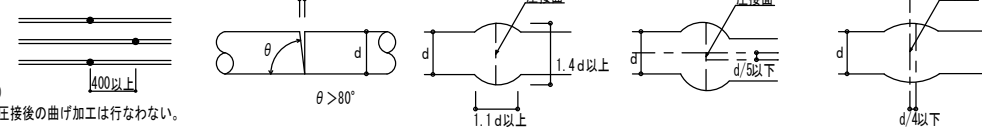


(注)フックなしの場合も同様とする。
径の異なる鉄筋の場合には細い方のdによる。

② あき重ね継手(スラブ筋、壁筋のみ)



③ ガス圧接継手(D19~D32)



継手

- 末端のフックは、重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- 主筋及び耐力壁の重ね継手の長さは特記による。特記が無ければ、40d(軽量コンクリートの場合は50d)と表の重ね継手長さのうち大きい値とする

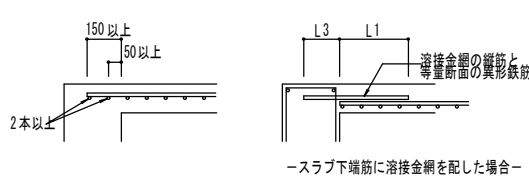
(6) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計 基準強度の範囲 (N/mm ²)	重ね継手 長さ (L1)	定着の長さ	
			一般	下 端 筋 (L3) 小 梁 屋根、床スラブ
SD295A	36 ≧ Fc ≧ 27	35d 又は 25d フック付	30d 又は 20d フック付	
SD295B	27 > Fc ≧ 21 27 ≧ Fc ≧ 21	40d 又は 30d フック付	40d	
SD345	21 > Fc ≧ 13.5 21 > Fc ≧ 13.5	45d 又は 35d フック付	40d	25d 又は 10d かつ 150mm 以上
SD390	36 ≧ Fc ≧ 27	40d 又は 30d フック付	35d 又は 25d フック付	
	27 > Fc ≧ 21 27 ≧ Fc ≧ 21	45d 又は 35d フック付	40d 又は 30d フック付	

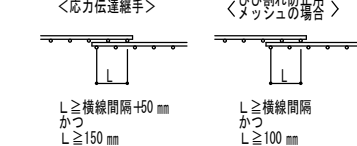
(注) 1.末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない。

(7) 溶接金網の定着と重ね継手

① 定着



② 継手



(8) その他

① 打ち継ぎ

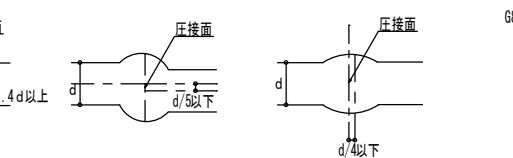
- 打ち継ぎ部の位置・形状などは特記による。特記のない場合、打ち継ぎ部は、梁、床スラブおよび屋根スラブでは、その中央付近に、柱および壁では、床スラブ、基礎の上端または梁の下端に設け、水平または垂直とする。
- 打ち継ぎ部は、レイタンスおよび弱いコンクリートを取り除き、健全なコンクリートを露出させ、コンクリート打ち込み前に十分な水湿しを行なう。

② コンクリート収縮(誘発)目地、他

- 外壁収縮(誘発)目地 縦目地 3.0mピッチ程度に設ける。
- 打ち継ぎ目地 各階に設ける。その他は収縮目地に同じ。
- 躯体の目地 収縮目地及び内外躯体目地は同位置とする。
- d壁及びスラブ内の電気配管 埋め込み配管は極力少くし、かつダブル配筋の内側へ配管のこと。

③ コンクリートの打ち増し

- 外壁の打ち増し 外壁を形成する柱・梁・壁は、外部側に厚さ()mmの打ち増しとする。
- 床モリシック工法の打ち増し : ()mmとする。



- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋の種類が異なる場合、形状が著しく異なる場合及び径の差が5mmを超える場合は圧接としてはならない
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする

(9) 鉄筋の余長、重ね継手長さ及び定着長さの換算表

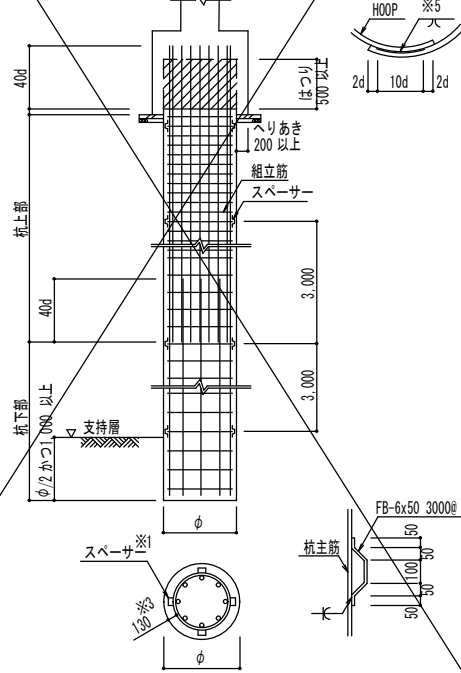
鉄筋径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
4d	40	60	70	80	90	100	120	130	140	160
5d	50	70	80	100	110	130	150	160	180	190
6d	60	80	100	120	140	150	180	200	210	230
8d	80	110	130	160	180	200	240	260	280	310
10d	100	130	160	190	220	250	290	320	350	380
15d	150	200	240	290	330	380	440	460	530	570
20d	200	260	320	380	440	500	580	640	700	760
25d	250	330	400	480	550	630	730	800	880	950
30d	300	390	480	570	660	750	870	960	1,050	1,140
35d	350	460	560	670	770	880	1,020	1,120	1,230	1,330
40d	400	520	640	760	880	1,000	1,160	1,280	1,400	1,520
45d	450	590	720	860	990	1,130	1,310	1,440	1,580	1,710

2. 杭

(1) 場所打コンクリート杭

特記なき限り、下記に準ずる。

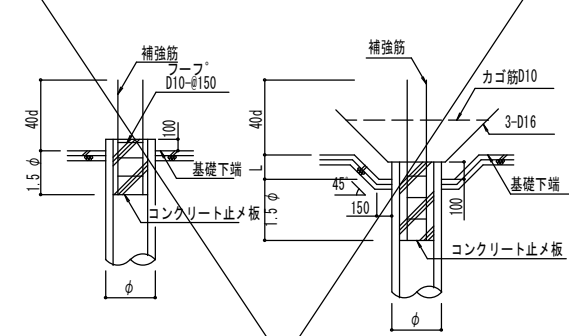
- スベアー FB-6x50 (平面上に4ヶ所以上) 3,000φ
- 縦立筋 D22-3,000φ
- かぶり厚 130
- 主筋の重ね継手およびフーチングへの定着長さは、40d以上とする。
- フープは正しく円形に加工し、片面 10d 以上のフレアグルーブアーク溶接にて接合する。



(2) 既製杭

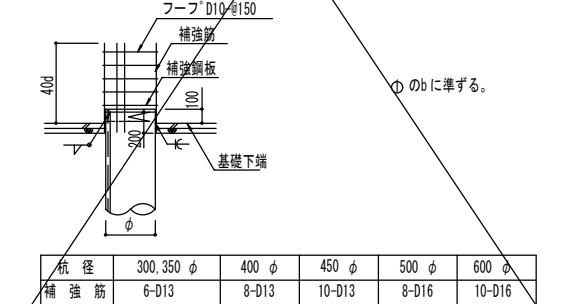
① PC杭又はPHC杭

- 杭頭が所定の位置に止まった場合
- 杭頭が所定の位置より深く止まった場合



② 鋼管杭

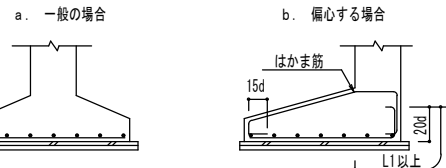
- 杭頭が所定の位置に止まった場合
- 杭頭が所定の位置より深く止まった場合



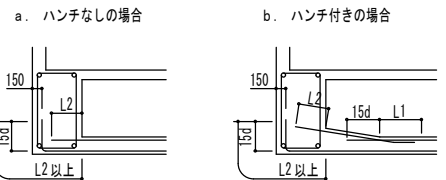
3. 基礎

(1) 基礎スラブ筋の納まり

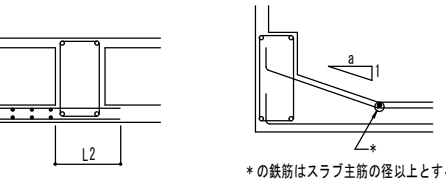
① 直接基礎



② ベタ基礎

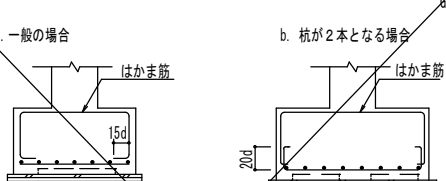


c. 連続端

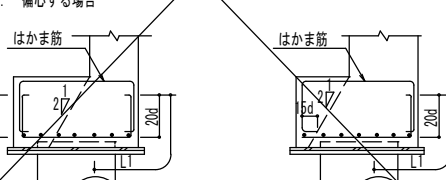


*の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする。

③ 杭基礎

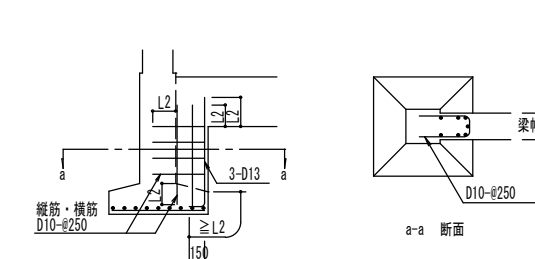


c. 偏心する場合



(注) 柱コンクリート面とフーチング上端面の交点から2:1の勾配の中に杭が納まる場合の基礎

(2) 基礎と地中梁の納まり



特記事項

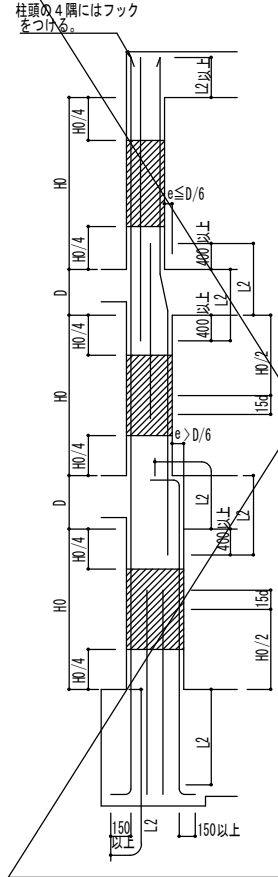
(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所
福岡県知事登録第1-20757号
福岡県行橋市行事8丁目8-10
TEL 0930-26-1101
代表取締役 松尾 真也
一級建築士 大臣登録第223559号

工 事 名 称
行橋市消防庁舎車庫改修工事

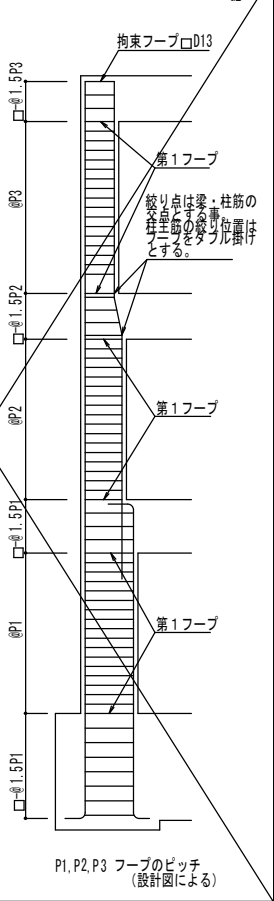
図 面 名 称
構造特記仕様書-2
縮 尺
製 図 年 月 日
2020年08月
所 長
検 査
作 図

4. 柱

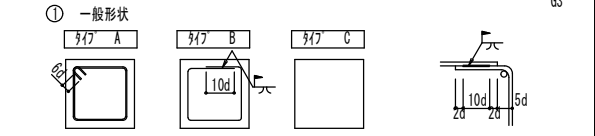
(1) 柱筋の余長・定着及び継手位置
主筋の継手可能位置を示す。
柱頭の4周にはフックをつける。



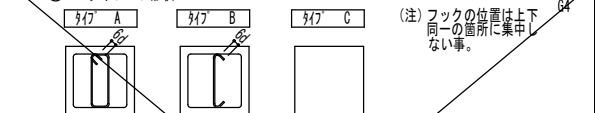
(2) フープの割付け



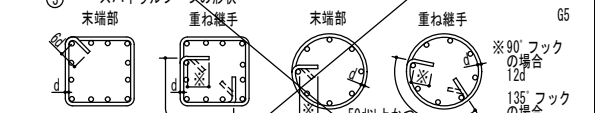
(3) フープの形状



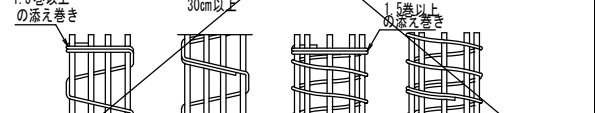
① 一般形状



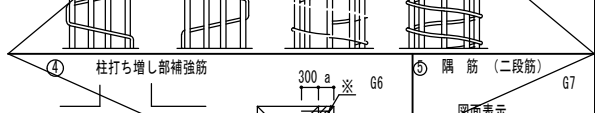
② タイプ形状



③ スパイラルフォーマの形状



④ 柱打ち増し部補強筋



⑤ 隅筋 (二段筋)

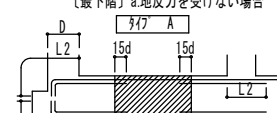


5. 梁

(1) 梁筋の余長・定着及び継手位置
主筋の継手可能位置を示す。
〔注〕下端筋は上向き定着としている。

① 基礎梁の余長・定着及び継手位置

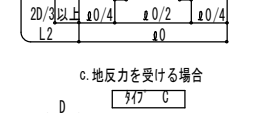
〔最下階〕a. 地反力を受けない場合



b. 上載荷重を受ける場合



c. 地反力を受ける場合

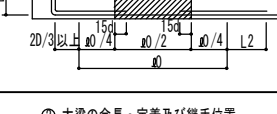


〔注〕タイプB、タイプCは、伏図又はリストにより指示された場合にのみ使用可。

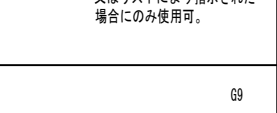
② 大梁の余長・定着及び継手位置

a. 余長・継手位置

ノーハンチ梁



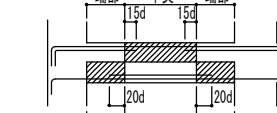
ハンチ梁



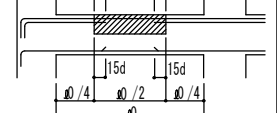
b. 定着

※令73条第三項 仕口内への定着長40d以上とする。

b-1. 一般の場合



〔最上階〕



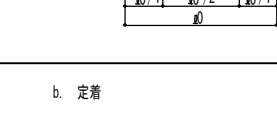
b-2. 段差のある場合

e が D/6 未満の段差のある場合

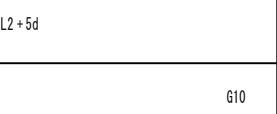


〔注〕e は水平くい違いの場合にも準ずる。

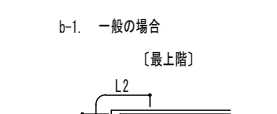
e が D/6 以上の段差がある場合



〔一般階〕



〔最下階〕



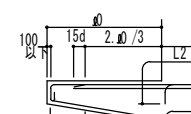
〔注〕P は (3) 鉄筋の最小間隔による。



③ 片持梁

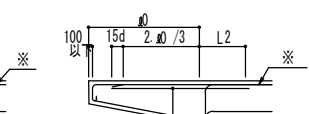
a. 一般の梁と連続する場合

〔一般階〕

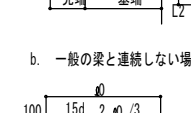


※印の梁の主筋は半数以上を折曲げて定着させる事。

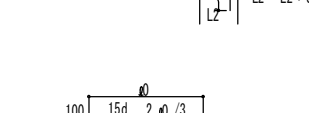
〔最上階〕



b. 一般の梁と連続しない場合



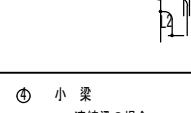
※印の梁の主筋は半数以上を折曲げて定着させる事。



〔注〕タイプB、タイプCは、伏図又はリストにより指示された場合にのみ使用可。

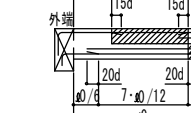
④ 小梁

a. 連続梁の場合

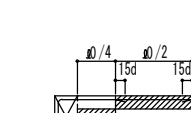


⑤ 小梁筋の大梁への定着

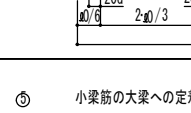
a. 一般の場合



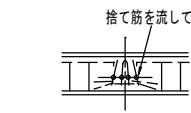
捨て筋を流して結実的に定着してもよい



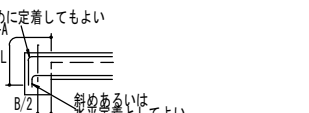
A-A 面



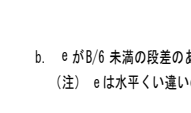
b. e が B/6 未満の段差のある場合



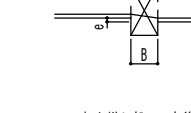
〔注〕e は水平くい違いの場合にも準ずる。



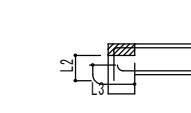
c. e が B/6 以上の段差がある場合



〔注〕e は水平くい違いの場合にも準ずる。



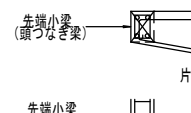
d. 打ち増し部への定着



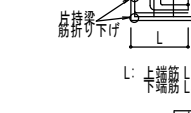
打ち増し部分を示す。

⑥ 先端小梁の片持梁への定着

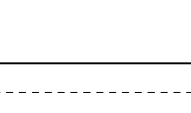
先端小梁 (頭つなぎ梁)



鉛直断面



水平断面



小梁外端部

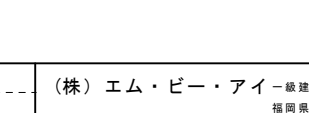
先端小梁 (頭つなぎ梁)



鉛直断面



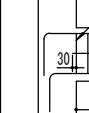
水平断面



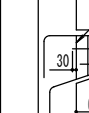
小梁連続部

(2) スターラップの割り付け及び腹筋の納まり

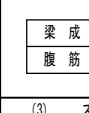
第1スターラップ 腹筋



第1スターラップ 腹筋



※小梁との接合部は腹筋を過さなくてもよい。



※は、□D13 以上かつスターラップ筋径以上とする。

梁 成

腹 筋

D < 600

600 ≤ D < 900

900 ≤ D < 1,200

1,200 ≤ D < 1,500

不 要

2-D10

4-D10

6-D10

③ スターラップ形状

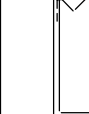
① 一般形状



② 基礎梁の場合

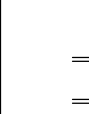
基礎梁も原則として ①によるが、梁成の大きい場合は下記の配筋も可とする。

< D=2000 以上打ち継ぎの有る場合 >



④ 梁打ち増し部補強筋

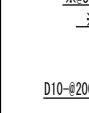
印は打ち増し部を示す。



⑤ 上部打ち増し

⑥ 側部打ち増し

⑦ 下部打ち増し



a < 60 の場合

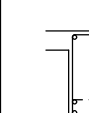
60 ≤ a ≤ 300 の場合

a > 300 の場合

補強筋不要。

※印はD16 とする。

※印は梁筋と同径とする。



⑤ 二段筋

⑥ 柱面と梁面が同一になる場合の納まり

(平面)

(断面)



※柱主筋径だけスターラップ筋幅を狭めて加工する事。

(注) P, a は1-(3) 鉄筋の最小間隔の項による。

⑦ 梁貫通孔補強

① 貫通孔範囲及び貫通孔径

位置

貫通孔の径

A D/3 以下

B D/4 以下

C 不 可

※ 印の寸法は4 かつ 250 以上とする。

貫通孔

BorA

C

P

P ≥ 1 + 2 × 3

② 貫通孔補強

a. 一般の場合

の場合

スターラップ D13

各2-D13

貫 通 孔 径

横 筋

斜 筋

補強スターラップ

備 考

③ その他の貫通孔補強

a. 既製品による補強を行う場合は、設計者の指示を受ける事。

特記事項

(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所

福岡県知事登録第1-20757号

福岡県行橋市行事8丁目8-10

TEL 0930-26-1101

代表取締役 松尾 真也

一級建築士 大臣登録第223559号

工 事 名 称

行橋市消防庁舎車庫改修工事

図 面 名 称

構造特記仕様書-3

縮 尺

製図年月日

所 長

検 査

作 図

2020年08月

1. 一般事項

- (1) 構造設計図に記載された事項は本標準図に優先して適用する。
- (2) 構造設計図、本標準図共に記載なき場合は「建築工事標準仕様書・同解説・JASS6鉄骨工事」による。
- (3) EVの出入口の三方枠（ハンガーケース取付材）、レール取付ファスナー、ファスナー受け柱、機械台受台、及び敷居受けビームは建築工事とする。

2. 製作要領

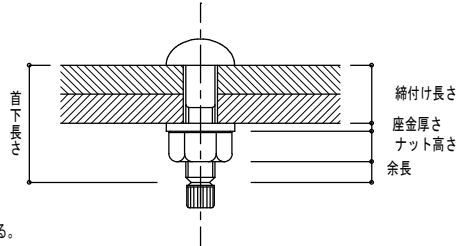
(1) 工作一般

- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事製作要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
- (b) 鋼管部材の分岐継手部の切断は、鋼管自動切断機による。

(2) 高力ボルト接合

ボルトの所要長さ () 内S10T

ねじの呼び	締付け長さに加える長さ
M16	30mm (25)
M20	35mm (30)
M22	40mm (35)
M24	45mm (40)



- (a) 高力ボルトは全てF10T (S10T) とする。
- (b) 本締め使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
- (c) ボルトの接合面の処理は締め付け摩擦面の母材には平グラインダー掛け、スプライスプレートにはショットブラスト掛けを行い、黒皮を除去して一様に赤さびを生じさせる。又、締付けは1次締付け後マーキングを入れて本締めをする。

(3) 溶接接合

(a) 溶接工

溶接工は施工する溶接に適合するJISZ3801 (手溶接) 又はJISZ3841 (半自動溶接) の溶接技術検定試験に合格し、引続き半年以上溶接に従事している者とする。

(b) 溶接機器

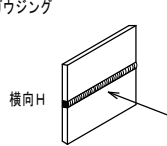
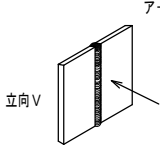
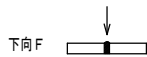
- (イ) アーク溶接機 (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
- (ロ) アークエアークラウジグ機 (ホ) 溶接電流と測定する電流計
- (ハ) アークスタッド溶接機1式 (ヘ) 溶接棒乾燥器

(c) 溶接方法等

アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)

セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC)

(d) 溶接姿勢



- (e) 仮付 (組立) 溶接は、原則として本工事に従事する者が行う
- (イ) 仮付溶接位置は、溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。
- (ロ) 突合せ溶接部の仮付溶接は、原則として裏はつりの側に施工する。
- (ハ) やむを得ず関先内に仮付溶接を行った場合はガウジングにて仮付溶接部を完全に除去した後、本溶接を行う。

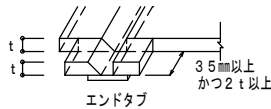
(f) 溶接施工

(イ) エンドタブ

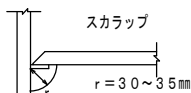
I) 突合せ溶接の両端部に母材と同厚で同関先形状のエンドタブを取り付ける。

II) エンドタブの材質は、母材と同質とする。

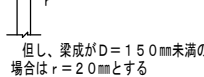
III) エンドタブの長さは、MCで35mm以上 (右図) NGC、GCで40mm以上とし特記のない場合は溶接終了後、母材より10mm程度残して切断して、グラインダー仕上げとする。



- IV) プレス鋼板タブ、固形タブ等の使用については、資料を提出して工事監理者の承認を得る。
- (ロ) 裏あて金は、母材と同質材料とし寸法は22mm以上として、厚さは手溶接で6mm以上、半自動溶接で9mm以上とする。
- (ハ) スクラップは、半径30～35mmとする。 (右図)



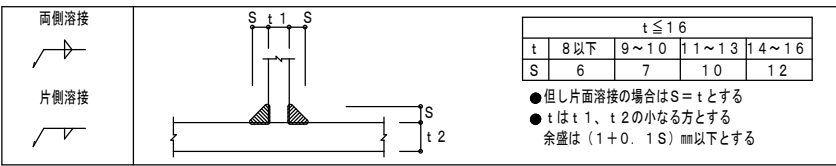
- (ニ) 裏はつりは、溶接基準図において裏はつりと記載のある部分は全て、溶接監理技術者の確認を履行し部材に確認マークをつける。
- (ホ) 現場溶接の開先部には、開先部をいためない様に、養生を行う。コンクリートに埋め込まれる部分、コンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。



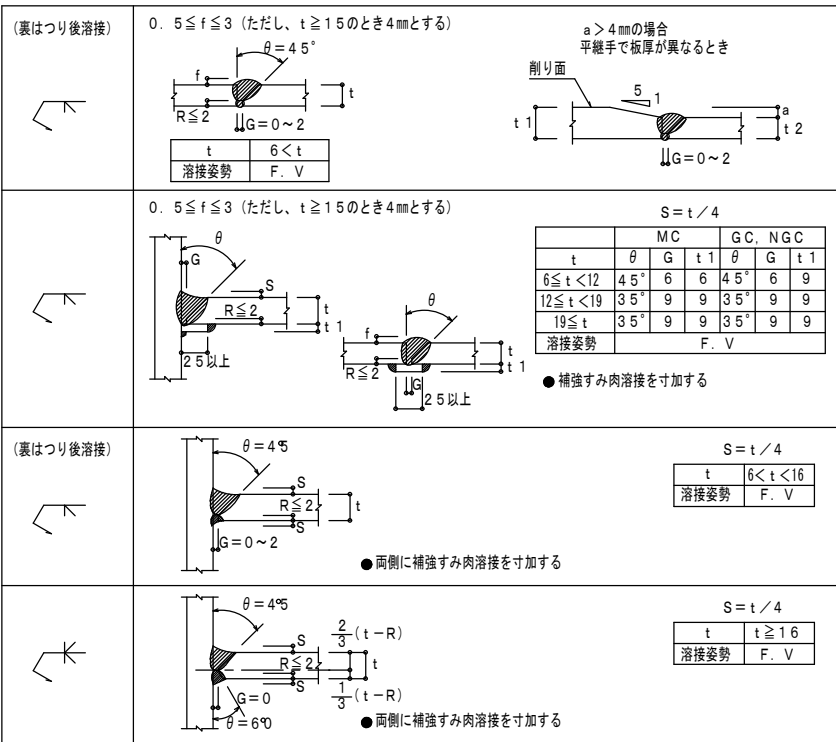
3. 溶接基準図

(注) f : 余盛 G : ルート間隔 R : ルート面 S : サイズ (単位mm)

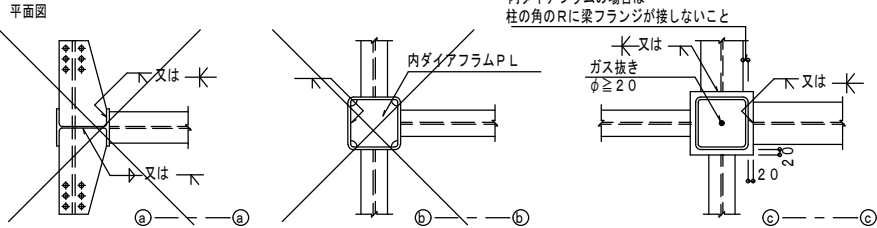
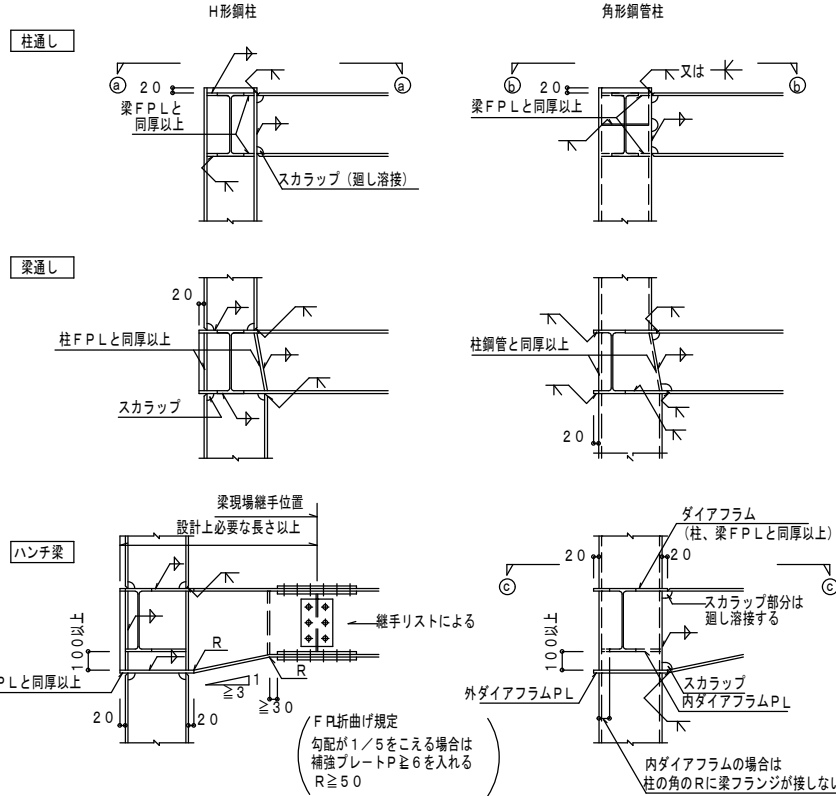
(1) すみ肉溶接



(2) 突合せ溶接 (平継手・T形継手)



(3) 柱梁接合部

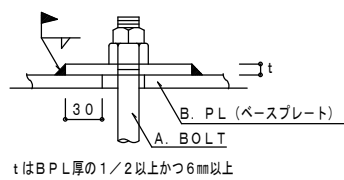


5. 柱脚

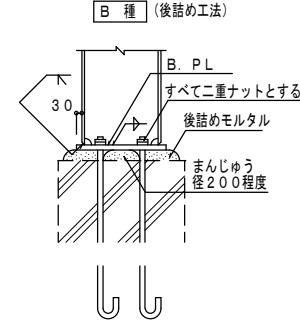
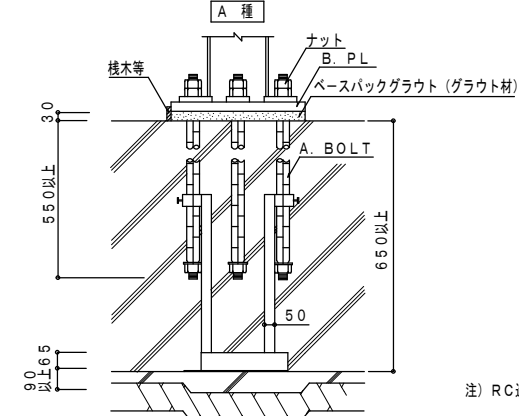
(1) 一般事項

- コンクリートの表面のレイタンス等を取り除いた後、調合 (容積比) セメント1 : 砂1の硬練りモルタルを平に塗り仕上げる。
- モルタルを後詰めにする場合は空隙の出来ないよう充填する。
- アンカーフレームを使用する場合は設計図による。

アンカーボルトの施工に誤差のある場合

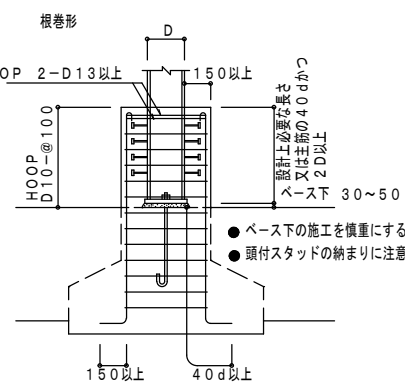


(2) 柱脚

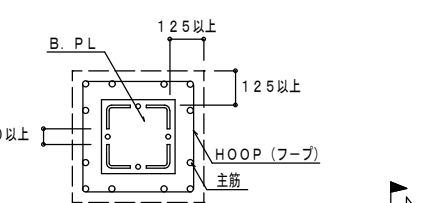


注) RC造柱が立上る場合のHOOP筋、柱主筋は設計図による。

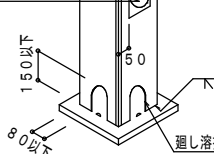
(3) 柱脚固定の配筋



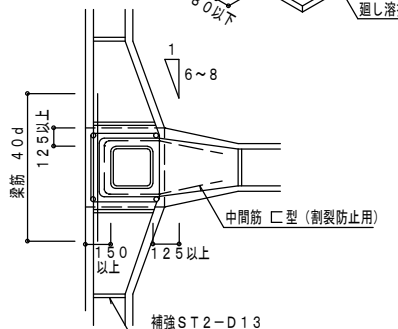
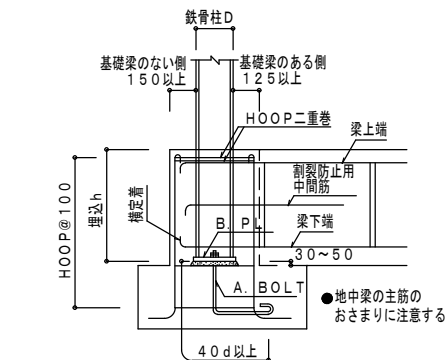
角形鋼管の場合



コンクリート充填孔
基礎梁の上より500程度
補強板は柱と同質・同厚以上



(4) 埋込形 (水平ハンチと隅柱、隅柱の補強)

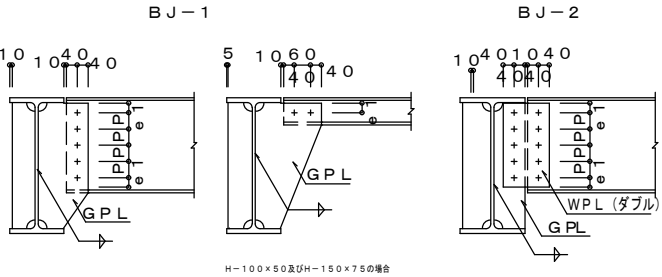


6. 継手規準図、その他

(1) ボルトピッチ(P)、ボルト穴径・最小縁端距離(mm)

呼び径		M16	M20	M22
孔 径		17.0	21.5	23.5
採用ピッチ	フランジ	P	60	60
	ウェブ	g2	60(90・120)	60(90・120)
はしあき		e1	40	40
へりあき(最小値)		e2	22	27.5

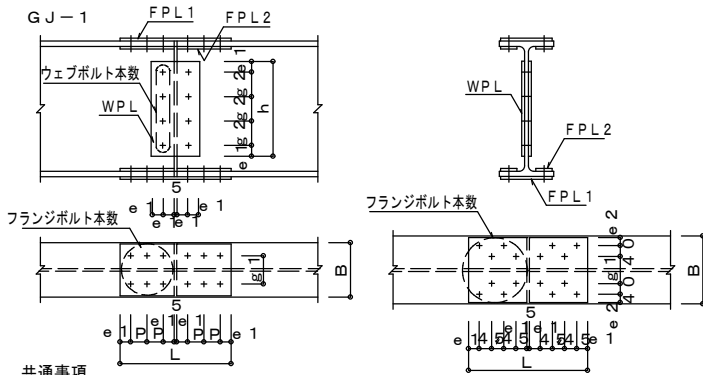
(2) ピン接合梁継手リスト (剛接合の場合は設計図書による)



H-100×50及びH-150×75の場合

BJ-1	部 材	ボルト径	本 数	GPL厚	ウェブ添板 WPL厚	備 考
	H-100×50×5×7	M16	2	6		ボルトは横打ち
	H-150×75×5×7	M16	2	6		
	H-175×90×5×8	M16	2	6		
	H-200×100×5.5×8	M16	2	6		
	H-248×124×5×8	M16	3	6		
	H-250×125×6×9	M16	3	6		
	H-298×149×5.5×8	M20	3	6		
	H-300×150×6.5×9	M20	3	9		
	H-346×174×6×9	M20	4	9		
	H-350×175×7×11	M20	4	9		
	H-396×199×7×11	M20	4	9		
	H-400×200×8×13	M20	5	9		
	H-446×199×8×12	M20	5	9		
	H-450×200×9×14	M20	6	12		
	2C-100×50×20シリーズ					
	□-100×100シリーズ					
	□-125×125シリーズ					
	□-150×150シリーズ					
	C-100×50					
	C-125×65					
	C-150×75					
	C-180×75					
	200シリーズ					
	250シリーズ					
	300シリーズ					
BJ-2	部 材	ボルト径	本 数	GPL厚	ウェブ添板 WPL厚	備 考
	H-350×175×7×11	M20	4	9	6	
	H-400×200×8×13	M20	4	9	9	
	H-450×200×9×14	M20	4	9	9	
	H-496×199×9×14	M20	5	9	9	
	H-500×200×10×16	M20	5	12	9	
	H-596×199×10×15	M20	6	12	9	
	H-600×200×11×17	M20	6	12	9	
	H-294×200×8×12	M20	3	9	9	
	H-340×250×9×14	M20	3	9	9	
	H-390×300×10×16	M20	4	12	9	
	H-440×300×11×18	M20	4	12	9	
	H-482×300×11×15	M20	5	12	9	
	H-488×300×11×18	M20	5	12	9	

(3) 剛接合梁、柱継手リスト (特記なき限り、フランジ・ウェブとも添板はダブルとする)



共通事項

フランジ添板幅(B)			フランジ添板長(L)mm					
フランジ幅	ボルト列	F.R.1	F.R.2	ボルト径	ボルト列	フランジボルト本数		
100	シングル	100	—	M16	シングル	4本	6本	8本
125	シングル	120	45	M20	シングル	285	405	525
150	シングル	145	55	M22	シングル	285	405	525
175	シングル	170	65	M22	シングル	285	405	525
200	シングル	195	70	M22	シングル	285	405	525
250	シングル	245	95	M22	シングル	285	405	525
300	シングル	295	105	M22	シングル	285	405	525
350	ダブル	345	135	M22	ダブル	285	405	525
400	ダブル	395	165	M22	ダブル	285	405	525

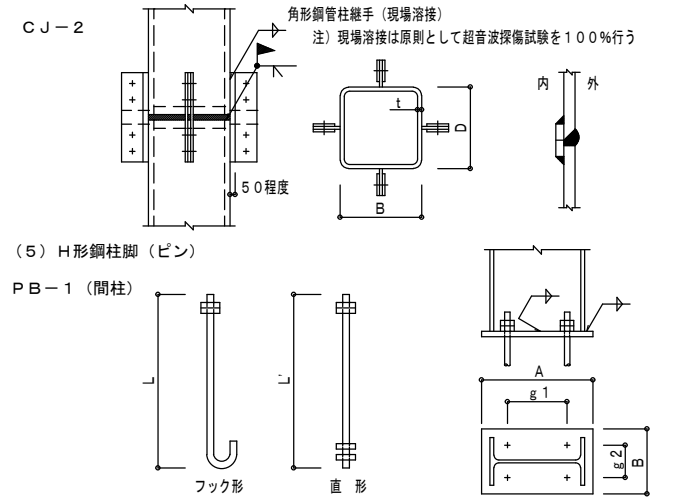
許容応力度接合

部 材	ボルト径	ボルト本数	ゲージ	フランジ添板	ウェブ添板	備 考
H-248×124×5×8	M16	4	2	75	60	9
H-250×125×6×9	M16	4	2	75	60	9
H-298×149×5.5×8	M20	4	3	90	70	9
H-300×150×6.5×9	M20	4	3	90	70	9
H-346×174×6×9	M20	4	4	105	70	9
H-350×175×7×11	M20	4	4	105	70	9
H-396×199×7×11	M20	4	4	120	70	9
H-400×200×8×13	M20	6	4	120	70	12
H-446×199×8×12	M22	4	5	120	80	12
H-450×200×9×14	M22	4	5	120	80	12
H-496×199×9×14	M22	4	6	120	80	12
H-500×200×10×16	M22	6	6	120	80	16
H-506×201×11×19	M22	6	6	120	80	16
H-596×199×10×15	M22	6	7	120	80	16
H-600×200×11×17	M22	6	7	120	80	16
H-606×201×12×20	M22	6	7	120	80	19
H-612×202×13×23	M22	8	7	120	80	22
H-482×300×11×15	M22	8	6	150	80	12
H-488×300×11×18	M22	8	6	150	80	16
H-582×300×11×17	M22	8	7	150	80	16
H-588×300×12×20	M22	8	7	150	80	16
H-594×302×14×23	M22	10	7	150	80	19
H-692×300×13×20	M22	10	9	150	80	16
H-700×300×13×24	M22	10	9	150	80	19
H-708×302×15×28	M22	12	9	150	80	22
H-792×300×14×22	M22	10	10	150	80	19
H-800×300×14×26	M22	12	10	150	80	22

保有力接合

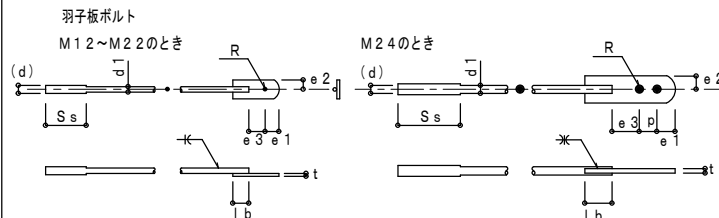
部 材	ボルト径	ボルト本数	ゲージ	フランジ添板	ウェブ添板	備 考
H-248×124×5×8	M16	4	2	75	60	9
H-250×125×6×9	M16	4	2	75	60	9
H-298×149×5.5×8	M20	4	3	90	70	9
H-300×150×6.5×9	M20	4	3	90	70	9
H-346×174×6×9	M20	4	4	105	70	9
H-350×175×7×11	M20	4	4	105	70	9
H-396×199×7×11	M20	4	4	120	70	9
H-400×200×8×13	M20	6	4	120	70	12
H-446×199×8×12	M22	4	5	120	80	12
H-450×200×9×14	M22	4	5	120	80	12
H-496×199×9×14	M22	4	6	120	80	12
H-500×200×10×16	M22	6	6	120	80	16
H-506×201×11×19	M22	6	6	120	80	16
H-596×199×10×15	M22	6	7	120	80	16
H-600×200×11×17	M22	6	7	120	80	16
H-606×201×12×20	M22	6	7	120	80	19
H-612×202×13×23	M22	8	7	120	80	19
H-482×300×11×15	M22	8	6	150	80	16
H-488×300×11×18	M22	8	6	150	80	16
H-582×300×12×17	M22	10	7	150	80	16
H-588×300×12×20	M22	14	7	150	80	16
H-594×302×14×23	M22	14	7	150	80	16
H-692×300×13×20	M22	12	9	150	80	16
H-700×300×13×24	M22	14	9	150	80	19
H-708×302×15×28	M22	16	9	150	80	19
H-792×300×14×22	M22	14	10	150	80	19
H-800×300×14×26	M22	14	10	150	80	19

(4) 角形鋼管



部 材	アンカーボルト(中ボルト)	ベースプレート	ゲージ	備 考
H-125×60×6×8	16 620 2	12 185 180	100	
H-150×75×5×7	16 620 2	12 210 180	100	
H-175×90×5×8	16 620 2	12 235 180	100	
H-200×100×5.5×8	16 620 2	12 260 180	100	
H-250×125×6×9	20 730 2	16 310 180	100	
H-300×150×6.5×9	20 730 4	16 360 200	180 120	
H-350×175×7×11	20 730 4	16 410 230	230 120	
H-148×100×6×9	16 620 2	12 210 180	100	
H-194×150×6×9	20 730 2	16 255 200	120	
H-244×175×7×11	20 730 4	16 305 230	120 150	
H-294×200×8×12	20 730 4	19 355 250	170 150	
H-100×100×6×8	16 620 2	12 160 180	100	
H-125×125×6.5×9	20 730 2	16 185 180	100	
H-150×150×7×10	20 730 2	16 210 200	120	
H-175×175×7.5×11	24 860 2	16 235 230	150 直形L=900	
H-200×200×8×12	24 860 2	19 260 250	150 直形L=900	

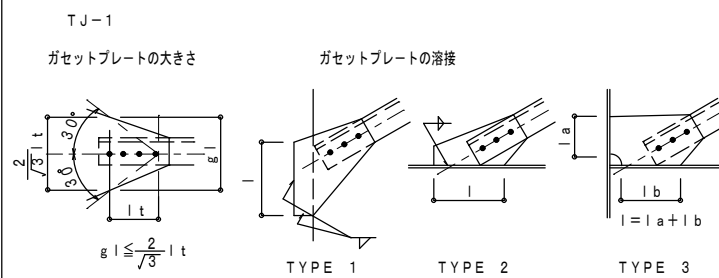
(6) 丸鋼ブレス (JIS規格品とする・JIS A5540~5542)



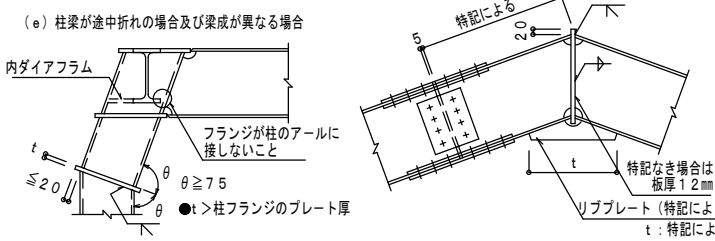
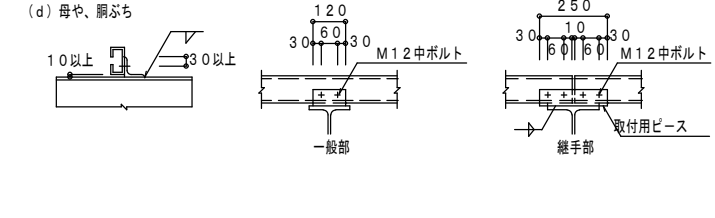
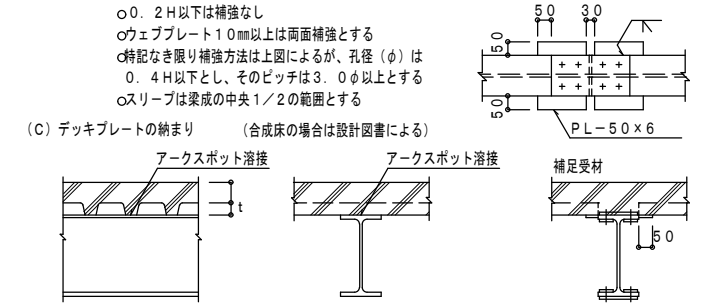
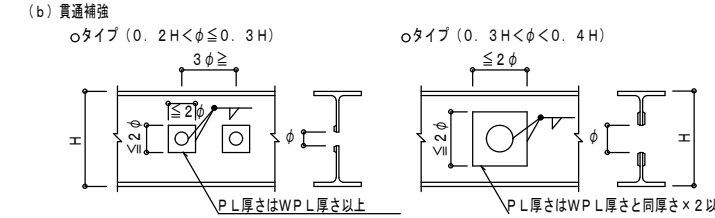
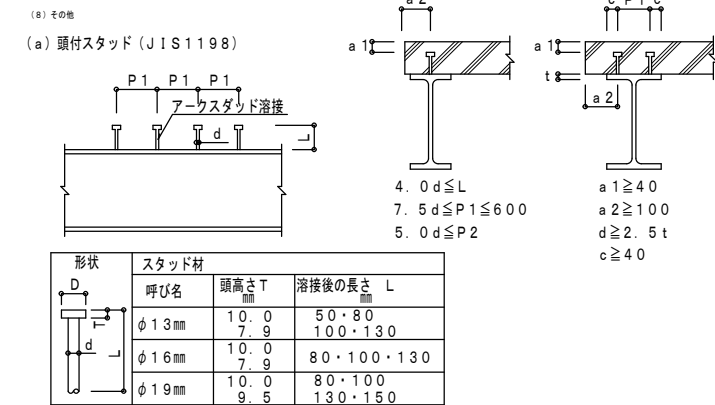
ねじの呼び(d)	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d1	最 大	0.8	2.65	4.65	6.33	8.32	1.99
調整ねじの長さ	最 小	0.64	2.46	4.46	6.11	8.12	1.77
取付ボルト穴径許容差+0. -0.5mm	Ss	100	115	125	140	150	165
はしあき(最小) 注(2)	e1	35	40	45	50	50	55
切 板 製	へりあき(最小) 注(1)	e2	22	28	34	34	38
平 鋼 製	板 厚	t	4.5	6	6	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき(最小)	e3	47	52	59	66	66	73
溶接長さ(最小)	1b	40	50	55	60	75	85
取付ボルト本数	注(2)	1-M12	1-M16	1-M16	1-M20	1-M20	1-M22

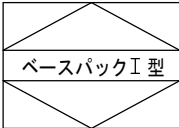
- 注(1) e1、e2が確保されていれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする
(3) 取付ボルトの種類はJIS B1186 2種高力ボルト(F10T)又はJIS B1180 中8g10.9

(7) 山形鋼ブレス



部 材	高力ボルト	ガセット	溶接長(1)	mm	サイズ	備 考
L-65×65×6	5-M16	9×90	164	98	114	8
L-75×75×6	5-M16	9×90	190	111	127	8
L-75×75×9	5-M16	9×125	276	154	170	8
L-75×75×12	5-M20	9×155	360	196	212	8
L-90×90×7	4-M20	9×120	266	149	165	8
L-90×90×10	5-M20	9×155	370	201	217	8
L-90×90×13	5-M20	9×195	472	252	268	8
2Ls-65×65×6	5-M16	6×235	436	230	242	6
2Ls-75×75×6	5-M16	9×190	380	206	222	8
2Ls-75×75×9	5-M20	12×205	442	241	261	10
2Ls-75×75×12	5-M20	12×255	576	308	328	10
2Ls-90×90×7	4-M20	12×205	425	233	253	10
2Ls-90×90×10	5-M20	12×270	591	316	336	10
2Ls-90×90×13	7-M20	12×340	755	398	418	10





角形鋼管

F値295N/mm²以下
□-150×150 ~ □-300×300 用

(財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」(平成30年9月21日付)

ベースパック柱脚工法設計標準図

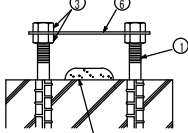
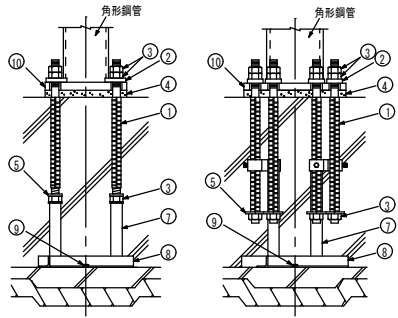
●ベースパック柱脚工法的设计は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社

TEL03 (3624) 5336 2019年1月作成

1. 工法概要

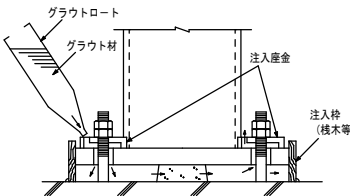
1.1 構成部材



- ① アンカーボルト
- ② 注入座金
- ③ Mナット
- ④ ベースパックグラウト(グラウト材)
- ⑤ 定着座金
- ⑥ テンプレート
- ⑦ フレームポスト
- ⑧ フレームベース
- ⑨ ステコンアンカー(コンクリートアンカー)
- ⑩ ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑥～⑩は現場状況により仕様異なる場合がある。

1.2 柱脚の定着方法概要



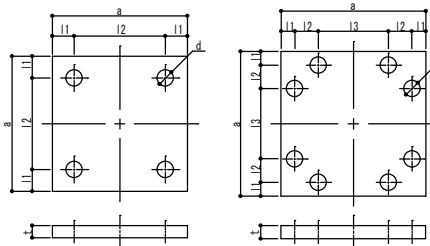
2. 柱

F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235 STKR400	
295	BCR295 TSC295	○

3. 構成部材・寸法

3.1 ベースプレート

●材質
SN490B [JIS G 3136]



形状 (イ)

形状 (ハ)

3.3 Mナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3.4 定着座金

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

適用 アンカーボルト	e1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合

適用 アンカーボルト	e1	e2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3.5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

記号	適用 アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3.2 アンカーボルト (Mアンカーボルト)

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

呼び d	異形部 呼び名	L [注1]	X	b [注1]	基準強度 (N/mm ²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

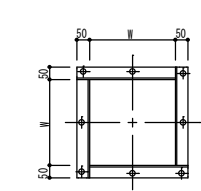
注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合

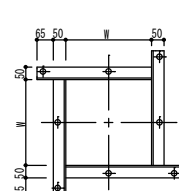
呼び d	異形部 呼び名	L	X	基準強度 (N/mm ²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

3.6 フレームベース

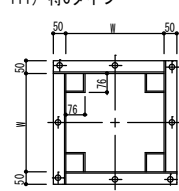
i) Aタイプ



ii) Cタイプ



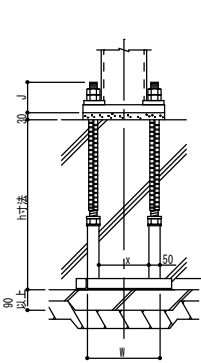
iii) 特Cタイプ



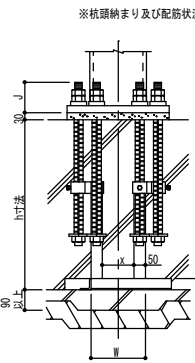
3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。

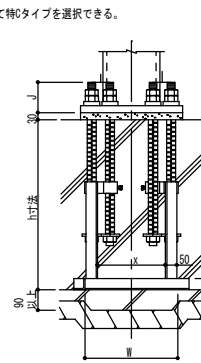
< Aタイプ >



< Cタイプ ※ >



< 特Cタイプ >



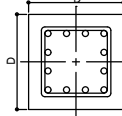
単位 mm

4. コンクリート柱型

4.1 形状・材質

●形状

柱型寸法を標準から変更する場合は、別紙「ベースパック柱脚工法における柱型寸法最大・最小値一覧」による。



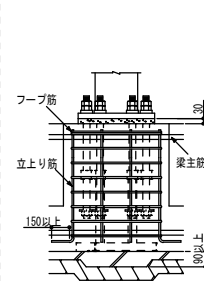
●コンクリート

普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm²以上とする。

●鉄筋

SD295 (D13, D16)
SD345 (D19, D22)

4.2 配筋

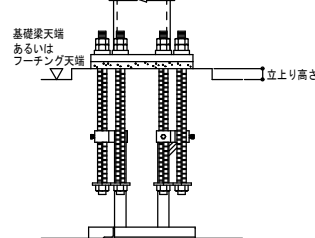


※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4.3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。

※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



5. 工場製作 (溶接)

■組立

●ベースプレートの中心線(※特線)に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法 (完全溶込み溶接)

●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の関光標準 (JASS 6 鉄骨工事 2007年版より)

図	溶接方法	適用板厚 T (mm)	ルート間隔S (mm)		ルートR面R (mm)		開先角度α (°)		溶接姿勢
			標準値	許容差	標準値	許容差	標準値	許容差	
	被覆 アーク 溶接	6~	7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 45	-2.5, +0 (-5, +0)	下向
			9	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 35		
		6~	6	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 45	-2.5, +0 (-5, +0)	下向
			7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 35		

許容差・記号+0は制限無しを示す。
・2段階きは「鉄骨検査基準」に規定する許容差(上段: 管理許容差、下段: 検査許容差)を示す。

■ベースプレートの予熱

●気温(鋼材表面温度)が5℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm)		
		t<32	32≤t<40	40≤t≤50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50℃	50℃
ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

6. 工事場施工

6.1 基礎工事

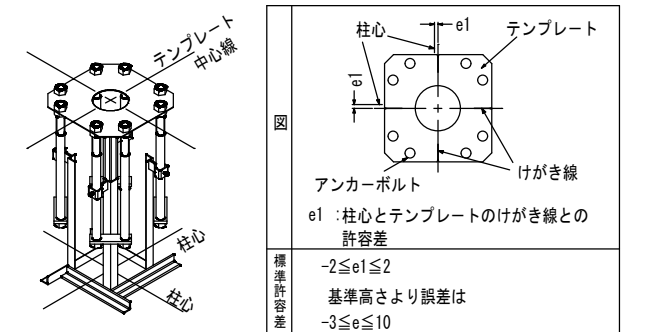
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



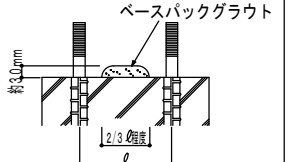
6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは右図による。



6.5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6.6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

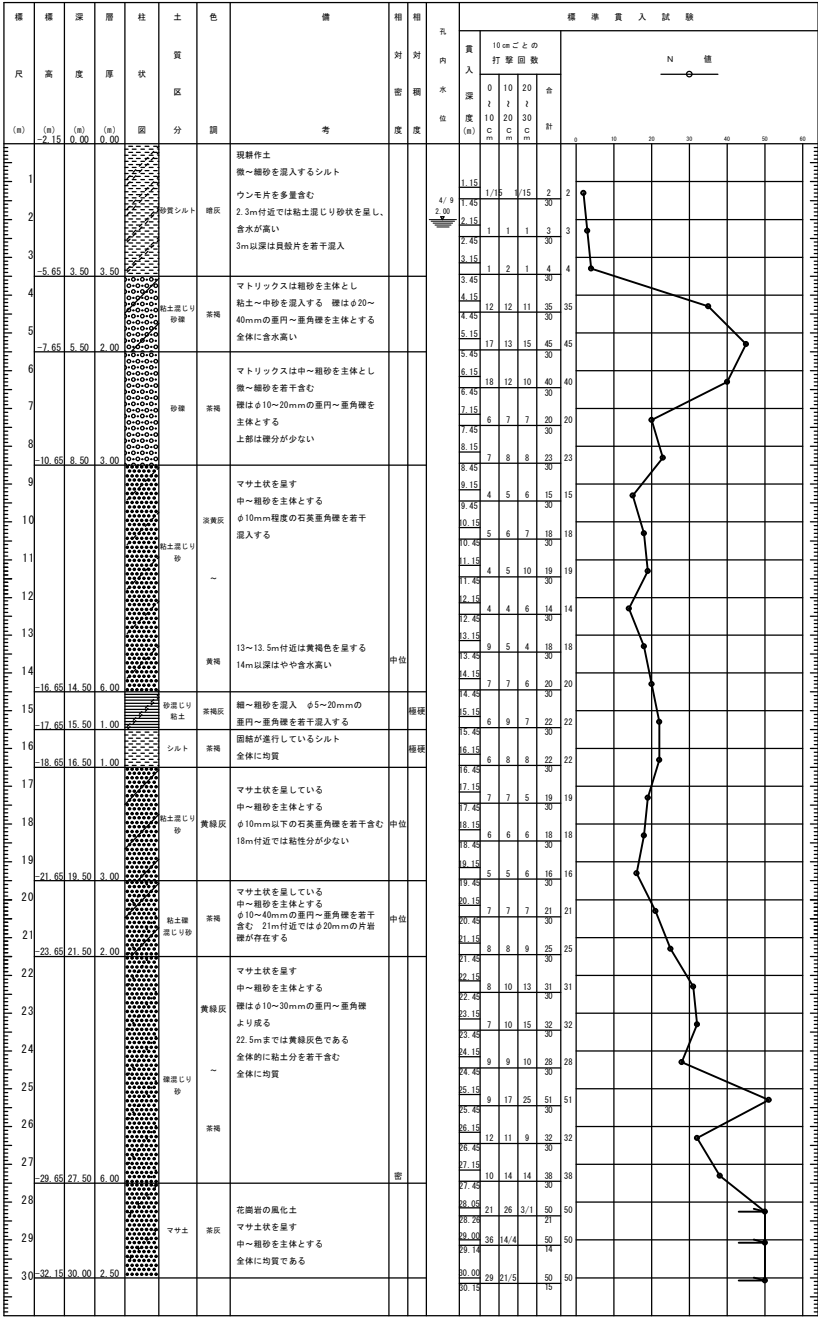
●本工法のうち6.2アンカーボルト据付け及び6.6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースパック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

ボーリング柱状図

調査名

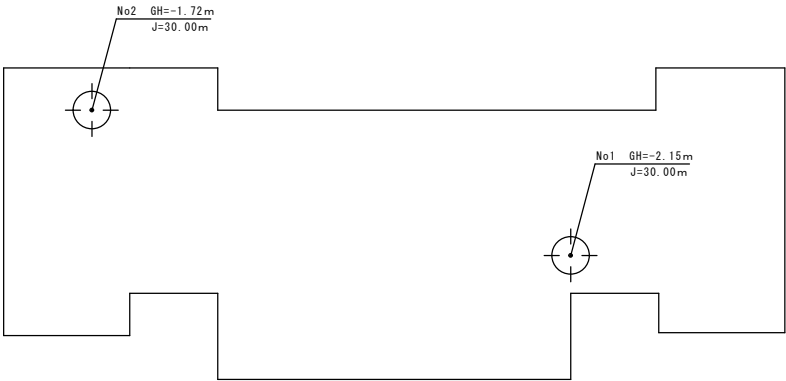
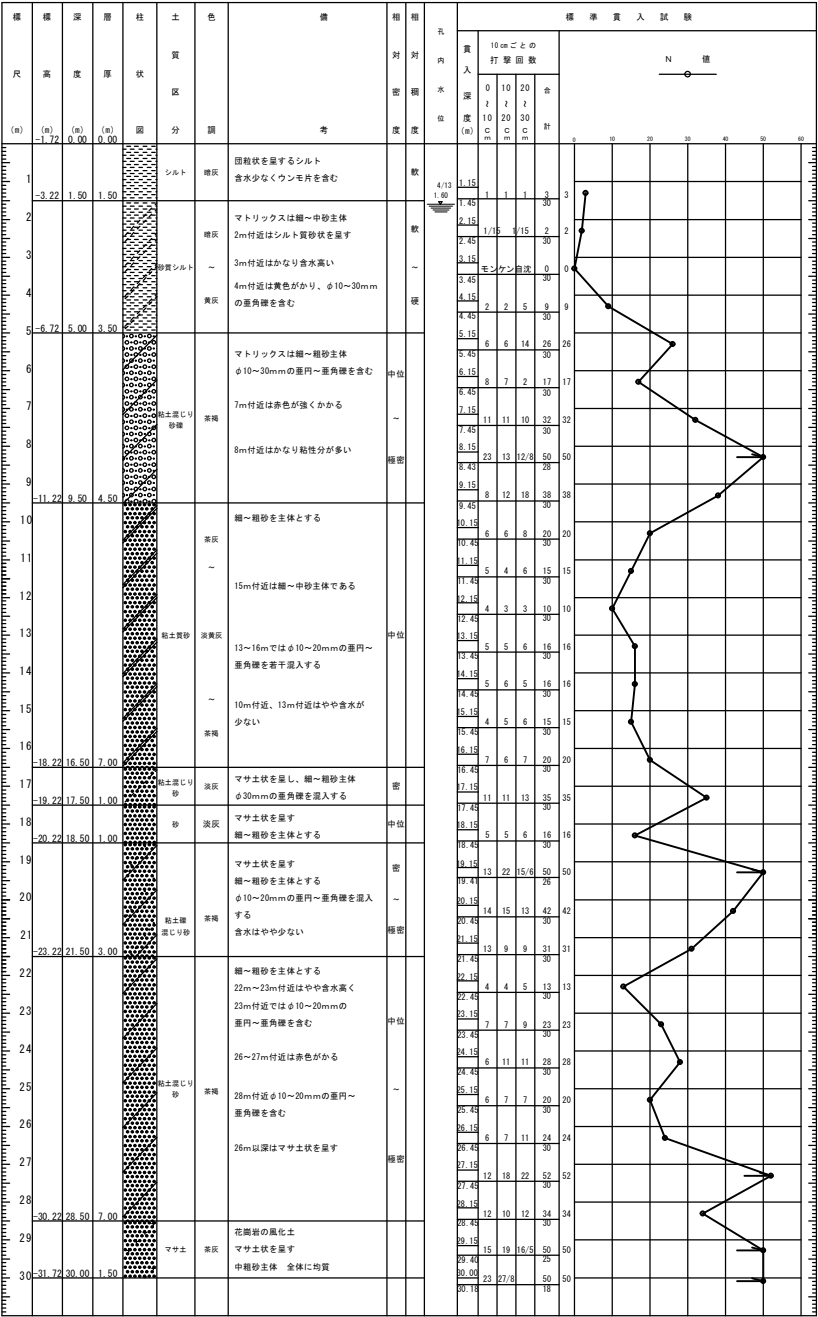
事業・工事名											シートNo.		
ボーリング名	No. 1		調査位置								北 緯		
発注機関					調査期間						東 経		
調査業者名					主任技師	現場代理人		コ ア 鑑定者		ボーリング責任者			
孔口標高	-2.15m	角度 180° 0°	方 向	北 西 180°	地盤勾配	鉛直 90°	使用機種	試験機		ハンマー 落下用具			
総掘進長	30.00m					エンジン		ポンプ					



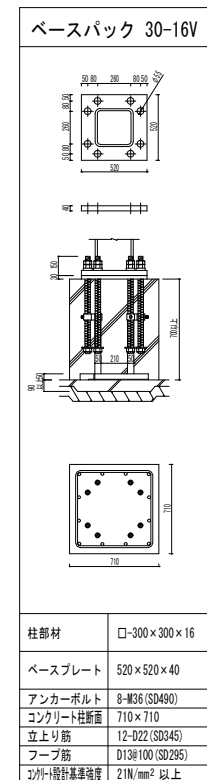
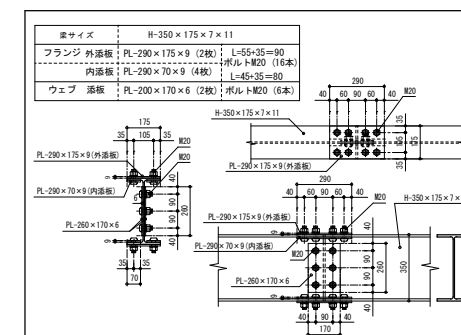
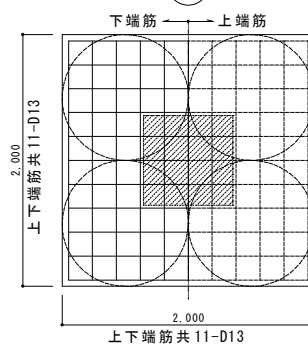
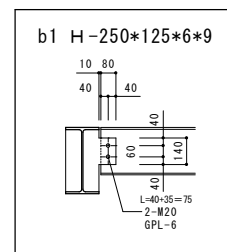
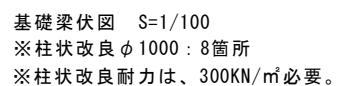
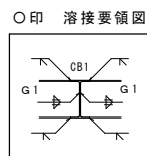
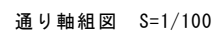
ボーリング柱状図

調査名

事業・工事名												シートNo.	
ボーリング名	No. 2		調査位置								北 緯		
発注機関					調査期間						東 経		
調査業者名					主任技師	現 場 代 理 人		コ ア 鑑定者		ボーリング 責任者			
孔口標高	-1.72m	角 度 180° 0°	方 向 北 西 180° 東 90° 南			地盤勾配 鉛直 90°	水平 0°	使用機種					
総掘進長	30.00m					試験機	エンジン		ハンマー 落下用具		ポンプ		



ボーリング位置図 S=1/300



C1	□-300*300*16	BCR295
G1	H-350*175*7*11	SS400
CB1	H-350*175*7*11	SS400
b1	H-250*125*6*9	SS400
R階水平ブレース	1-M16 (タンハッカル付)	SS400
庇	折板 88ハゼ、厚0.6	

仕様に記載されていない事項は、以下の仕様書による。

共建築工事標準仕様書（機械設備工事編 平成28年版）	国土交通省大臣官房官庁業務部監修
共建築工事標準仕様書（電気設備工事編 平成28年版）	国土交通省大臣官房官庁業務部監修
共建築工事標準仕様書（建築工事編 平成28年版）	国土交通省大臣官房官庁業務部監修
共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編 平成28年版）	国土交通省大臣官房官庁業務部監修
共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編 平成28年版）	国土交通省大臣官房官庁業務部監修
共建築改修工事標準仕様書（建築工事編 平成28年版）	国土交通省大臣官房官庁業務部監修
共住宅建設工事共通仕様書（平成28年版）	国土交通省住宅局住宅総合企画課監修

が発行された場合は、最新版に準じる。

内容で発注仕様の変更又は工事価格の変更が生じる場合は、発担当者と協議すること。

(補) 充足基準等

適用性検査、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の基準、指針、要領、標準図書による。

- (1) 「公共建築設備工事標準圖(機械設備工事情編 平成28年版)」 国土交通省大臣官庁府営部常設整備・環境課監修
- (2) 「公共建築設備工事標準圖(電気設備工事情編 平成28年版)」 国土交通省大臣官庁府営部常設整備・環境課監修
- (3) 「建築物工事標準詳細図(建築工事情編 平成28年版)」 国土交通省大臣官庁府営部常設整備課監修
- (4) 「機械設備工事管理指針(平成28年版)」 国土交通省大臣官庁府営部常設整備室
- (5) 「電気設備工事管理指針(平成28年版)」 国土交通省大臣官庁府営部常設整備室
- (6) 「建築物工事監理指針(平成28年版)」 国土交通省大臣官庁府営部常設整備室
- (7) 「施設改修工事監理指針(平成28年版)」 国土交通省大臣官庁府営部常設整備室
- (8) 「建築物耐震設計・施工指針(2014年度版)」 独立行政法人 建築研究所監修
- (9) 「建築物安全衛生技術指針」解説版① 国土交通省大臣官庁府営部常設整備課監修
- (10) 「建設労働者処遇改善計画」厚生労働省生活労務局策定
- (11) 「建築物物体落下に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル」 環境省大気保全局(環境省アスベスト飛散防止対策研究会)
- (12) 「防災型工事の手引き」 福岡県建築都市部編集

年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。

ただし、改正内容で発注仕様の変更又は工事価格の変更が生ずる場合は、発担当者と協議すること。

3. 現場へ常備する図書等

1. 適用性検査及び2. 充足基準等のうち、当該仕事に係る図書等については現場事務所に常備し、監督職員の承認を得ること。

4. 特 記 仕 様

(1) 草書および項目は番号に○印のついたものを適用する。

(2) 特記事項のうち関係する事項は、原則として※を捺印するか、それ以外を適用する場合は ○印をつけて選択する。

(3) 図面に明記なくも掘削機上・機能上・意匠上当然と認められるものは、本署にて取正すること。

章	項 目	特 記 事 項
1	1. 発 生 材 の 処 理	※18建設副産物の処理についての項を適用すること。 ※フロンの処理は、19フロン処理についての項を適用のこと。
2	2. 残 土 処 分	※横外搬出・横内搬き均し
3	3. 官公署その他への 手続き	この工事に必要な官公署その他の関係機関への諸手続等は、これに必要な資機材、労務、 及び費用を該負者の負担にて速やかにこない、その検査に合格すること。
4	4. 機 能 試 験	工事の内容に応じて、機能試験を行うこと。
5	5. 他 工 事 と の 接 合	※施工区分表による・図面詳細による
6	6. 技 能 士 の 適 用	住宅においては20坪以上、住宅以外の建物については1,500㎡以上の工事に適用する。 ・配管（建築配管作業）・基礎板金（ダクト板金作業）・熱熱給施工（保溫保冷工事作業） ・冷凍空調調機施工（冷凍空調調機機器施工作業）
7	7. あ と 施 工 ア ン カ ー	あと施工アンカーの施工は、（一社）日本建築と施工アンカー協会の登録業者にを行うこと。
8	8. 監 督 員 事 務 所	※図面にいう・設ける（10 区画）品目については監督員の手配による。
9	9. 工 事 用 機 材 ・ 水 ・ その他	この工事に必要な工事用電力（仮設及び試運転調整用電力を含む）と水（機能検査、消火 用水及びプールの水張りを含む）及び諸手続などの費用は、すべて該負者の負担とする。
10	10. 足 場	・他工事・諸詳細による。）
11	11. 矢 板	掘削深さ（1,500 mm以上）の掘削には矢板を使用すること。

この工事に使用する機材は、監督職員（係員）の承認を受けること。

な、材料及び製品品については、地域機材の使用に努めること。

イ) 機器類の能力、容量等（電動機出力は除く）は、原則として、表示された数値以上とする。

ロ) 電動機出力は、原則として、表示された出力以下の容量とする。

ハ) 電動機の周波数は、60Hzとする。

③ 耐震施工

設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。

(1) 設計用標準震度 (Ks)

機器毎の耐震安全性の分類及び設置場所により下表より求める

設置場所	耐震安全性の分類							
	○特定の施設				・一般の施設			
	重要機器	重要水栓	一般機器	一般水栓	重要機器	重要水栓	一般機器	一般水栓
上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	2.0	1.5 (2.0)	1.5	1.5 (2.0)	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0
中間階	1.5 (1.5)	1.5	1.0 (1.5)	1.0	1.0 (1.5)	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6
地階及び1階	1.0 (1.0)	1.5	0.6 (1.0)	1.0	0.6 (1.0)	1.0 (1.0)	0.4 (0.6)	0.6

() 書きの数値は防振機器

通 4. 防火区画等を貫通する配管 5. 給水管等の材質 6. ライニング配管の継手	耐火構造又は防火構造（耐火構造及び防火構造）一般の施設） * 次に示す機器を、重要機器、重要水槽とし、それ以外の機器を一般機器、一般水槽とする。 ＊ 上層階の定義は、次のとおりとする。 2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階 (2) 地域係数 (Z) 地域係数 (Z) は、1.0とする。 給水管その他の管が、建築基準法施行令第112条第15項の準耐火構造の防火区画等を貫通する場合の措置は、図5による。 飲料用の給水・給湯管、継手、弁類、水栓等については、鉛に関する浸出性能基準を満足すること。 呼び径100以下はねじ接合、125以上はフランジ接合とする。
--	--

8.	埋設構造物	埋設深さは150mm、テープ幅は150mm以上（図-1）とし、色については次による。 土壌（赤） ガス（緑） 消火管（赤） 中水（黄色） 湯（茶） その他については、監督職員（係員）の指示による。 ※標準仕様書による。図示による。
9.	地中埋設配線	コンクリート内の防食は、防食用ビニルテープ巻（1/2巻1回巻）とする。 地中埋設は、ベトロコンクリートと並走のうえ、ベトロコンクリート系防食テープ1/2巻1回巻きを行う。さらにプラスチックテープ1/2巻1回巻きを行う。継手は凹部分にベトロラテックスマスキングを詰め、表面を平滑にしながら防食シートで包み、プラスチックテープ1/2巻1回巻きとする。
11.	コンクリート強度	① 無筋コンクリートの配合は、1：2：4とする。 ② 鉄筋コンクリートの設計強度は、18N/mm ² とする。
12.	はつり	既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の孔開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。事前に探知機等を使用し、コンクリート内の配筋・配線等を避けること。
13.	ポンプ電動機の種類	・ 温水ポンプ 横 ・ 冷水ポンプ 横 ・ 冷水ポンプ 横 ・ 水中央ポンプ（上水、汚水） 横 ・ 小形給水ポンプユニット 横
14.	電気工事	※電気工事士法に定める「電気工事」に「軽微な工事」を自ら行うものは、電気工事業の登録または届出及び電気工事士資格を有し、「軽微な工事」を自ら行うものは電気工事業の登録または届出を要する。 ※特記なき電線管は、導線電線管又は同一外径のねじなし電線管とする。 ※可とう電線管は、2階風風可とう電線管とする。 ※特記なき電線管は、600Vビニル絶縁電線とする。
15.	壁 類	この工事と設置する壁類の仕様については、監督職員（係員）の承認を受けること。

4.	大 便 器	・和風大便器（※節水型 ・一般型） ※耐火カバー（防火区画貫通部） ・洋風大便器（※節水型 ・一般型 ・高座便器）
衛 生 器	2. 大便器洗浄方式	・節水型 FV（バキュームブレーカ付） ・タンク式
	3. 小便器	・尿器型 ・壁掛型
	4. 小便器洗浄方式	※専用洗浄弁式 ・洗浄弁式
	5. 洗面化粧台	※洗面化粧台キャビネット部材は、ホルムアルデヒド放散量が日本農林規格（JAS）で定めるF☆☆☆☆基準のものとする。
具 設 備	6. 水 栓	※水コマ付 ・普通コマ付
	7. 鏡	・普通 ・盗難防止形 ・耐食 ・盗難防止形耐食 ・身体障害者対応
	8. 水 栓 柱	70" 口×1300（※人研製 ・レジン製 ・SUS製）
	9. 器具配置	トイレブース内の紙巻器、リモコン類等についてはJIS S0026に則った配置とすること。

1. 量	水	器	・親メーター（※貨物品 ※買取り） ・子メーター（・貨物品 ※買取り）	※計法 検定合格品とする。
2. 量	水	器 機 類	・水道事業者指定品（・貨物品 ※買取り） ・国土交通省型 ・その他 ・水道連結部分 JIS（※10K ・） ・その他の部分 JIS（・5K ・10K）	
3. 弁			・塩ビライニング鋼管及びポリ粉体鋼管の配管に取り付ける鉄製製の弁はライニング弁とし、青銅製又は管端防食継手の規定に準じた管端コを備えたものとする。 ・鉄製スレーナ－はライニングを施したものとする。	
4. 弁		機	・国土交通省型 図2によ。	
5. 配管	材	料	一般配管 ・塩ビライニング鋼管（SGP-VA） ・塩ビライニング鋼管（SGP-PD） ・塩ビライニング鋼管（SGP-VB） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PB） ・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP） ・鉄管（ 型 種） ・ステンレス鋼管（SUS）（・圧着接合 ・溶接接合 ・拡管接合） ・架橋ポリエチレン管またはポリブテン管（さや管工法）	
			屋内地中配管 ・塩ビライニング鋼管（SGP-VB） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）	
			屋外地中配管 ・塩ビライニング鋼管（SGP-VB） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP） ・水道用硬質塩化ビニル管（VP） ・ポリエチレン管 1種（PE） （・溶着接合 ・金属管昇接合）	
			厨房、浴室等のシンダー内配管 ・塩ビライニング鋼管（SGP-PB）	

6. 引込 納付 室等	※別途
7. ポンプ基礎	・標準基礎 ・防振基礎
8. 他の設備項目の適用	下記のものは、空調調和設備の当該項目を適用する。 (イ) 防振機手 ロ) フレックジッドハ) 防振吊り金物及び支持金物（ただし排水管のみ） ※標準値 ・ (a) ・ (b) ※ (c) スリクッション) による。 ・一般敷地 (・300 mm mm) 横間車間通路 (・600 mm mm) ※用いる (図4による。) 塩ビライニング鋼管と給水栓・銅合金製配管附属品等との接続
9. 建物導入部配管	
10. 管理地深さ	
11. 器具接続用管端	
防食管継手	
1. 配管材料	・汚水管 ・硬質塩化ビニル管 (VP) ・硬質塩ビライカル管 (RF-VP) ・耐火二層管 ・排水用塩ビライニング鋼管 ・純排水管 ・配管用炭素鋼管 (白) ・硬質塩化ビニル管 (VP) ・カラーVP ・硬質塩ビライカル管 (RF-VP) ・耐熱硬質塩化ビニル管 ・耐火二層管 ・排水用塩ビライニング鋼管 ・屋外排水管 ・硬質塩化ビニル管 (・VP ・VU) ※呼び径125以上は原則としてVUとする。 ・小口径樹立り管・リサイクル硬質塩化ビニル管 (・※RS-VU) ・通気管 ・配管用炭素鋼管 (白) ・硬質塩化ビニル管 (VP) ・カラーVP ・硬質塩ビライカル管 (RF-VP) ・耐火二層管 2. 管 接 合 ・鋼管 (・ねじ込み式 ・MD継手 ・) ・排水用塩ビライニング鋼管 (・MD継手 ・)

4. 井 類 5. 床上掘削直下の管管 6. コンクリート樹たよ 7. 小口 径 樹 た 類	特記以外JIS 5K とする。 排水鉄管系統の床上掘削直下に取り付ける管は45° 2 回曲りとする。 図面詳細による。 図面詳細による他、下記による。 ミカゲ (未種装部) 鋼鉄 (歩道部) 保護鉄鉄 (車道部) (・T-8 ・T-14 ・T-25) ビニル製伸縮継手 空気調和・衛生学会規格SHASE-S 217 (グリース阻集器) によるものとする。 排水流し下のビニル製排水管には差込 (VV) ソケットを使用すること。 図示による。
1. 管 類 2. 器具接続用管箱 防食管継手 3. 井 類 4. 貯留式ガス通気管 5. 排気筒及び煙突 6. 保 温 7. 漏 洩 器 8. 燃 料	イ) ステンレス鋼管 (・圧縮接合・溶接接合) ・保温付ステンレス鋼管 ・耐熱塩ビライニング鋼管・鋼管・保温付被覆鋼管・被覆耐熱鋼管 ・架橋ポリエチレン管またはポリブデン管 (さや管工法) ロ) 鋼管使用の場合はM管とし、電気防止継手を取付ける。 ※用いる (図4 による。) JIS 5K とする。ただし、特記部分はJIS 10K とする。 オバークローブクロームメッキ鋼管にて最悪りの流しに間接排水する。 ガス通気管用排気筒は、JIS S 3025によるSUS304 (厚さ0.3mm以上) とする。 ・排気筒の断熱 (※要 (隠への箇所のみ) ・不要) ・1) 膨張水槽の保温 (・要 ・不要) ロ) コンクリート埋設部 (・防水麻布巻 ・保温施工) 縦開式・貯留式・風呂給湯器 (オートタイプ) ・ガス・灯油・電気
1. 消火ポンプの基礎 2. フート井・呼水槽 及びサクションカンパ 3. 屋内消火栓手 4. 保 温 5. 管 類 6. 消 防 設 備 土	・標準基礎 ・防護基礎 ・要 ・不要 ※減圧弁付 ・屋内消火管 (・要 ※不要) ・屋外露出消火管 (※要 ・不要) ・配管管用炭素鋼管 (白) (屋内) ・外面被覆鋼管 (・SGP-VS ・SGP-PS) ※要

1. 種	類	・都市ガス（ガス種 ※13A・12A）	・液化石油ガス
2. 管	類	一般配管 ・配管用途表鋼管（白） ・ガス用ステンレス製フレキシブル管	
		ビッド内配管 ・鋼質塩化ビニル被覆鋼管 ・ポリエチレン被覆鋼管	
		ビッド外配管 ・鋼質塩化ビニル被覆鋼管 ・ポリエチレン被覆鋼管	
		屋外埋設配管 ・ポリエチレン管 JIS K 6774	
3. 都市ガス		イ）ガスメーター 親メーターはガス供給事業者より借用、子メーターは買取りとする。	
4. 液化石油ガス		イ）ガスメーター（・買取り ・借用） ロ）集合装置（・別途工事 ※本工事） ハ）転配防止用の鎖（・別途工事 ※本工事） ニ）コンベヤ置場のコンクリート基礎（※別途工事 ・本工事）	
5. ガス湯沸器の付属品		運動スイッチ（・要 ・不要）	
6. ガス漏れ警報器		・本工事 ・別途工事 ※ガス漏れ警報器工事は、住宅工事においては原則として行わない。	
7. 施工資格		液化石油ガス設備士による施工とする。	
8. ガス栓		（財）日本エネルギー機器検査協会、検査合格品とする。	
9. 絶縁継手		※要 ・ 不要	
10. 建物導入部配管		・標準図（・（a） ・（b） ※（c）スリークッション）による。	

- ① ダクトの種別
2. 厨房ダクトの板厚
- ② ダクトの工法・種類
 - ※依仕ダクト ※立仕ダクト
 - 厨房排気ダクト（矩形ダクトに限る）の板厚は、表1による
 - イ）給気用ダクト ・アングル工法 ・コーナーボルト工法（・共振・スライドオン）
 - パイラウドダクト ・耐火二層管工法 ・VP管工法
 - ロ）排気用ダクト ・アングル工法 ・コーナーボルト工法（・共振・スライドオン）
 - パイラウドダクト ・耐火二層管工法 ・VP管工法
 - ※コーナーボルト工法ダクトは、原則として厨房排気等には使用しない。
4. ダクトの分岐方法
 - イ）給気用ダクト ※割込み方式 ・直付け方式
 - ロ）排気用ダクト ※割込み方式 ・直付け方式
 - ※指定色仕上げ ・指定なし
 - イ）排気フードの補強及び支持金物、接合材等は、亜鉛鉄板製風道の当該事項による。
 - ロ）材質 ※ステンレス製 ・亜鉛鉄板製
 - ハ）グリースフィルターは、設置台数と同数の予備品を納入する。
7. 多用途世帯の範囲
- ② 他の設備項目の適用
 - ※浴室 ※浴室（シール有）
 - 下記のものは、空気調和設備の当該項目を適用する。
 - イ）風量測定口 ロ）チャンパー等 ハ）吹出口及び吸込口の材質
 - ロ）防塵カバー ホ）消音内貼り ヘ）防塵予け金物
 - ・床置（・標準基礎 ・防振基礎） ○吊吊（・標準吊による。）
- ③ 送風機の基礎

1. ダクトの材質

2. 排煙口

1. 中央監視制御

2. 中央監視制御装置の構成・機能

3. 電源装置

・重钢板製
・普通鋼板製

イ) 形状 ・スリット形 ・バルン形 ・ダンパー形
ロ) 開放装置 ・手動 ・手動及び遠隔操作可能なもの

・要 ・不要
別紙による。

・要 (・本工事 ・別途電気工事) ・不要

1. 温湿度調整目標値

	外気	室内							
		・ ()				・学校 (一般系統)		・学校 (厨房)	
	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	
夏季	34.8℃	27.5℃	57.1%	℃	℃	%	28.0℃	%	
冬季	1.8℃	-0.7℃	59.2%	℃	℃	%	19.0℃	%	

2. 電気工事の範囲

3. バックジェエコン

4. 配管材料 (ハ) カン7172を除く)

5. 冷媒

6. 井

7. 防振継手

8. フレキシブルジョイント

9. ダクト

10. 風量測定口

11. チャンバー等

12. 吹出口・吸込口の材質 (チャムパー共)

13. 防煙ダンパー

14. 煙道

15. 保温

16. 消音内貼り

17. 機器類の架台

18. 機械室 (配管・風道) のつり金物

19. 温度計

20. 圧力計及び流量計

21. 瞬間流量計

22. ファンコイルユニット用調節弁

23. 油サービスタンク

24. 地下貯油槽

25. 予備品

26. アワーメーター

27. 温度計

28. 湿度計

29. ばいじん測定孔

※施工区分別による。 ・図面詳細による。
イ) 冷媒 ※HFC系 (R407C, R410A, R134a, R32等)
ロ) 冷媒管 (※断熱材被覆鋼管 (断熱厚さ: 液管10mm (液管の管径9.52mm以下は厚さ8mm)、ガス管20mm))
ハ) 冷媒管及びドレン管の区画処理 (・有 (※国土交通大臣認定工法 (その他) ・無)
ニ) ドレン管の材質 ・配管用炭素鋼鋼管 (白) ・カラーVP
ホ) 断熱防止層付強化ビニル管 ・硬質塩化ビニル管 (RF-VP)
ヘ) ※2015年省エネ基準適合品とする (各メーカー最薄AFF機種)

イ) 給水管 ・塩化ビニル鋼管 (・SGP-VB ・SGP-VA)
ロ) 冷温水管 ・配管用炭素鋼鋼管 (白) ・耐熱塩化ビニル鋼管
ハ) 排水管 ・配管用炭素鋼鋼管 (白) ・硬質塩化ビニル管 (VP) ・カラーVP
ニ) 冷却水管 ・塩化ビニル鋼管 (※SGP-VB) ・
ホ) 蒸気及び油配管は配管用炭素鋼鋼管 (黒) とする。
ヘ) 冷媒管 (・鋼管 ・断熱材被覆鋼管 (製造者標準品))
ト) 冷媒管の区画処理 (・有 (※国土交通大臣認定工法 ・その他) 〇無)
チ) 排煙管、安全管及び膨張水槽よりボイラの給水管の配管材料は、水道用亜鉛メッキ鋼管とする。

※HFC系 (R407C, R410A, R134a, R32等) ・自然冷媒 (CO2, NH3)
JIS 5K とする。ただし特記部分は JIS 10K とする。
・ベローズ形 ・合成ゴム製 (・合成ゴム製 ・山形ベローズ形)
※長さは標準仕様書による。
・ベローズ形ステンレス製 ・合成ゴム製

イ) 種別 (※低圧ダクト ・高圧ダクト)
ロ) 工法・構造 (・アングル工法 ・コーナート工法 (・共板 ・スライドオン) ・スパイラルダクト ・ステンレスダクト)
ハ) 分岐方式 (※前記方式 ・直付方式)
標準仕様書によるほか、取付を図示された部分に取付ける。
イ) シーリングディフューザーには、下記の接続チャムパーを設ける。
a) ネット径が200φ以下 400×400×250H
b) ネット径が200φをこえるもの 500×500×300H
ロ) フリースライン形吹出口には、下記の接続チャムパーを設ける。
a) シングル形 200×(L+100)×300H
b) ダブル形 250×(L+100)×300H
ハ) 外壁に面するガラスに直接取り付けけるチャムパー、ホッパーには排水弁を設ける。
イ) ユニバーサル形吹出口 ・鋼板製 ※アルミ製
ロ) シーリングディフューザー ・鋼板製 ※アルミ製
ハ) 吸込口 ・鋼板製 ※アルミ製 (外気吸込口には防虫網とする。)
下記のものとは仕様による。
イ) 操作方式 ・電気式 ・空気式
ロ) 操作方式 ※遠隔式 (※電気式 ・空気式) ・手動式
ハ) 温度ヒューズ ・取り付け付 ・取り付けない
ニ) 表示用端子 (・設ける ・設けない)

鋼板厚 (・4.5mm ※3.2mm)

下記のものとは仕様による。
イ) 建物内の送気排気管の保温は、空気吹きまきでとし、仕様は温水管の項による。
ロ) 空気調和機・ファンコイルユニット等の排水管の保温は、給排水衛生設備の排水管の項による。
ハ) 送風機の保温 (・要 ・不要) ニ) 膨張水槽の保温 (・要 ・不要)
ホ) 内貼りチャムパー等の保温 (・要 ・不要)

ハ) 送風機の保温 (・要 ・不要) ニ) 膨張水槽の保温 (・要 ・不要)
ホ) 内貼りチャムパー等の保温 (・要 ・不要)

イ) 送風機の保温 (・要 ・不要) ニ) 膨張水槽の保温 (・要 ・不要)
ホ) 内貼りチャムパー等の保温 (・要 ・不要)

イ) バックジェエコン空気調和機 (・防振架台 ※木) ※転倒防止処理
ロ) ユニフォーム空気調和機 (・標準架台 ・防振架台)
ハ) 送風機 (・標準架台 ・防振架台) ニ) ポンプ (・標準架台 ・防振架台)
ホ) 冷凍機 (・標準架台 ・防振架台)
ヘ) ラーユニット (・標準架台 ・防振架台)
・防振コリ金物 (・シングル ・ダブル) (・中央機室 ・各階機室)

※標準仕様書による。

※標準仕様書による。

※要 (※標準仕様書による) ・図示による。 ・不要
・流量調節弁 ・流量量弁 (流量設定が可能なもの)

イ) 防油堤 (コンクリート製) ※別途工事 ・本工事
ロ) フロートスイッチの機能は、下記による。
・給油ポンプの起動、停止 ・減油警報 ・減油警報
ハ) 油面計 (・フロート式 ・ゲージ式)
イ) タンク室 ・設けない ・設ける (・別途工事 ・本工事)
ロ) 計量器 (・計量尺 ・直読式 (防水蓋スプリング付、プロテクター共) ・遠隔式)
ハ) 土工事 ・オープンカット ・矢板 (・有 ・無) ・特殊基礎 (・有 ・無)

※ファンコイルユニット付属品 イ) 運転表示ランプ 台数の1/2以上
ロ) フィルター 各型番台数の1/2以上
※自動運転空気送達用フィルター (各台1個)
※ユニット空気送達用フィルター 個

※要 (指定機器) ・不要
※要 (指定機器) ・不要
・設ける
・設ける (煙道の直線部に直径80φ以上のフランジ付とする。) ・設けない

工事名称

工事場所

設計者氏名

事務所名及び所在地

行橋消防庁倉庫庫改修工事

福岡県行橋市中央1丁目9番22号

1級建築士 大倉 登 93559 号
松尾 真也 印

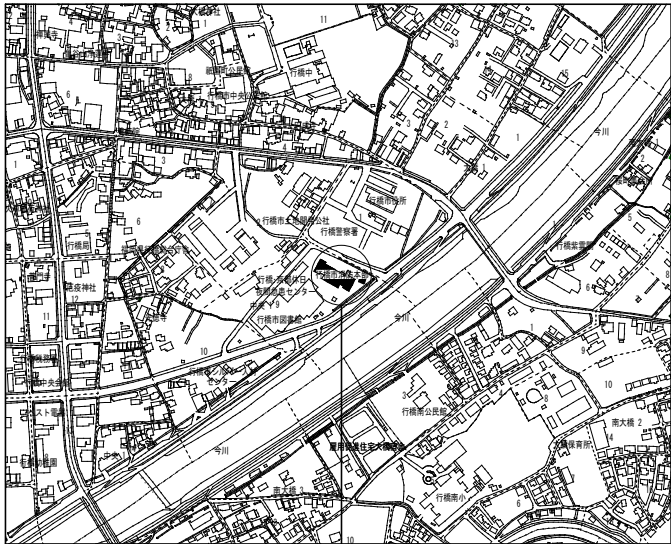
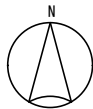
一級建築士事務所 福岡県知事 登録 1-27057号
株式会社 エム・ピー・アイ 一級建築士事務所
福岡県行橋市行事8丁目8-10

H 3 1 - 4

令和 2 年 月 日

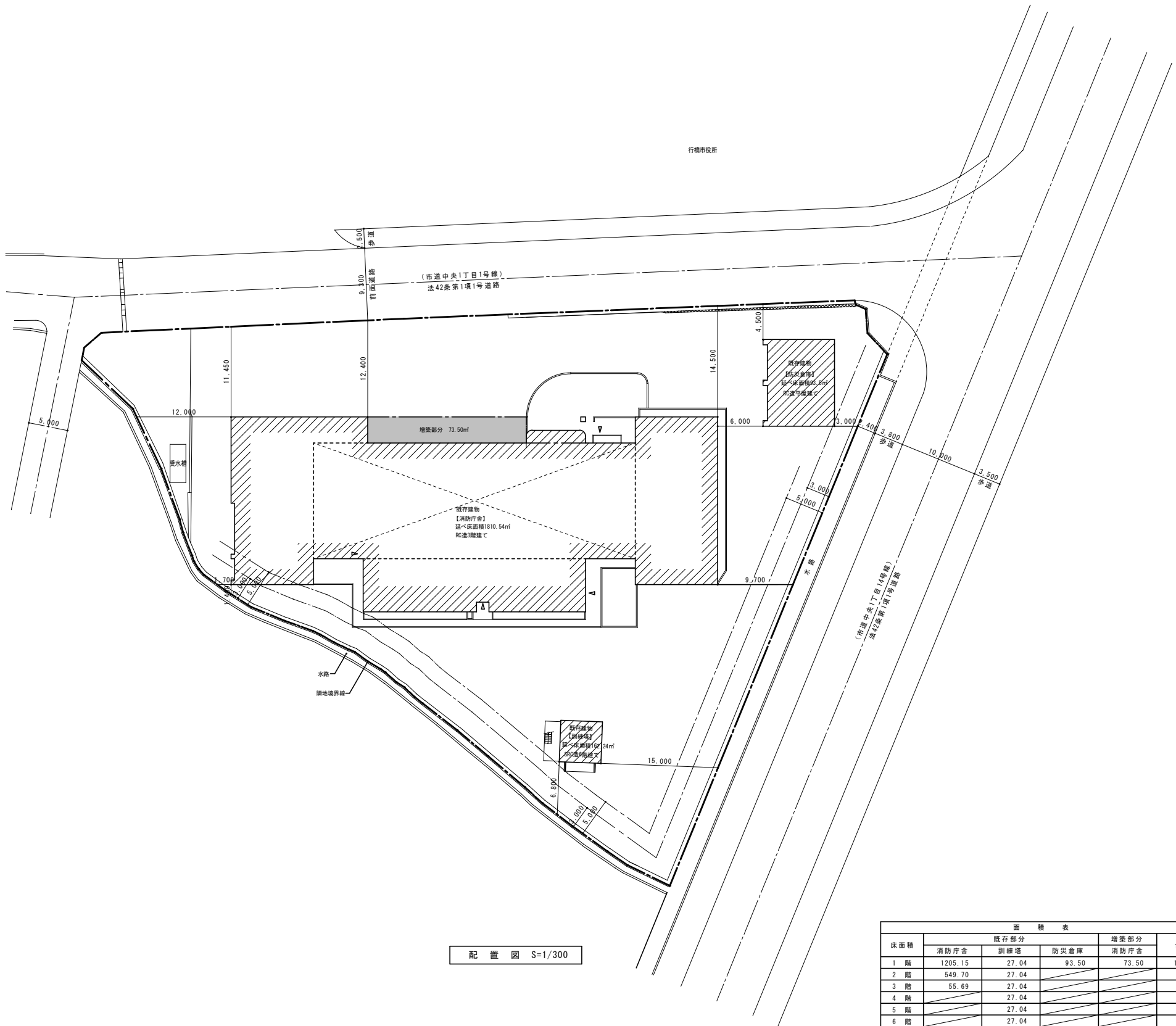
特記仕様書

図番 M-01 号



福岡県行橋市中央1丁目9番9号

案内図 No. Scale



配置図 S=1/300

既存建物	確認年月日	確認番号
消防庁舎	昭和59年8月2日	第270号
訓練塔	昭和59年8月2日	第270号
防災倉庫	平成7年3月2日	H06認建行土001051号

面 積 表					
床面積	既存部分			増築部分	合 計
	消防庁舎	訓練塔	防災倉庫	消防庁舎	
1 階	1205.15	27.04	93.50	73.50	1399.19
2 階	549.70	27.04			576.74
3 階	55.69	27.04			82.73
4 階		27.04			27.04
5 階		27.04			27.04
6 階		27.04			27.04
計	1810.54	162.24	93.50	73.50	2139.78
建築面積	1281.43	38.80	95.70	73.50	1489.43
敷地面積	4486.64	建ぺい率	1489.43 / 4486.64		33.19%
		容 積 率	2139.78 / 4486.64		47.69%
用途地域	第2種住居地域	建ぺい率	60% / 容 積 率	200%	

特記事項

(株) エム・ピー・アイ 一級建築士事務所
福岡県知事登録第1-20757号
福岡県行橋市行事8丁目8-10
TEL 0930-26-1101
代表取締役 松尾 真也
一級建築士 大臣登録第223859号

工事名称
行橋市消防庁舎車庫改修工事

図面名称
案内図・配置図

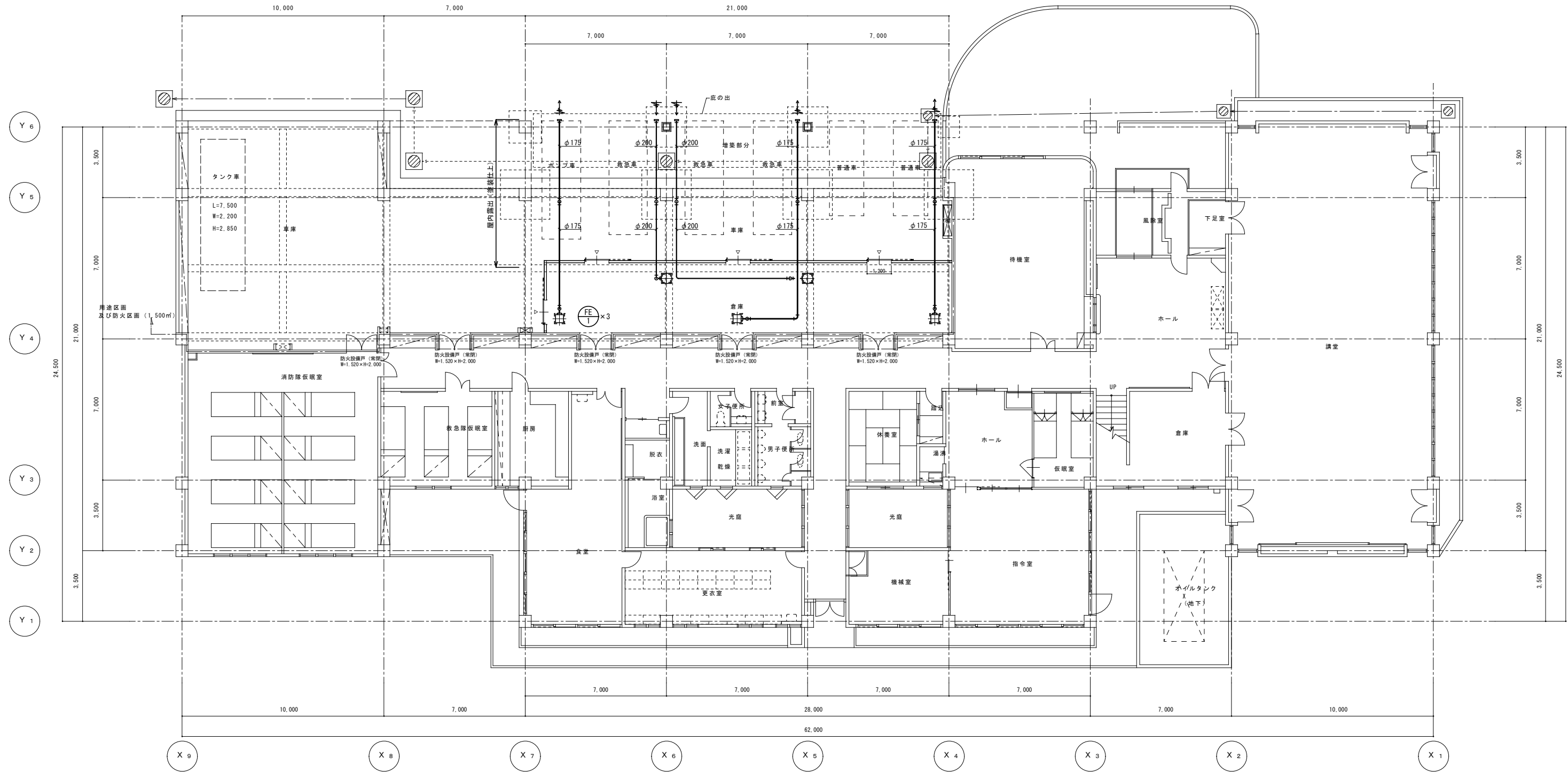
縮尺
S=1/300

製図年月日	2020年08月		
	所長	検図	作図

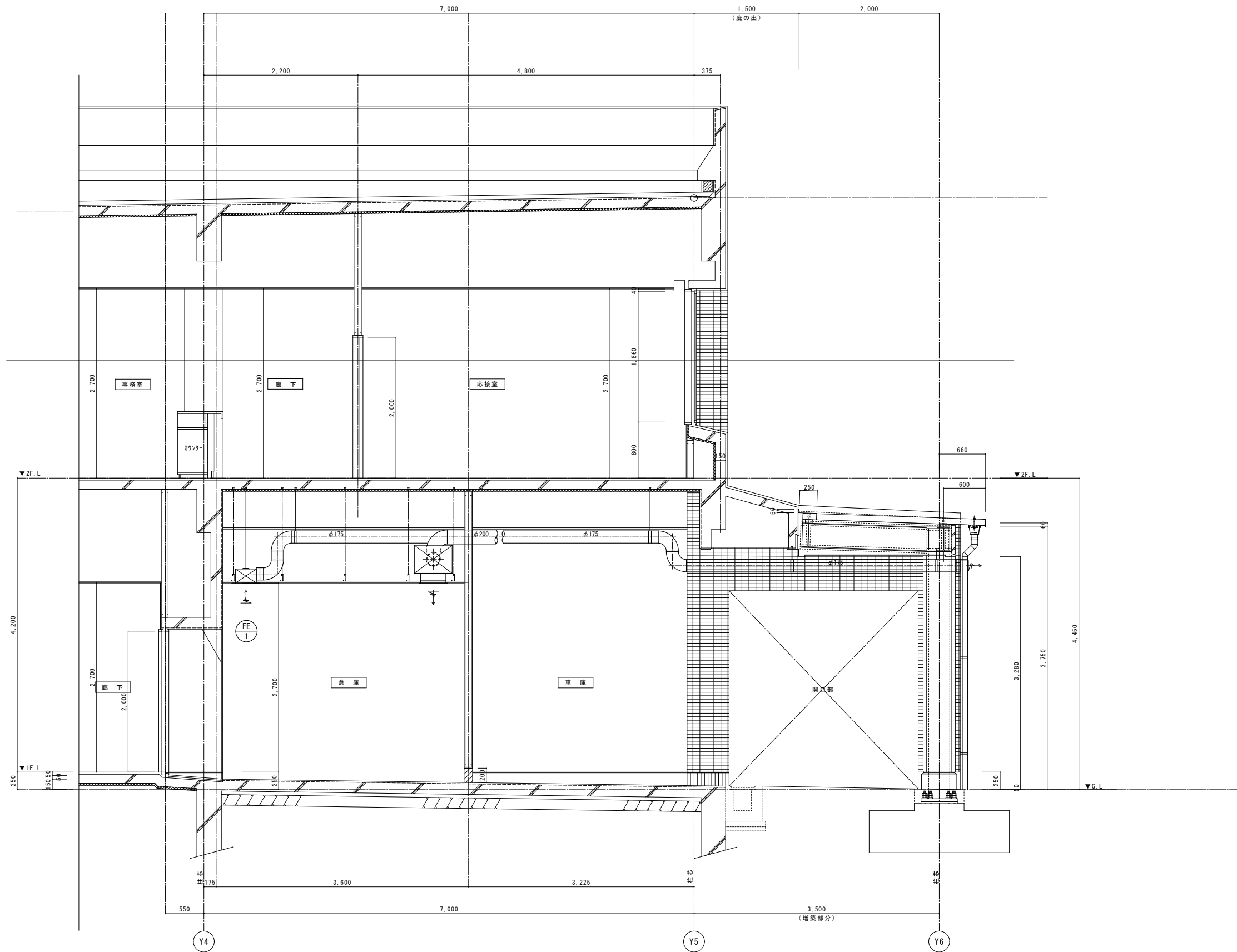
倉庫
吹出口
HS 350×350
495CMH
BOX 550×500×400H (内面塗装仕上)

× 2

換気機器表										
記号	名称	型式	風量 (m³/H)	静圧 (Pa)	参考消費電力			台数	附属品及び備考	
					φ	V	W			
FE-1	天井扇	サニタリー用・プラスチック製	330	50	1	100	49.0	3	天井金具・SUS製ベントキャップ (φ175) 共	
—	ベントキャップ	防虫網付						2	φ200	



1階改修後平面図 S=1/100



特記事項		(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事8丁目8-10 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 真也 一級建築士 大臣登録第223559号	工 事 名 称 行橋市消防庁舎車庫改修工事	図 面 名 称 改 修 後 矩 形 図	縮 尺 S=1/30	製 図 年 月 日	2020年08月		M-04
						所 長	検 図	作 図	

電 気 設 備 工 事 特 記 仕 様 書

I. 工 事 名 称 行橋市消防庁舎車庫改修工事 工事

II. 工 事 概 要

1. 総合発注の有無 本工事は、以下の工事を含む。（詳細は、図面参照のこと）

・ 建築工事

・ 機械設備工事

・

2. 工 事 場 所 福岡県行橋市中央1丁目9番9号

3. 建 物 概 要

建 物 名 称	構 造	階 数	延面積（㎡）	防火対象物の種別	備 考
消防庁舎 既存車庫部分	S造	2階	315.59	1 5 項	
消防庁舎 車庫増築部分	C B造	1階	73.50	1 5 項	

4. 工 事 種 目 （○印を付けたものを適用する）

建 物 別	工 事 種 別				備 考
工 事 種 目	消防庁舎			屋 外	
○電 灯 設 備	改修 一式	一式	改修 一式		
・ 動 力 設 備	一式	一式	一式		
・ 避 雷 設 備	一式	一式	一式		
・ 受 変 電 設 備	一式	一式	一式		
・ 静 止 形 電 源 設 備	一式	一式	一式		
・ 発 電 設 備	一式	一式	一式		
・ 構内情報通信設備	一式	一式	一式		
・ 構 内 交 換 設 備	一式	一式	一式		
・ 情 報 表 示 設 備	一式	一式	一式		
・ 映 像 ・ 音 響 設 備	一式	一式	一式		
○ 拡 声 設 備	改修 一式	一式	一式		
・ 誘 導 支 援 設 備	一式	一式	一式		
・ 呼 出 し 設 備	一式	一式	一式		
・ テ レ ビ 共 同 受 信 設 備	一式	一式	一式		
・ 防 犯 設 備	一式	一式	一式		
○ 自 動 火 災 報 知 設 備	改修 一式	一式	一式		
・ 中 央 監 視 制 御 設 備	一式	一式	一式		
・ 遠 隔 量 水 器 設 備	一式	一式	一式		
・ デ マ ン ド 監 視 ・ 制 御 設 備	一式	一式	一式		
・ 太 陽 光 発 電 設 備	一式	一式	一式		
・ 構 内 配 電 線 路	一式	一式	一式		
・ 構 内 通 信 線 路	一式	一式	一式		
	一式	一式	一式		
○ 撤去工事	一式	一式	一式		

III. 工 事 仕 様

1 適用仕様等

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の仕様書による。
(1)「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編 平成31年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(2)「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編 平成31年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(3)「公共建築工事標準仕様書（建築工事編 平成31年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(4)「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編 平成31年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(5)「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編 平成31年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(6)「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編 平成31年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(7)「公共住宅建設工事共通仕様書（平成28年版）」 国土交通省住宅局住宅総合整備課監修
年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。
ただし、改定内容で発注仕様の変更又は工事価格の変更が生じる場合は、県担当者と協議すること。

2 補足基準等

適用仕様等、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の基準、指針、要領、標準等による。
(1)「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編 平成31年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(2)「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編 平成31年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
(3)「建築工事標準詳細図（建築工事編 平成28年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
(4)「電気設備工事監理指針（令和元年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(5)「機械設備工事監理指針（令和元年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(6)「建築工事監理指針（令和元年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(7)「建築改修工事監理指針（令和元年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(8)「建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」 独立行政法人 建築研究所監修
(9)「建築工事安全施工技術指針・同解説」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
(10)「建設廃棄物処理指針」 厚生労働省生活衛生局
(11)「建築物解体等に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル」 環境省大気保全局（環境省アスベスト飛散防止対策研究会）
(12)「建築工事の手引き」 福岡県建築都市部編集
年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。
ただし、改定内容で発注仕様の変更、又は工事価格の変更が生じる場合は、県担当者と協議すること。

3 特 記 仕 様

(1) 項目は、○印のついたものを適用する。
(2) 特記事項のうち選択する事項は、○印のついたものを適用する。

項 目

1 機 材

2 電 気 工 作 物

3. 電 気 保 安 技 術 者

4 工事に必要な資格
(建設業法に関するものを除く)

5. 官公庁その他への手続き

6 工 事 用 電 力 ・ 水
その他

7. 残 土 処 分

8 他工事との取合い

9 再 使 用 機 器

10 耐 震 施 工

11. 合成樹脂製可とう
電 線 管

12 プレート材質

13. フロアプレート

14. ハイテンション

15. 露出配管等の塗装

16. 呼 び 線

17. 表 示

18. 地中線埋設シート

19. 地 中 埋 設 機

20. 地 中 埋 設 配 管
(G L＝600mmの場合)

特 記 事 項

この工事に使用する機材は、監督職員の承認を受ける。
なお、材料及び製品については、地域産材の使用に努めること。
また、機材の選定に当たっては、グリーン購入法に適合したものを優先すること。

・ 一般用電気工作物 ○ 事業用電気工作物

電気工作物に係る工事においては、電気保安技術者を置くものとする。

○ 第1種電気工事士 ・ 第2種電気工事士（もしくは上位資格）
・ 特種電気工事資格者（非常用予備発電装置） ・ 工事担任者 第 種（もしくは上位資格）

○ 消防設備士甲種 4類 ・ あと施工アンカー 第 種施工士（もしくは上位資格）

この工事に必要な官公署その他の関係機関への諸手続等は、これに必要な資機材、労務、及び費用を請負者の負担にて速やかにおこない、その検査に合格すること。

本工事に必要な工事用電力（仮設電力及び試運転調整用電力等を含む）・水及び諸手続等の費用は、すべて請負者の負担とする。

・ 構内指示の場所に数均し ・ 構内指示の場所に堆積 ・ 構外搬出適切処理

・ 施工区分表による ○ 図面詳細による

取外し再使用機器は、原則として清掃並びに絶縁抵抗測定を取外し前後で行った後、取り付けること。
但し、絶縁劣化等再使用に耐えない場合は、監督職員に報告すること。
設備機器の固定は、すべて「建築設備耐震設計・施工指針」（2014年版）によるものとする。
(1) 設計用標準震度 (Ks)
機器毎の耐震安全性の分類及び設置場所により下表より求める。

設 置 場 所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
上 層 階、 屋上及び塔屋	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
	2.0 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)
中 間 階	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

() 書きの数値は防振支持の機器の場合に適用する。

(2) 耐震安全性の分類 ○ 特定の施設 ・ 一般の施設

(3) 地域係数 (Z) 地域係数 (Z) は、1.0とする。

環境対応型合成樹脂製可とう管（P F管）の一言管とする。なお、打込配管として使用する場合、原則として呼び径を22までとする。
また鉄筋等への結束には樹脂被覆を施したバンド線を用いること。

○ 金属製（防水形配線器具を除く） ・ 樹脂製

ベースは、水平高低調整付（空転防止リング付）とする。 ・ 砲金製 ・ アルミ製

・ 上下動形 ・ 外部固定形 ・ 内部固定形

屋内においては特記がなければ、F☆☆☆☆製品とし、屋外においても低VOC塗料の使用に努めること。

長さ 1 m 以上の入線しない電線管には電線太さ 1. 2mm 以上の樹脂被覆鉄線を挿入する。

スイッチ・コンセント及びプルボックスで用途の判別し難いものは、表示する。

地下埋設の線路には、標識シートを2倍長以上重ね合わせて布設するものとする。

電力用（矢指色：赤色） ・ 樹脂製 ・ コンクリート製 ・ 鉄製

通信用（矢指色：黄色） ・ 樹脂製 ・ コンクリート製 ・ 鉄製

・ 根切り深さが1.5m未満の場合は直堀工法とし、1.5m以上の場合には法付工法とする。
法付工法の法幅は、根切り深さに0.3を乗じたものとする。

・ 床掘幅は、埋設管類などの外径（底面）の寸法にゆとり幅×2を加えたものとする。
ゆとり幅（a）及び埋設管相互の間隔（b）は、下表を参照のこと。

3 3 建築副産物の処理について

資源の有効利用・環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制・再利用・適正処理を推進する。

現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。

また、「再生資源の利用の促進に関する法律」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。

工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。

指定副産物（原則として、再資源化施設へ持込むもの）	その他の副産物
・ が れ き 類 (コンクリート塊) (アスファルト コンクリート塊) ・ 木 く ず ・ 建 設 発 生 土 ・ 汚 泥	○ 廃 プ ラ ス チ ッ ク ○ ガラス・陶磁器くず ・ 廃 石 こ う ボ ー ド ○ 金 属 く ず ・ 織 機 く ず

特別管理産業廃棄物

・ 廃 石 綿 等
「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」（環境省大気保全局）に従い、収集・運搬・処分を行うこと。

○ 廃 P C B 等
「電気事業法：電気関係報告規則」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・届出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。

※ 参考受入場所は、現場説明書による。
建築副産物の処理内容

処 理 内 容	備 考
現場内における分別	
現場内分別保管場所の設置	
現場内分別保管場所までの運搬	
分別保管場所からの積み込み・運搬・処分	
「建設副産物の処置計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要

○ 廃蛍光灯および廃水銀灯は、水銀使用製品産業廃棄物として処理すること。

・ 停電を伴う工事は、施設管理者と事前協議を十分した上で実施すること。

○ 施工の際は、分電盤対象回路を遮断すること。

・ 建築足場等により、自動点滅器が影に入る場合は、必要に応じて仮設措置を行うこと。

工 事 名 称 行橋市消防庁舎車庫改修工事

図 面 名 称 電気工事 特記仕様書

縮 尺 S=NS

製 図 年 月 日 2020年 8月

所 長 検 図 作 図

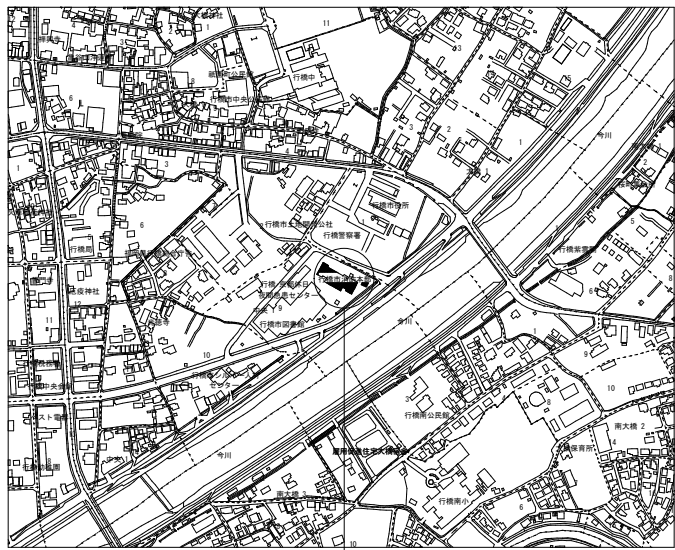
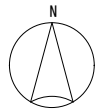
E-01

（株）エム・ビー・アイ
みやこ営業所
福岡県行橋市行事8丁目8-10
TEL 0930-26-1101

一級建築士事務所
福岡県知事登録第1-20757号
代表取締役 松尾 真也
一級建築士 大臣登録第223559号

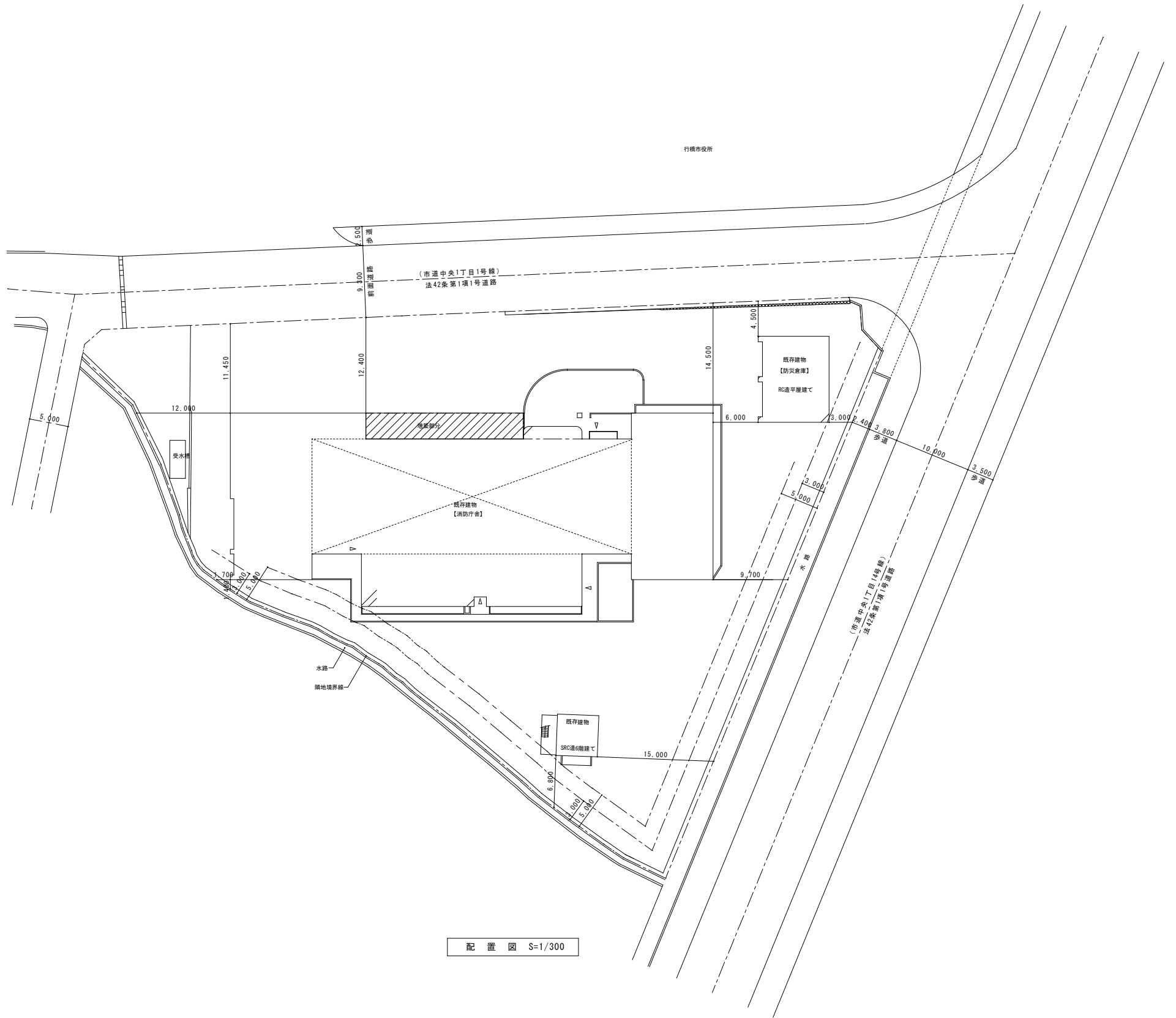
工 事 名 称 行橋市消防庁舎車庫改修工事

特記仕様書



福岡県行橋市中央1丁目9番9号

案内図 No. Scale



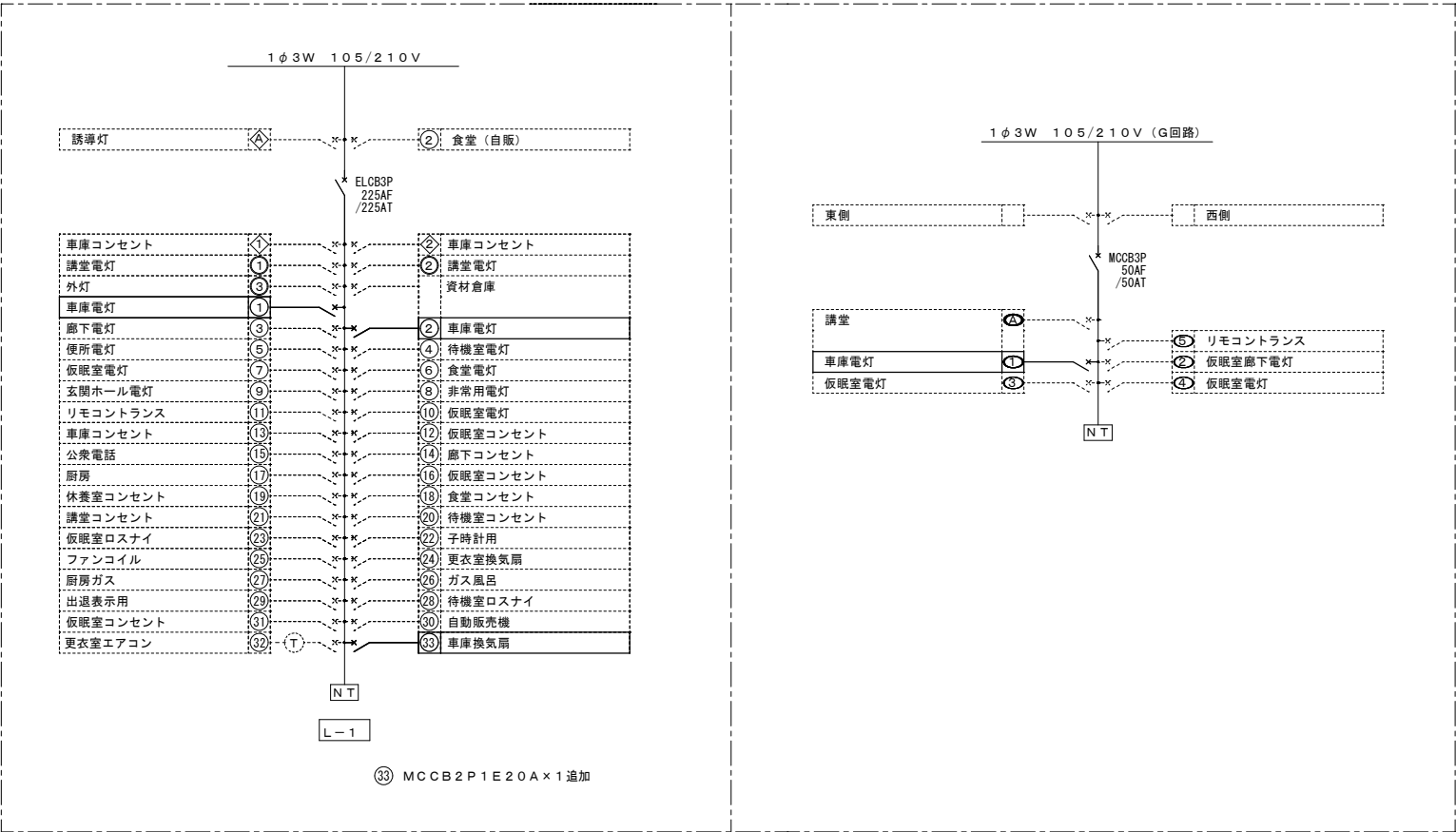
配置図 S=1/300

特記事項		(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事8丁目8-10 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 真也 一級建築士 大臣登録第223559号	工 事 名 称 行橋市消防庁舎車庫改修工事	図 面 名 称 案内図・配置図	縮 尺 S=1/300	製図年月日	2020年08月		E-02
						所 長	検 図	作 図	

照明器具姿図

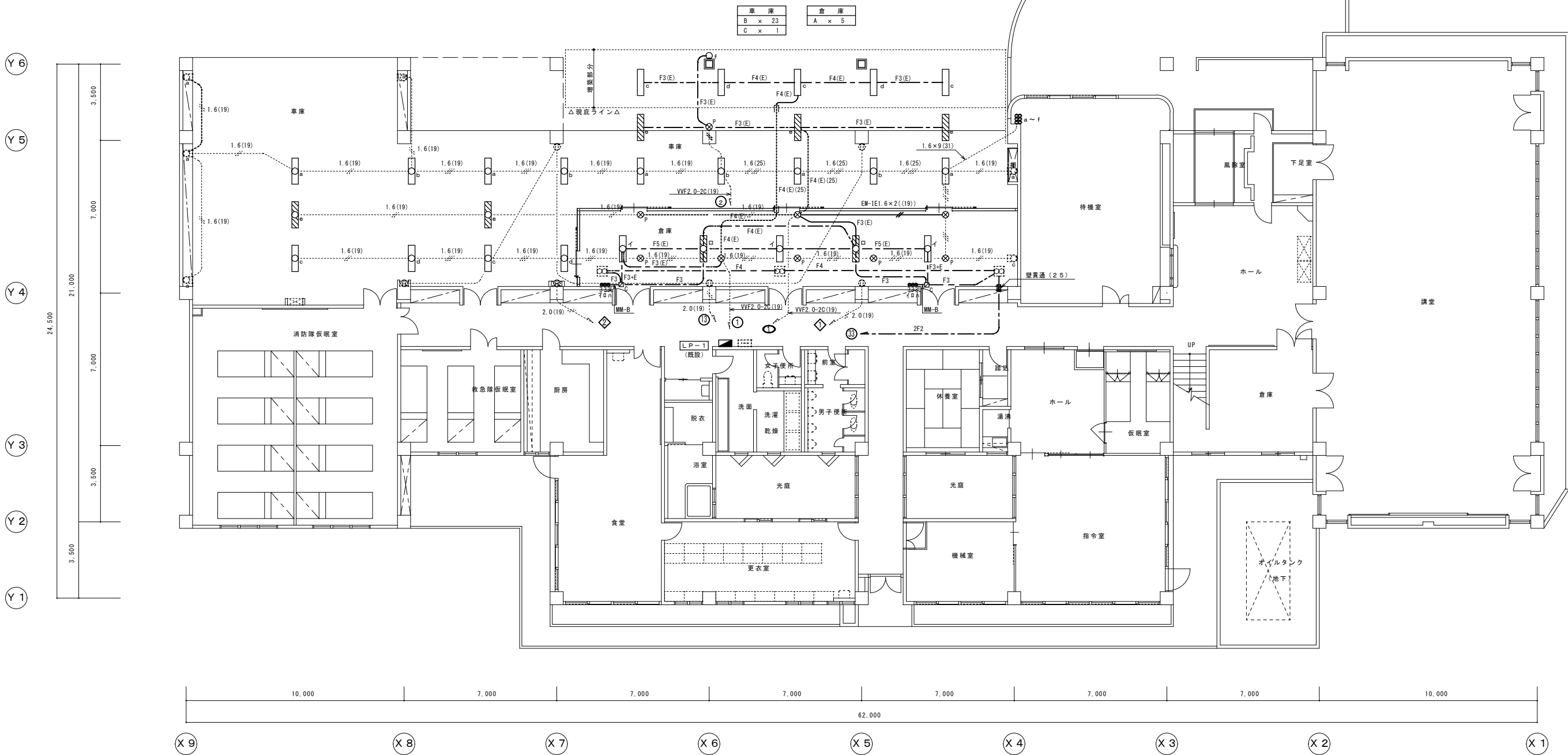
A	LSS9-4-65	B	LSS9MP/RP-4-64	C	LED 赤色表示灯 防雨型
(新設)		(新設)		(新設)	
					
				予備電池別置型	
a	V型直付 FL40W-2	b	白熱球 赤色表示灯 防雨型		
(撤去)		(撤去)			
					
		予備電池別置型			

凡例表		1. 図中特記無き配線サイズは下記による。		
記号	名 称	記 号	配 線	備 考
	電灯分電盤 (既設)	a. 電灯設備		
	LED灯 (天井灯)	F3	EM-EEF 1. 6-3C	
	LED灯 (天井灯) 免電機回路	F3(E)	EM-EEF 1. 6-3C (E1C)	
	LED赤色表示灯	F4(E)	EM-EEF 1. 6-2C×2 (E1C)	
	埋込ケーブルスイッチ (新金属プレート) 3W15A×2+3W15A×1 (0N表示)	F5(E)	EM-EEF 1. 6-2C+3C (E1C)	
	差動式漏電感知器	F3+E	EM-EEF 2. 0-3C+1E1. 6	
	差動式漏電感知器	2F2	EM-EEF 2. 0-2C	
	壁掛型スピーカー 3W	b. 弱電設備		
	無線通信ユニット	AE	EM-AE 1. 2-3C	
	ジョイントボックス	AE	EM-AE 1. 2-4C	
	フラッシュプレート (金属製)	AE(19)	EM-AE 1. 2-4C (C19)	
	換気扇 (別途機械工事)			
	ケーブルの防火区画貫通部処理 金属管用 (25)			
	撤去	既設配線凡例		
	配管は既設流用	記 号	配 線	備 考
	天井コログアシ配線	1.6(19)	1V 1. 6×2 (19)	
	露出配線	1.6(19)	1V 1. 6×3 (19)	
	既設配線	1.6(25)	1V 1. 6×5 (25)	
		2.0(19)	1V 1. 2×2 (19)	
			1V 1. 2×2 (19)	
			1V 1. 2×3 (19)	
			1V 1. 2×4 (19)	



電灯分電盤 LP-1 (既設)

: 工事対象回路



特 記 事 項		(株) エム・ピー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事8丁目8-10 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 真也 一級建築士 大臣登録第223559号	工 事 名 称	行橋市消防庁舎車庫改修工事 改 修 後 電灯・コンセント設備 1階平面図	縮 尺	S=1/100	製図年月日	2020年08月		E-04
	所 長						検 図	作 図		

Y 6

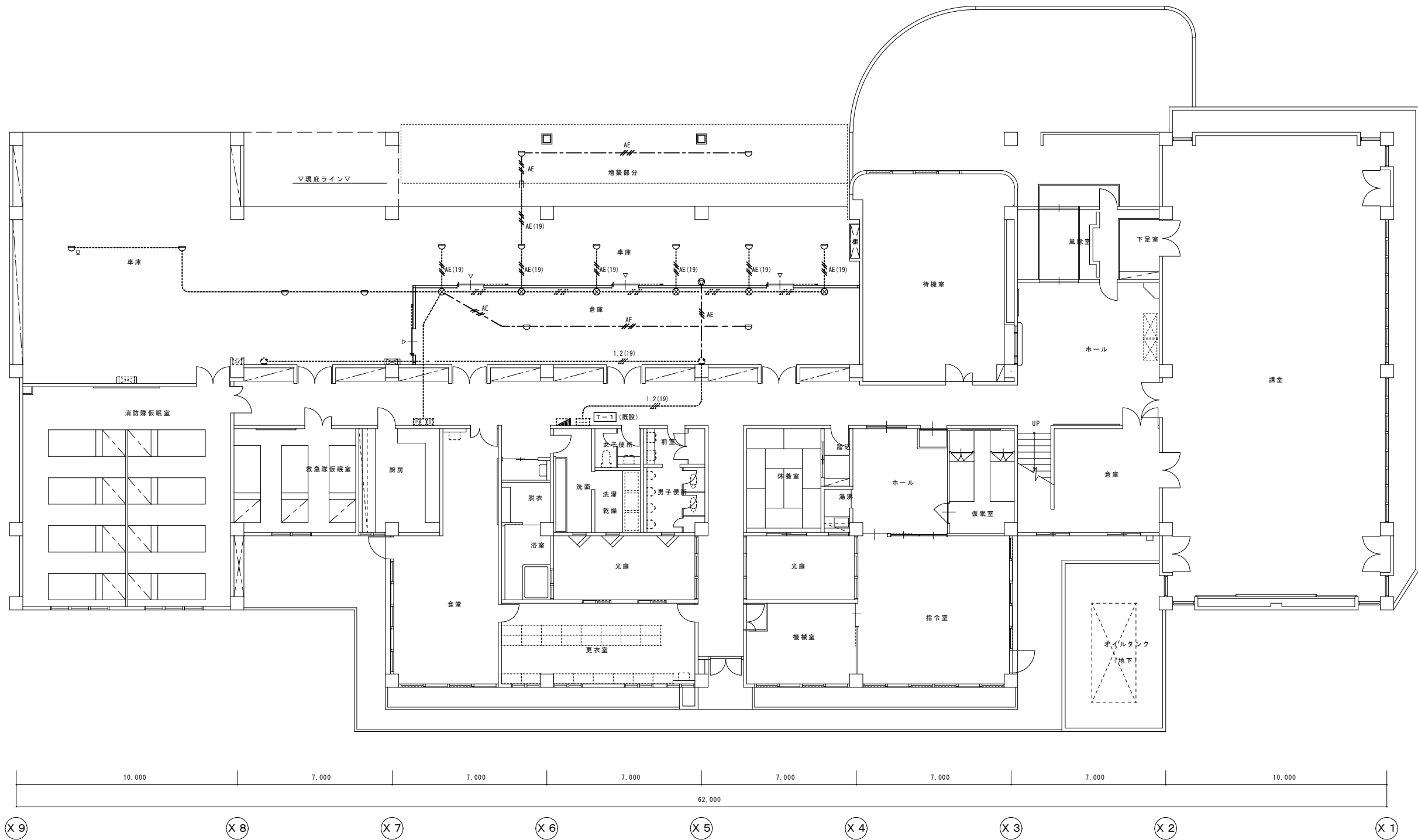
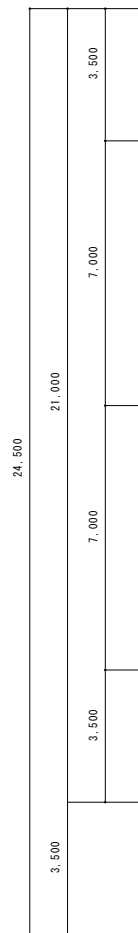
Y 5

Y 4

Y 3

Y 2

Y 1



1階 改 修 後 平 面 図 S=1/100

特記事項		(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事8丁目8-10 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 真也 一級建築士 大臣登録第223559号	工 事 名 称 行橋市消防庁舎車庫改修工事	図 面 名 称 改 修 後 弱電設備 1階平面図	縮 尺 S=1/100	製図年月日	2020年08月		E-05
						所 長	検 図	作 図	

Y 6

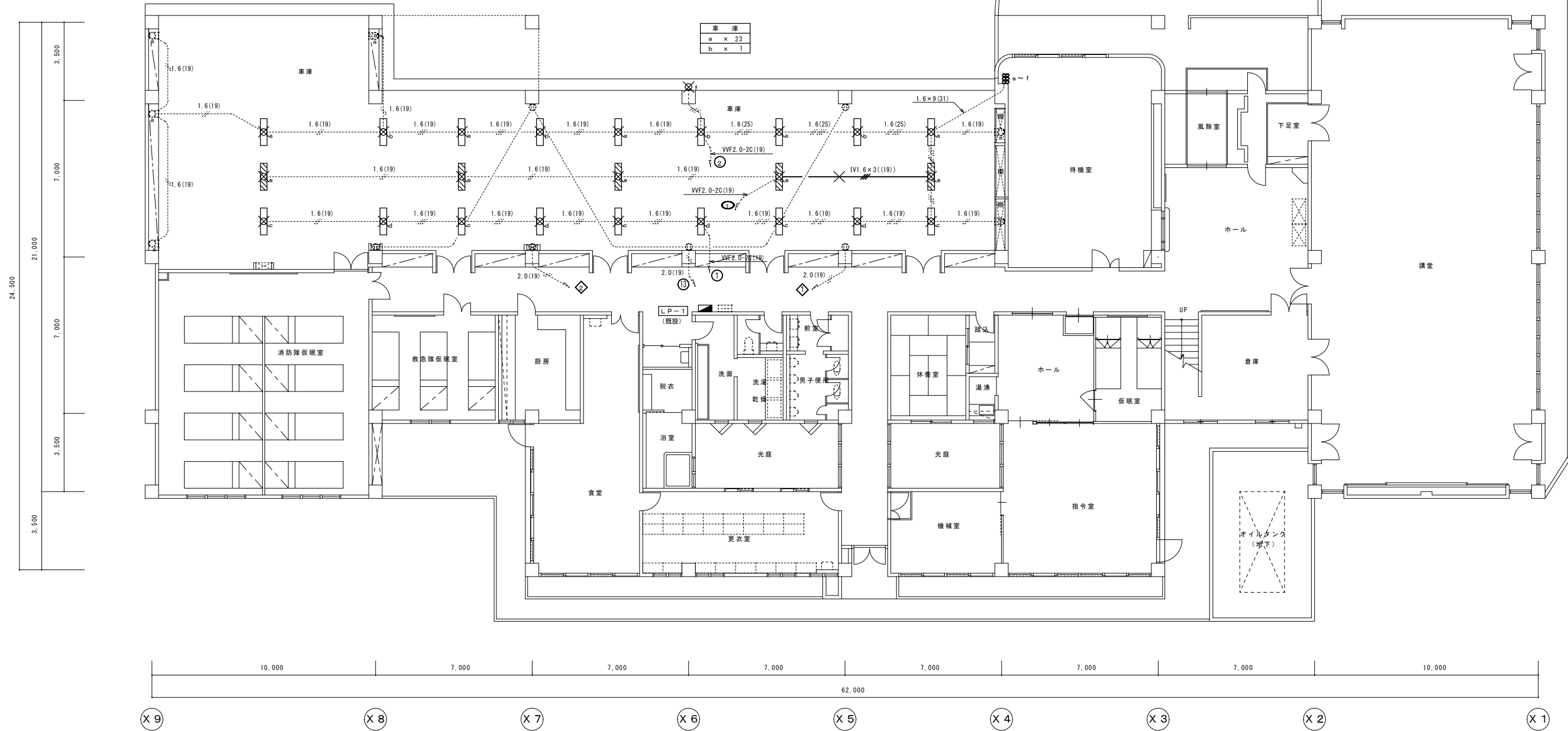
Y 5

Y 4

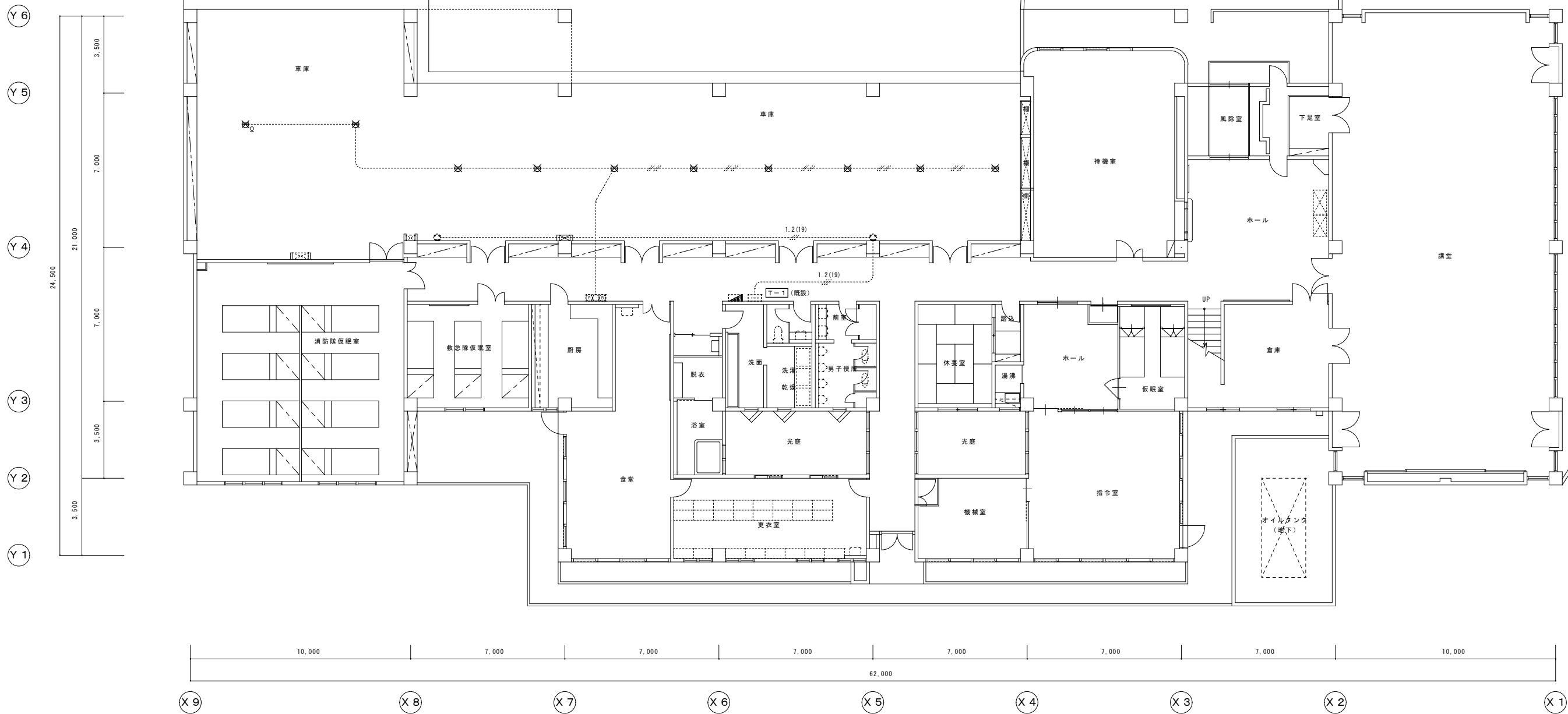
Y 3

Y 2

Y 1



1階 改修前平面図 S=1/100



1階 改修前平面図 S=1/100

特記事項		(株) エム・ビー・アイ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20757号 福岡県行橋市行事8丁目8-10 TEL 0930-26-1101 代表取締役 松尾 真也 一級建築士 大臣登録第223559号	工 事 名 称 行橋市消防庁舎車庫改修工事	図 面 名 称 改 修 前 弱電設備 1階平面図	縮 尺 S=1/100	製図年月日	2020年08月		E - 07
						所 長	検 図	作 図	